

# 救急業務高度化推進に関する部会

## 議題③

### 救急隊活動に係るプロトコル及び検証ガイドライン等の 改正について

#### 審議事項

- 1 「心肺停止前傷病者に対するプロトコル」の名称改正について
- 2 「CPRのプロトコル」の名称改正について
- 3 「初期対応基本プロトコル」（成人疾病版・小児疾病版・外因版・外傷版）の改正について
- 4 令和2年度救急救命士再教育ガイドラインに示す教育項目の履修の特例措置について
- 5 MC協議会検証ガイドライン「傷病者の搬送と受入実施基準検証票（様式4）」の改正について（10月1日運用開始分）
- 6 MC協議会検証ガイドライン「傷病者の搬送と受入実施基準検証票（様式4）」の改正について（12月初旬運用開始分）
- 7 MC協議会検証ガイドライン「検証票（様式1）」の改正について

# 資料

## <審議事項>

### 1 「心肺停止前傷病者に対するプロトコル」の名称改正について

【資料3-1-1】心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

【資料3-1-2】心肺停止前傷病者に対するプロトコル（案）

### 2 「CPRのプロトコル」の名称改正について

【資料3-2-1】CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

【資料3-2-2】CPA傷病者に対するプロトコル（案）

### 3 「初期対応基本プロトコル」の改正について

【資料3-3-1】初期対応基本プロトコル 新旧対照表

【資料3-3-2】初期対応基本プロトコル（案）

### 4 令和2年度救急救命士再教育ガイドラインに示す教育項目の履修の特例措置について

【資料3-4-1】令和2年度救急救命士再教育に関する調査結果（集計）

【資料3-4-2】令和2年度救急救命士再教育履修の特例措置について（案）

【資料3-4-3】令和2年度救急救命士再教育ガイドラインに示す教育項目の履修の特例措置について（通知）（案）

### 5 MC協議会検証ガイドライン「傷病者の搬送と受入実施基準検証票（様式4）」の改正について（10月1日運用開始分）

【資料3-5-1】傷病者の搬送と受入実施基準検証票（10月1日運用開始分）（新旧対照表）

【資料3-5-2】傷病者の搬送と受入実施基準検証票（10月1日運用開始分）（案）

### 6 MC協議会検証ガイドライン「傷病者の搬送と受入実施基準検証票（様式4）」の改正について（12月初旬運用開始分）

【資料3-6-1】傷病者の搬送と受入実施基準検証票（12月初旬運用開始）（新旧対照表）

【資料3-6-2】傷病者の搬送と受入実施基準検証票（12月初旬運用開始）（案）

### 7 MC協議会検証ガイドライン「検証票（様式1）」の改正について

【資料3-7-1】検証票（新旧対照表）

【資料3-7-2】検証票（案）

【資料3-7-3】救急・ウツタイン様式調査における次期統計調査システムの変更について（国通知文）

## ◆ 1 「心肺停止前傷病者に対するプロトコル」の名称改正

- ✓ 「心肺停止前」の傷病者に対する従前からある4つの特定行為等のプロトコルの名称を改正する
- ✓ 「どのような傷病者」に対して「どの特定行為」を実施するのかを明確にする
- ✓ それらの総称を「心肺停止前傷病者に対するプロトコル」とし、中分類に「特定行為に係るプロトコル」と「各種プロトコル」に分ける
- ✓ 各プロトコルの相関関係を明確化する

### 改正前

- ・ショックのプロトコル
- ・クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル
- ・意識障害のプロトコル
- ・エピペン®投与のプロトコル

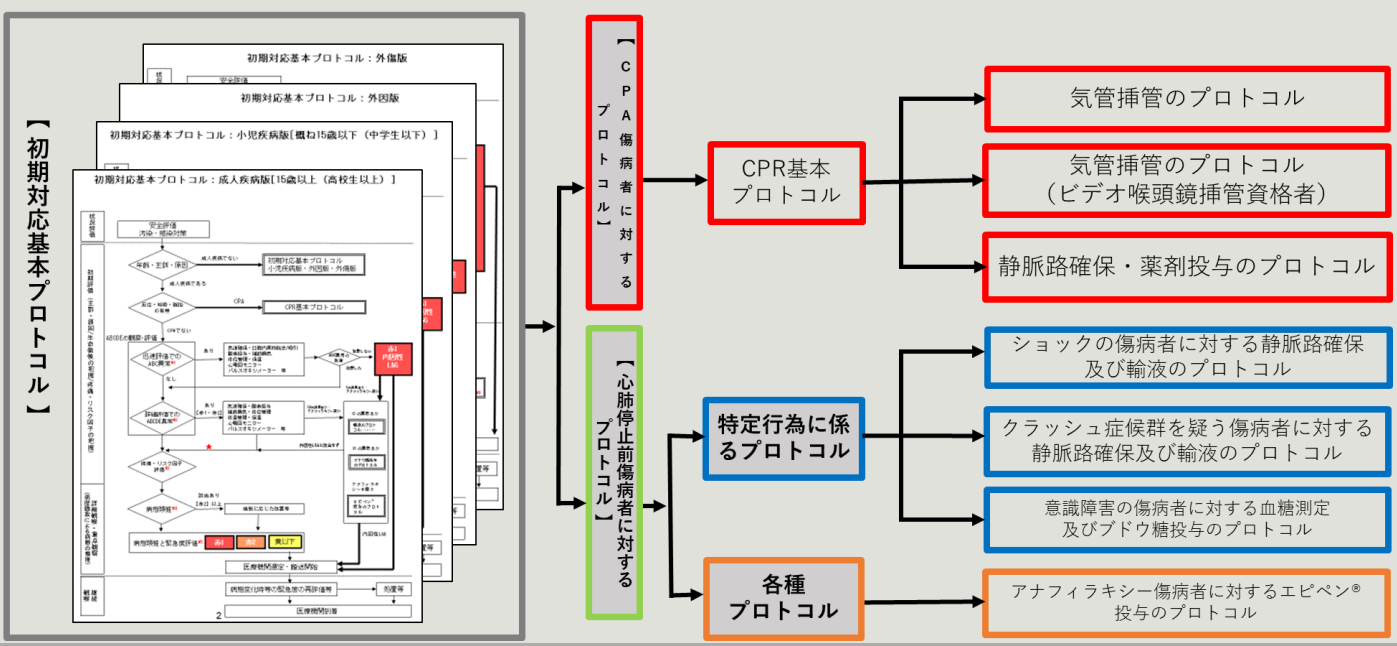


### 改正後

#### 【心肺停止前傷病者に対するプロトコル】

- ・ショックの傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル  
【輸液のプロトコル(ショック)】
- ・クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル  
【輸液のプロトコル(クラッシュ)】
- ・意識障害の傷病者に対する血糖測定及びブドウ糖投与のプロトコル  
【ブドウ投与のプロトコル】
- ・アナフィラキシーの傷病者に対するエピペン® 投与のプロトコル  
【エピペン® 投与のプロトコル】

## (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成

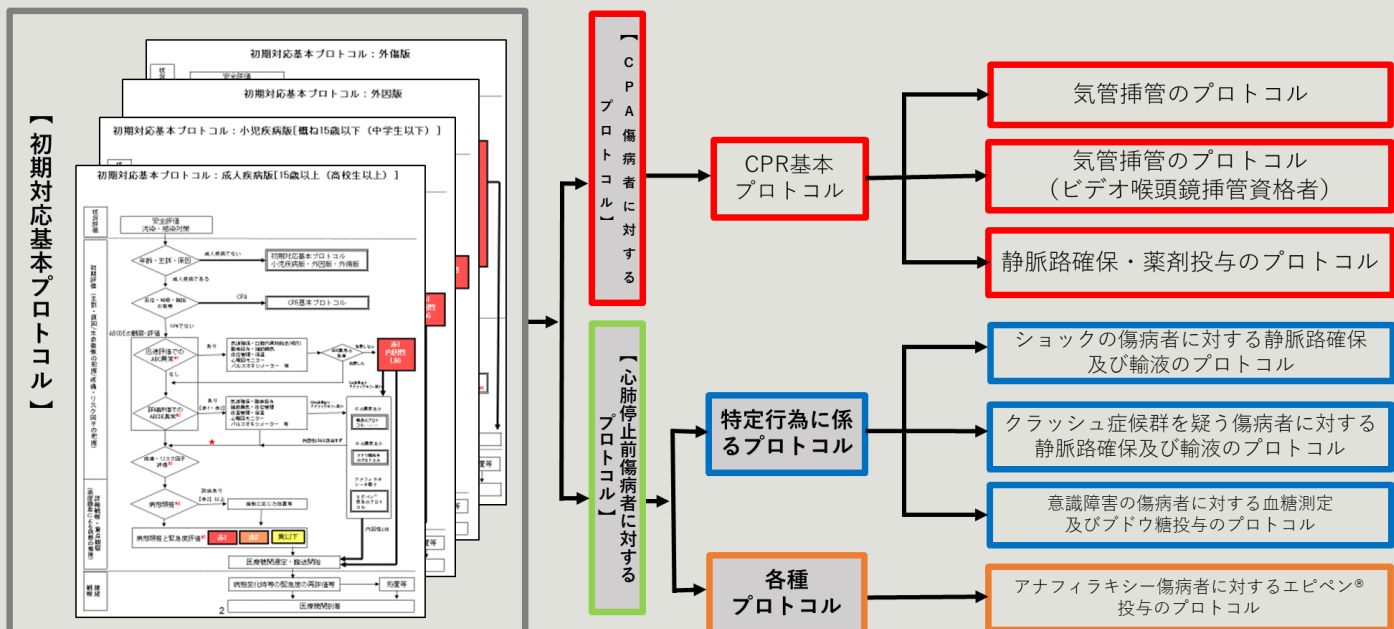


## ◆ 2 「CPRの protocols」の名称改正

- ✓ 「CPAの傷病者」に対する protocols である「CPRの protocols」を「CPA傷病者に対する protocols」に名称を改正する
- ✓ 「初期対応基本 protocols」から紐づく protocols の名称を「CPA傷病者」と「心肺停止前傷病者」とすることで明瞭化を図る
- ✓ 各 protocols の相関関係を明確化する



## (大阪府版) 病院前救護 protocols の構成



### ◆ 3 初期対応基本プロトコルの改正

- ✓ 「初期対応基本プロトコル」とは「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」に示している救急現場での観察、処置及び緊急度判定から病院選定までの流れを図式化したもの
- ✓ 4つのカテゴリに分類し、それらの総称を「初期対応基本プロトコル」とする
- ✓ 観察手順、緊急度判定指標等を改正される「実施基準」に合わせる
- ✓ 初期活動時における応急処置、そして必要に応じて各プロトコルへのフローを示す

#### 改正前

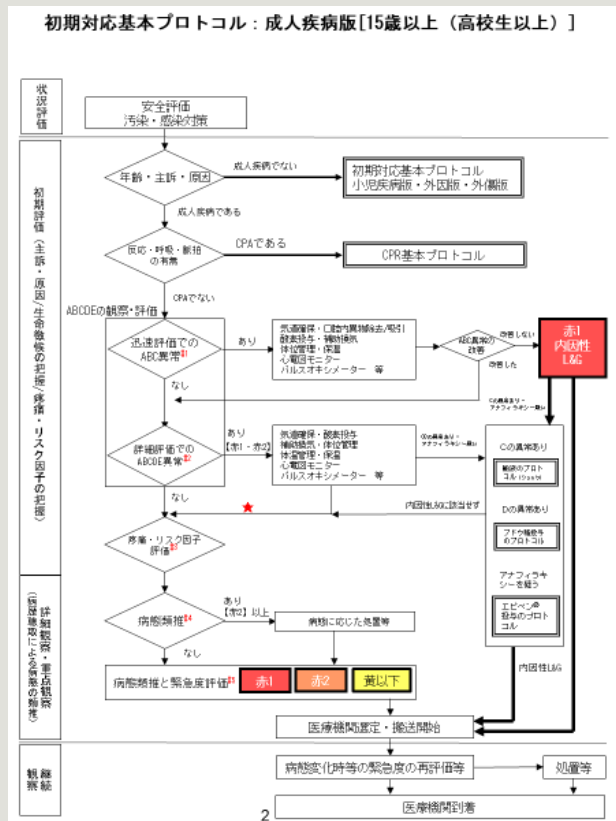
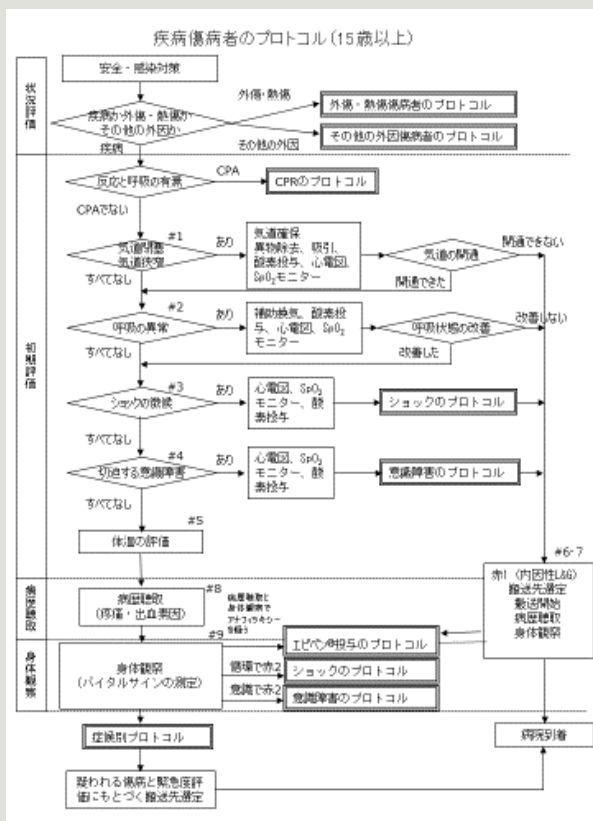
#### 改正後

- ・疾病傷病者のプロトコル
- ・小児疾病傷病者のプロトコル
- ・その他の外因傷病者のプロトコル
- ・外傷・熱傷傷病者のプロトコル

#### 【初期対応基本プロトコル】

- ・成人疾病版[15歳以上(高校生以上)]
- ・小児疾病版[概ね15歳以下(中学生以下)]
- ・外因版
- ・外傷版

【平成27年3月 策定】



## ◆ 4 令和2年度救急救命士教育ガイドラインに示す教育項目の履修の特例措置について

### ✓ 救急救命士再教育ガイドラインとは

救急救命士の再教育は病院前救護に必要な医学的な知識と技能の維持に努め、医療職種の一員として資質の向上を図ることを目的とする。そのため、大阪府では救急救命士に対する再教育ガイドラインを定め、各地域においてはそれに従い再教育を実施している。本ガイドラインでは病院実習等の教育項目を2か年度で合計128単位の取得を必要としている。

### ✓ 新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受けて、救急救命士再教育ガイドラインに示す教育項目の、病院実習、集中講義、症例検討会等が当初予定しているものより実施できない状況にある(令和2年6月に府内消防本部に対して調査実施)

### ✓ 上記により、令和2年度に限り、下記のとおり特例措置を設ける

消 保 第 号 令 和 2 年 月 日
各地域(救急)MC協議会会長 様
大阪府救急医療対策審議会 救急業務高度化推進に関する部会 部 会 長 加納 康至
令和2年度救急救命士再教育ガイドライン に示す教育項目の履修の特例措置について(通知)
平素から本府救急行政につきまして、御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。 さて、救急救命士の再教育は病院前救護に必要な医学的な知識と技能の維持に努め、医療職種の一員として資質の向上を図ることを目的としています。そのため、大阪府では救急救命士に対する再教育ガイドラインを定め、各地域においてはそれに従い再教育を実施しているところですが、しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は本ガイドラインに示す教育項目にある、病院実習及び症例検討会等が各地域において例年に比べて実施できない状況にあります。 つきましては、今年度に限り病院実習64単位及び症例検討会等の必須15単位を含む2か年度で128単位の取得について、下記のとおり特例措置とします。 ただし、再教育の重要性を鑑み、多様な形態の再教育を試みるなど、救急救命士の質の維持に努めるようお願いいたします。 なお、府内消防本部に対しても、同様の内容を発出させていただきます。
記
令和2年度を含む128単位の取得は(1)又は(2)とする (1)今年度を含む前後3か年度で所得すること ※平成31年4月1日から令和4年3月31日の3年間の128単位の取得とする。  (2)今年度から3か年度で所得すること ※令和2年4月1日から令和5年3月31日の3年間の128単位の取得とする。

**令和2年度を含む128単位の取得は(1)又は(2)とする**

**(1)今年度を含む前後3か年度で所得すること**  
※平成31年4月1日から令和4年3月31日の3年間の128単位の取得とする。

**(2)今年度から3か年度で所得すること**  
※令和2年4月1日から令和5年3月31日の3年間の128単位の取得とする。

**※救急救命士によって、履修開始等が違うため(1)又は(2)とする**

# ◆ 5 「MC協議会検証ガイドライン」の「傷病者の搬送と受入実施基準検証票」の改正（10月1日改正分）

- ✓ 「MC協議会検証ガイドライン」とは、「実施基準」を基に平成30年度に作成し、救急隊の活動と搬送と受入れの事後検証をするためのガイドラインである
- ✓ 「傷病者の搬送と受入実施基準検証票」とは救急隊の医療機関選定や医療機関の受入れ等について、事後検証するための様式である。
- ✓ 毎月各地域MC協議会で実施している「実施基準検証会議」からの意見等を集積しており、10月1日のオリオンの更改に合わせて「実施基準検証票」を改正する
- ✓ 主な改正項目
  - ・行を増加
  - ・0歳児の月齢を表記
  - ・救急隊の緊急度判定した日時を表記
  - ・特定機能判定結果及び科目判定結果を表記
  - ・医療機関選定理由「評価せず」削除
  - ・救急隊員が病院に連絡した日時を表記
  - ・要介護区分を表記

改正：0歳児は月齢追加

(案)改正後(10月1日運用開始分) ※改正箇所は朱書き

改正：今回新たに項目追加

様式4

## 傷病者の搬送と受入実施基準検証票

系統-事業番号	〇〇〇	消防隊自No	〇〇
消防本部名	〇〇消防	救急隊名	〇〇救急隊
発生年月日	〇年〇月〇日	年齢	0歳0月 性別 男
発症時刻	23時 50分	経過時間(発症から)	
搬送時刻	23時 53分	搬送到着まで	3分
受入時刻	0時 15分	搬送出発まで	22分
到着時刻	0時 25分	病院到着まで	10分

評価1(第1因子)生理学的徴候の検定		あり	なし	評価せず
●(疾病-外国人)重症感	気道の異常(気道の閉塞)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	気道の狭窄	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	いびき(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	ゴロゴロ音(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	気道異音(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	口呼吸の浮腫(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸の異常(気道-単独のみ)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	過度の努力呼吸	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	鼻呼吸	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	起坐呼吸	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	胸壁呼吸	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	腹式呼吸	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	気管の牽引	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	チアノーゼ	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸数>80回/min(6か月~1歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸数>40回/min(1歳~2歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸数>30回/min(2歳~4歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸数>25回/min(6歳以上)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸数<10回/min	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸SpO2(95%(酸素投与下))	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	呼吸SpO2(90%(酸素投与なし))	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	循環の異常(皮膚蒼白(第1補足因子))	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	皮膚発熱(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	皮膚発冷(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	腸鳴音聴知不可	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>100bpm(1歳~2歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>80bpm(2歳~4歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>70bpm(6歳以上)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>120bpm(6か月~1歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>160bpm(1歳~3歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>140bpm(3歳~6歳)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	脈拍>120bpm(6歳以上)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	制御不可能な外出血	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	意識障害JCS≥30(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	急な意識レベル低下(第1補足因子)	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	瞳孔の異常(瞳孔に異い(第1補足因子))	●	●	●
●(疾病-外国人)重症感	瞳孔に等しい	●	●	●

評価2(第1補足因子_第1段階)生理学的徴候の異常		あり	なし	評価せず
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	呼吸の異常(努力呼吸)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	とげれ上げれ(舌)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	吸気性喘鳴	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	SpO2(95%(酸素投与下))	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	SpO2(92%(酸素投与なし))	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	循環の異常(血圧<90mmHg)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	脈拍<120(分速)(1歳~3歳)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	脈拍<80(分速)(4歳~6歳)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	脈拍<70(分速)(6歳以上)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	停止可能な外出血(持続)	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	意識障害JCS≥20	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	GCS-13	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	体温35℃以下	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	体温40℃以上	●	●	●
●(疾病-外国小児)生理学的徴候	体温38℃以上で白血球数の疑い	●	●	●

評価3(第1補足因子_第2段階)病歴、疼痛、出血傾向、受傷機転		あり	なし	評価せず
●(外傷基本-原因)	農業従事	●	●	●
●(外傷基本-原因)	アスピリン大量服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	アセトアミノフェン大量服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	血腫陰下大量服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	強酸服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	強アルカリ服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	有害化学物質服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	防虫剤、殺菌剤服用	●	●	●
●(外傷基本-原因)	毒性のある食物服用	●	●	●

評価4(第2補足因子)症状・徴候		あり	なし	評価せず
●(外傷基本-解剖学的評価)	顔面の開放骨折/陥没骨折	●	●	●
●(外傷基本-13歳以上)	顔に疼痛	●	●	●

評価5		あり	なし	評価せず
●(外傷-評価)	救急隊員が病院に連絡した日時	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が搬送	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が到着	●	●	●

意識レベル判定結果	●	救急隊員が病院に連絡した日時	23時50分
特定機能判定結果	●	救急隊員が搬送	23時53分
科目判定結果	●	救急隊員が到着	0時25分

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

バイタル情報メモ		10分	20分	30分
JCS	100	100	100	100
JCS E	呼吸	24	24	24
JCS V	血圧(収縮期)	130	130	130
JCS M	SpO2	65%	65%	65%
	体温	38.4	38.4	38.4

成人患者観察(疾病)		あり	なし	評価せず
●(外傷基本-解剖学的評価)	顔面の開放骨折/陥没骨折	●	●	●
●(外傷基本-13歳以上)	顔に疼痛	●	●	●

評価4		あり	なし	評価せず
●(外傷-評価)	救急隊員が病院に連絡した日時	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が搬送	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が到着	●	●	●

評価5		あり	なし	評価せず
●(外傷-評価)	救急隊員が病院に連絡した日時	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が搬送	●	●	●
●(外傷-評価)	救急隊員が到着	●	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●

搬送履歴情報		あり	なし	要介護区分	必要○×
〇〇病院	搬送理由	●	●	〇/内科	●
〇〇病院(基)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(ソツライ)	搬送理由	●	●		
〇〇病院(OCU)	搬送理由	●	●		

患者情報		あり	なし
搬送先連絡回数	〇〇回	●	●
搬送先連絡内容	〇〇回	●	●
搬送先連絡日時	〇〇時	●	●





# ◆ 7 「MC協議会検証ガイドライン」の「検証票」の改正

- ✓ 「検証票」とは救急隊の現場活動について、事後検証するための様式である。
- ✓ 総務省消防庁が救急統計システム更改(令和3年1月1日運用)及び調査項目を一部改正するのに合わせて、「検証票」を改正する
- ✓ 改正項目
  - ・不搬送理由の改正

## 改正前

- ① 緊急性なし
- ② 傷病者なし
- ③ 拒否
- ④ 酩酊
- ⑤ 死亡
- ⑥ 現場処置
- ⑥ 誤報
- ⑦ その他



## 改正後

- ① 辞退(到着前)
- ② 辞退(到着後)
- ③ 拒否
- ④ 傷病者なし
- ⑤ 明らかな死亡
- ⑥ 他車(隊)搬送
- ⑥ 誤報・いたづら
- ⑦ その他

### (案) 改正後

〇〇消防本部(局)

検 証 票		決裁
発知日 年 月 日 発知 時 分 出場 時 分 到着 時 分 救命士 <input type="checkbox"/> 有( 人 ) ( <input type="checkbox"/> 隊長 <input type="checkbox"/> 機関員 <input type="checkbox"/> 隊員 ) <input type="checkbox"/> 無 接触 時 分 車内収容 時 分 現差 時 分 病院着 時 分 <input type="checkbox"/> 搬送 <input type="checkbox"/> 不搬送 搬送理由 <input type="checkbox"/> 辞退(到着前) <input type="checkbox"/> 他車(隊)搬送 <input type="checkbox"/> 明らかな死亡 <input type="checkbox"/> 拒否 <input type="checkbox"/> 辞退(到着後) <input type="checkbox"/> 誤報・いたづら <input type="checkbox"/> 傷病者なし <input type="checkbox"/> その他 連携活動: <input type="checkbox"/> 他救急隊 <input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救助隊 <input type="checkbox"/> 医師要請 <input type="checkbox"/> ドクターカー <input type="checkbox"/> ヘリ <input type="checkbox"/> その他 ( ) 救急指令内容 口頭指導: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( <input type="checkbox"/> 指令員 <input type="checkbox"/> 救急隊 ) 内容: <b>改正箇所</b>		
出場先概要: _____ 才 男・女		
医療機関選定理由 選定経過 ( ) 選定時間 ( 分 ) 搬送先 市区 科目 医療機関別		
初診時傷病名 ( ) 確定傷病名 ( ) 傷病程度 <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重症 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> その他		
現場携行資器材 <input type="checkbox"/> 気道確保器材 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> バッグマスク <input type="checkbox"/> バックボード <input type="checkbox"/> ストレッチャー <input type="checkbox"/> 創傷処置資器材 <input type="checkbox"/> AED/AES/AES-D <input type="checkbox"/> 心電計 <input type="checkbox"/> 血圧計 <input type="checkbox"/> 除細動器 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
傷病者接触情報 現場状況 主訴または主症状 発症概要(現病歴)		
通院中病院 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(病院名: _____) 病名: _____ 既往歴 ( ) ADL <input type="checkbox"/> 機能良好 <input type="checkbox"/> 中等度障害 <input type="checkbox"/> 高度障害 <input type="checkbox"/> 不明		
<b>傷病者接触時所見</b> 意識: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> JCS _____ GCS(E _____ V _____ M _____) 呼吸状態: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 努力様 <input type="checkbox"/> 起坐 <input type="checkbox"/> 奇臭 <input type="checkbox"/> 下顎 呼吸数: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 緩徐 <input type="checkbox"/> 頻 回数( 回/分 ) 呼吸音: <input type="checkbox"/> 調へず 左右差 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(右>左) 喘鳴: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 脈拍: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 微弱 <input type="checkbox"/> 触知不能 数 _____ 回/分 <input type="checkbox"/> 整 <input type="checkbox"/> 不整( 雑音・大動・頻 ) 血圧: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 測定不能 右 ( / mmHg) 左 ( / mmHg) 体温: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 測定不能 _____ °C		

様式 1

瞳孔: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 観察不能 右 _____ mm 左 _____ mm 対光反射: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 観察不能 右( + ± - ) 左( + ± - ) 共同偏視: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 無 右方 <input type="checkbox"/> 左方 頭部原悪悪: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 無 麻痺: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 外出血: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 皮膚: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 痙攣 <input type="checkbox"/> 乾燥 <input type="checkbox"/> 蒼白 <input type="checkbox"/> 紅潮 <input type="checkbox"/> チアノーゼ <input type="checkbox"/> 冷感 <input type="checkbox"/> 冷汗 眼結膜: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 結血 <input type="checkbox"/> 黄疸 顔面顔色: _____ % 気道熱傷: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 疑い( ) 四肢変形: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 臭気: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( ) 嘔吐: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 痙攣: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( ) SpO2: <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 測定不能 _____ % ( ルームエアール・酸素 _____ L下 ) 心電図: (装着時刻 _____) <input type="checkbox"/> 調へず <input type="checkbox"/> 記録不能 心電図: ( _____ ) その他所見 _____ _____ _____	
<b>現場応急処置</b> 気道確保: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> 用手 <input type="checkbox"/> アライ <input type="checkbox"/> 特定器具 ) 酸素投与: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( L/分 ) → 投与方法 <input type="checkbox"/> ネギバ <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 経鼻 <input type="checkbox"/> 付きかけ <input type="checkbox"/> その他 ( ) 人工呼吸: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> バック <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他: _____ ) その他: _____	
<b>車内収容後の観察・判断・応急処置</b> ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤瞳孔 ⑥SpO2 ⑦心電図 ⑧視診 ⑨聴診 ⑩触診 ⑪応急処置 ⑫搬送体位 _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 病院到着前 _____	
<b>隊長総括</b> 活動一次検証 検証者印 _____ 活動二次検証 検証者印 _____	
検証総合評価 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C 検証医師名(サイン) _____ (サイン) _____ 検証医所見 <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E	

(案) 改正後

改正前

**(案)**

**心肺停止前傷病者に対する  
プロトコル**

**大阪府**

**ショックのプロトコル**

**クラッシュ症候群を疑う傷病  
者に対する静脈路確保及び  
輸液のプロトコル**

**意識障害のプロトコル**

**大阪府救急業務高度化推進連絡協議会**

平成26年5月20日作成

平成27年3月 9日改正

平成31年4月1日から大阪府救急医療対策審議会  
救急業務高度化推進に関する部会

心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

エピペン<sup>®</sup>投与のプロトコル

大阪府救急業務高度化推進連絡協議会

平成21年5月20日作成

平成27年3月 9日改正

平成31年4月1日から大阪府医療対策審議会  
救急業務高度化に関する部会

# 心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

## 心肺停止前傷病者に対するプロトコルとは

初期対応基本プロトコルの指示に従い、心肺停止前の傷病者に対して行う観察と処置に関するプロトコルである。《特定行為に係るプロトコル》と《各種プロトコル》とに分類される。

《特定行為に係るプロトコル》

生命の危機的状況にある心肺停止前の傷病者に対して、病態の改善と安定化を図るための特定行為を行う救急隊の活動手順書

- 「ショックの傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル」  
【輸液のプロトコル(ショック)】
- 「クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル」  
【輸液のプロトコル(クラッシュ)】
- 「意識障害の傷病者に対する血糖測定及びブドウ糖投与のプロトコル」  
【ブドウ糖投与のプロトコル】

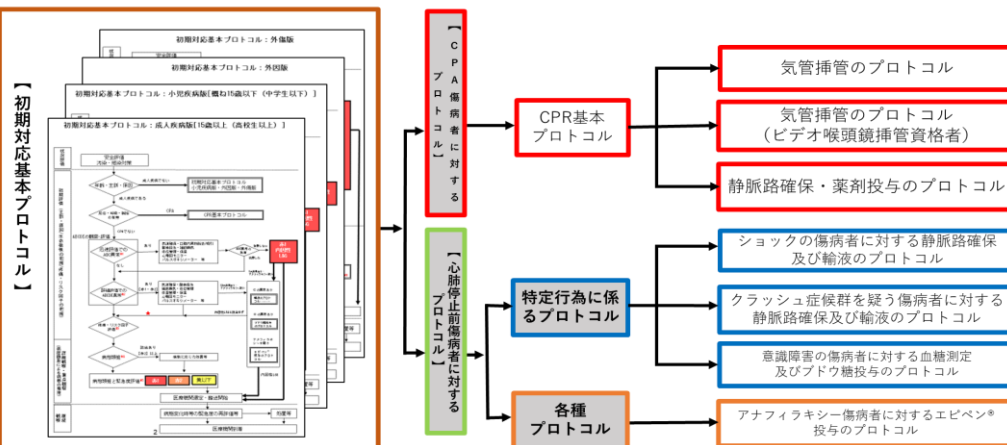
《各種プロトコル》

特定行為には該当しない、救急隊の活動手順書

- 「アナフィラキシーの傷病者に対するエピペン® 投与のプロトコル」  
【エピペン® 投与のプロトコル】

上記プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

## (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

**心肺停止前傷病者に対する  
特定行為に係るプロトコル**

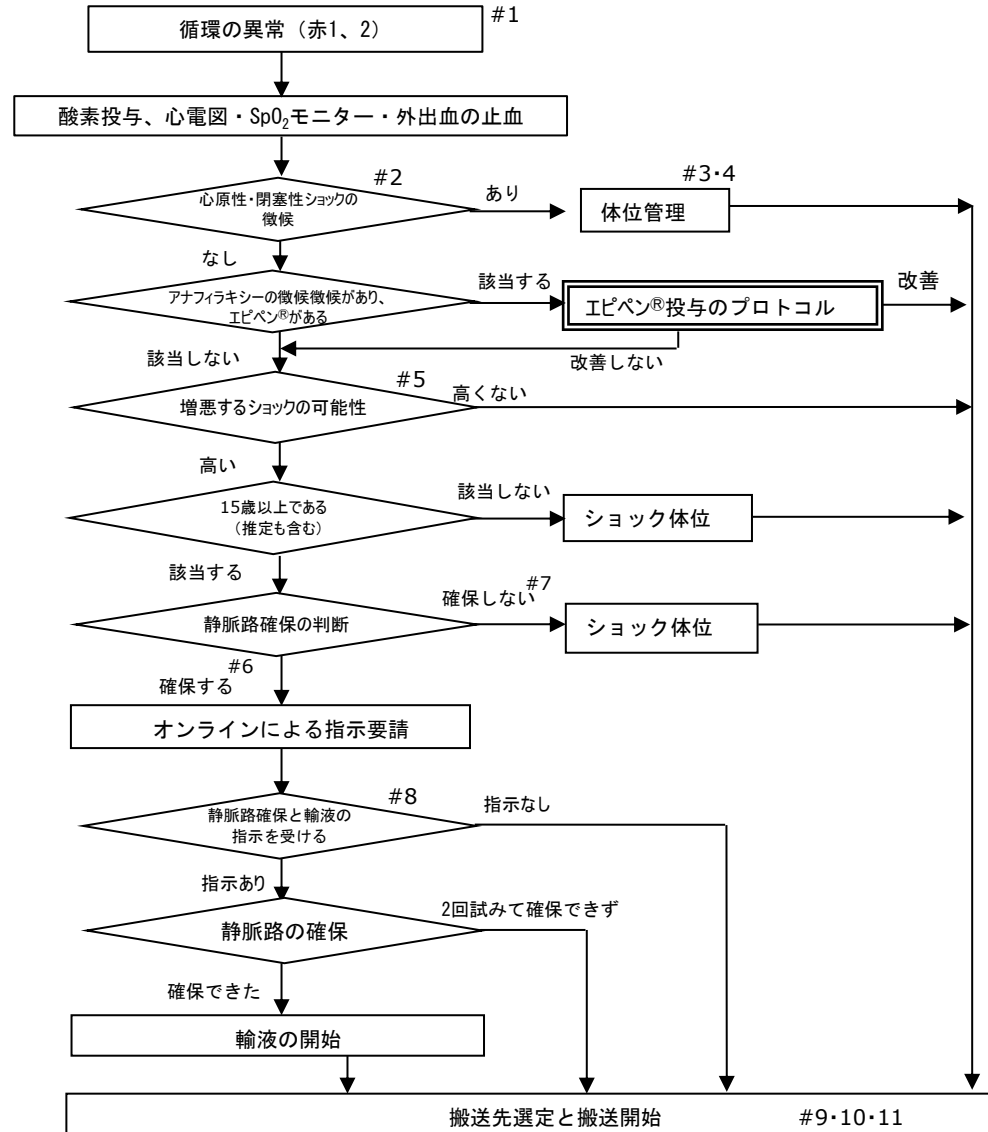
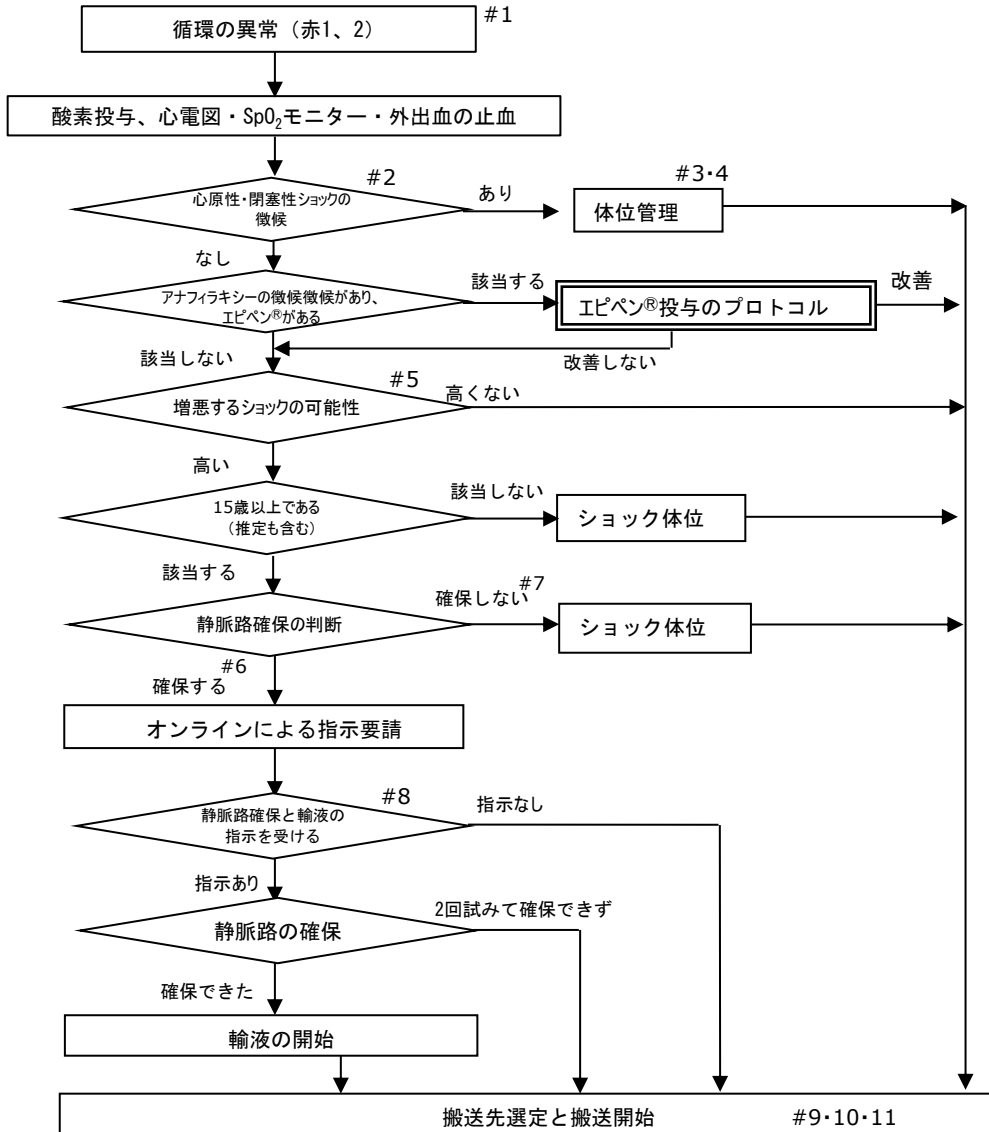
# 心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

## ショックの傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル 【輸液のプロトコル(ショック)】

## ショックのプロトコル



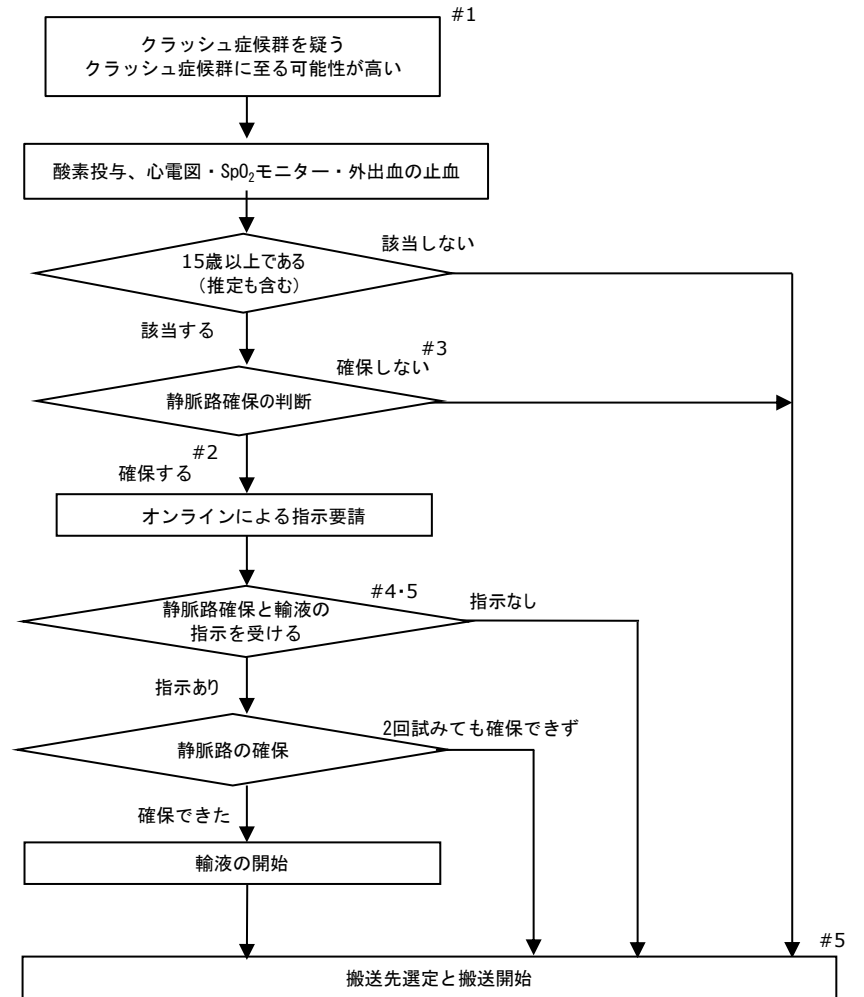
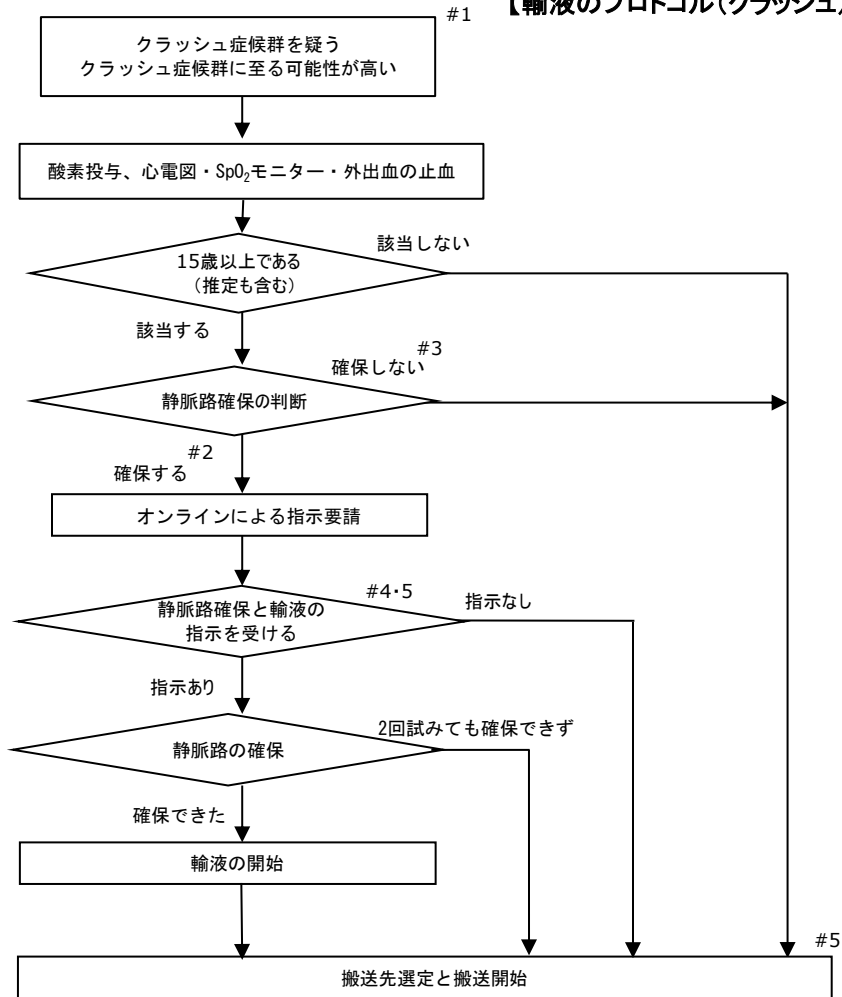
# 心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

## クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル 【輸液のプロトコル(クラッシュ)】

## クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル



- #1 挟圧(重量物、器械、土砂等に身体が挟まれ圧迫されている状況)などによるクラッシュ症候群を疑うか、それに至る可能性の高い場合。
- #2 救出に時間がかかる、病院選定できていない、または決まっても現場から病院まで予想される走行時間が20分以上を要する場合は、静脈路を確保する。
- #3 輸液路確保の困難が予測される(90秒以上を要する)等、状況によって処置の実施より迅速な搬送を優先する。
- #4 傷病者の観察所見、状況等を報告し、輸液量と滴下速度について具体的指示を受ける。
- #5 活動中に患者の容態が変化した場合、指示出し医師に報告するとともに、再度輸液量と滴下速度の指示を受ける。

- #1 挟圧(重量物、器械、土砂等に身体が挟まれ圧迫されている状況)などによるクラッシュ症候群を疑うか、それに至る可能性の高い場合。
- #2 救出に時間がかかる、病院選定できていない、または決まっても現場から病院まで予想される走行時間が20分以上を要する場合は、静脈路を確保する。
- #3 輸液路確保の困難が予測される(90秒以上を要する)等、状況によって処置の実施より迅速な搬送を優先する。
- #4 傷病者の観察所見、状況等を報告し、輸液量と滴下速度について具体的指示を受ける。
- #5 活動中に患者の容態が変化した場合、指示出し医師に報告するとともに、再度輸液量と滴下速度の指示を受ける。

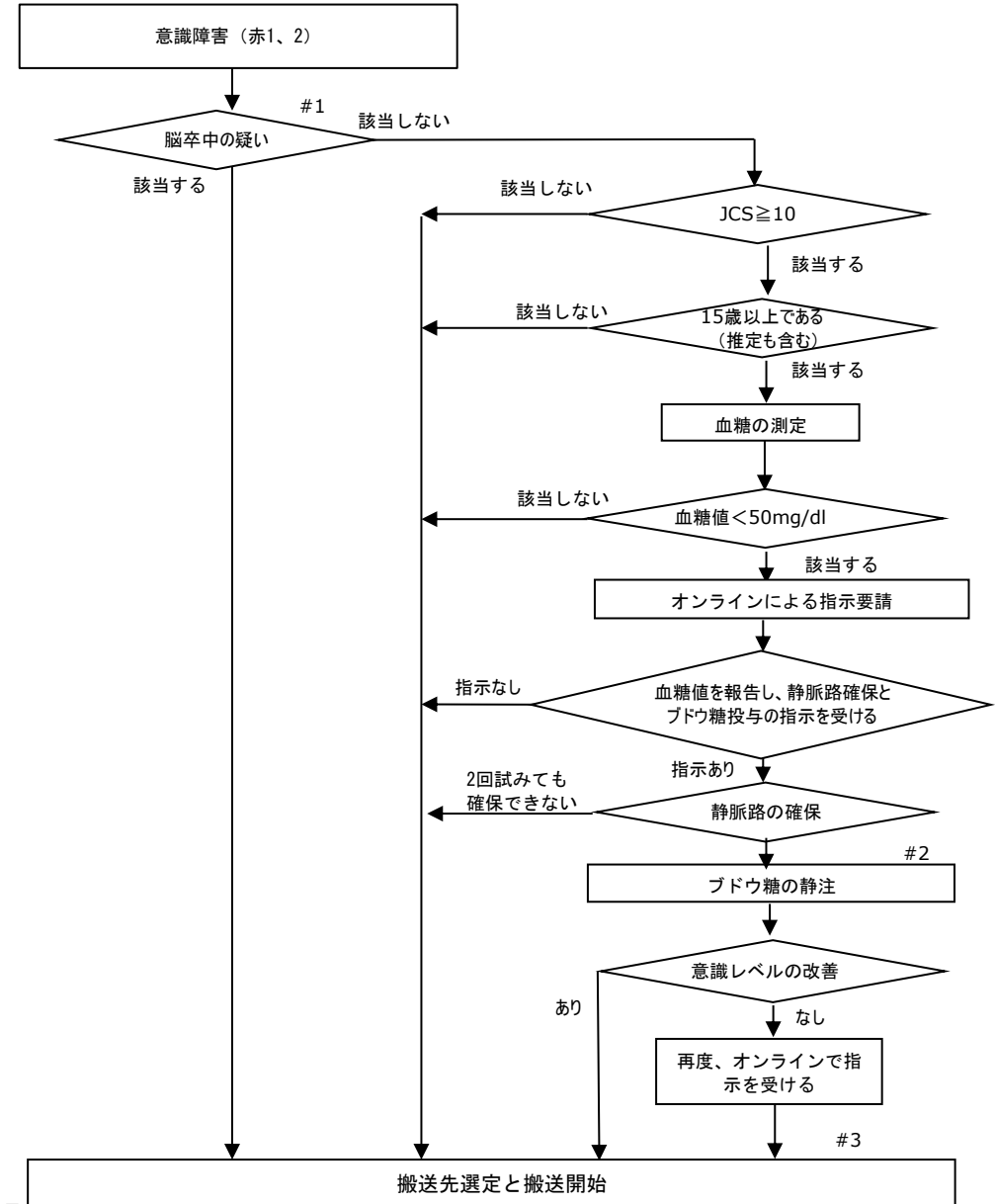
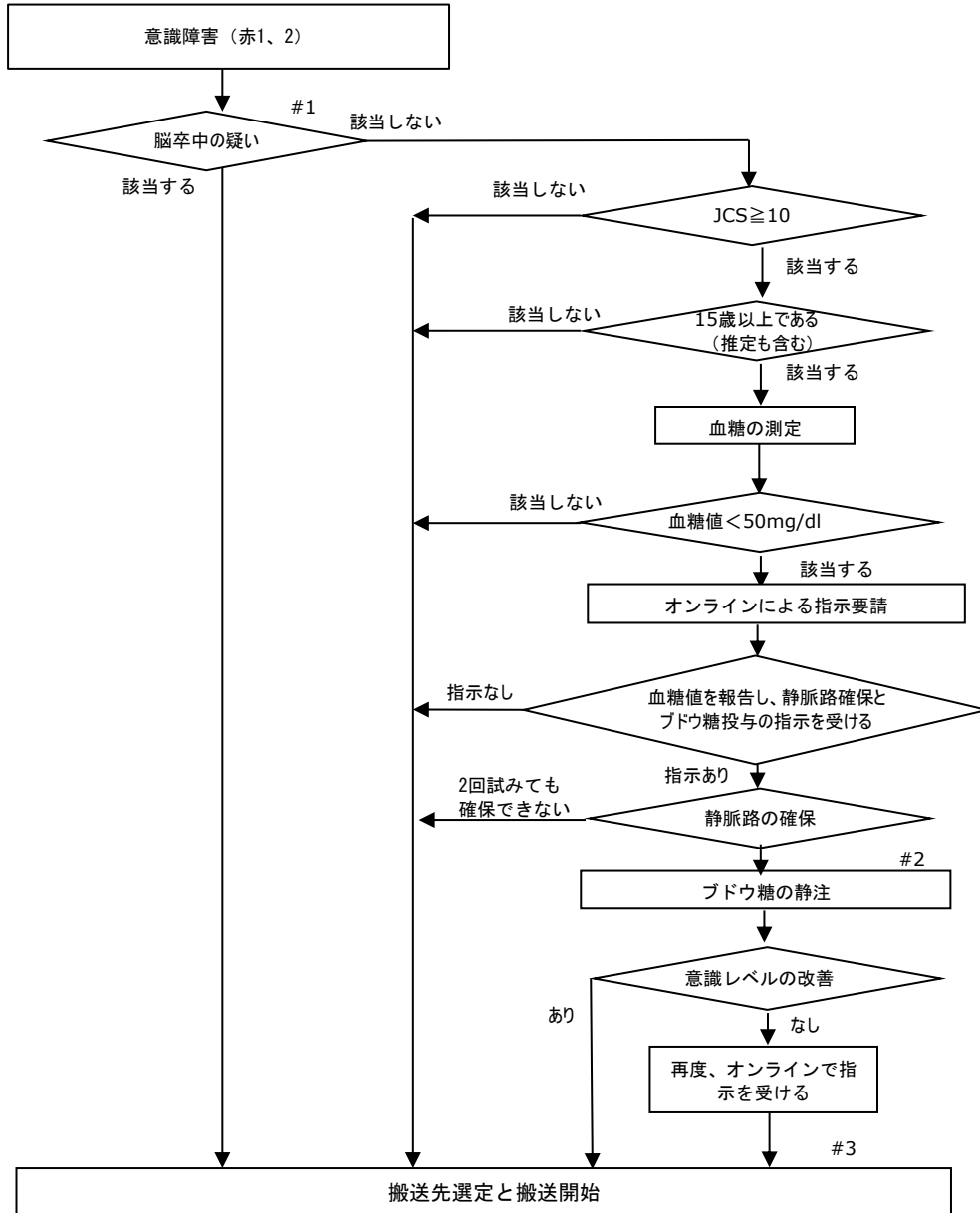
# 心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

## 意識障害の傷病者に対する血糖測定及びブドウ糖投与のプロトコル 【ブドウ糖投与のプロトコル】

## 意識障害のプロトコル





心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

**心肺停止前傷病者に対する  
各種プロトコル**

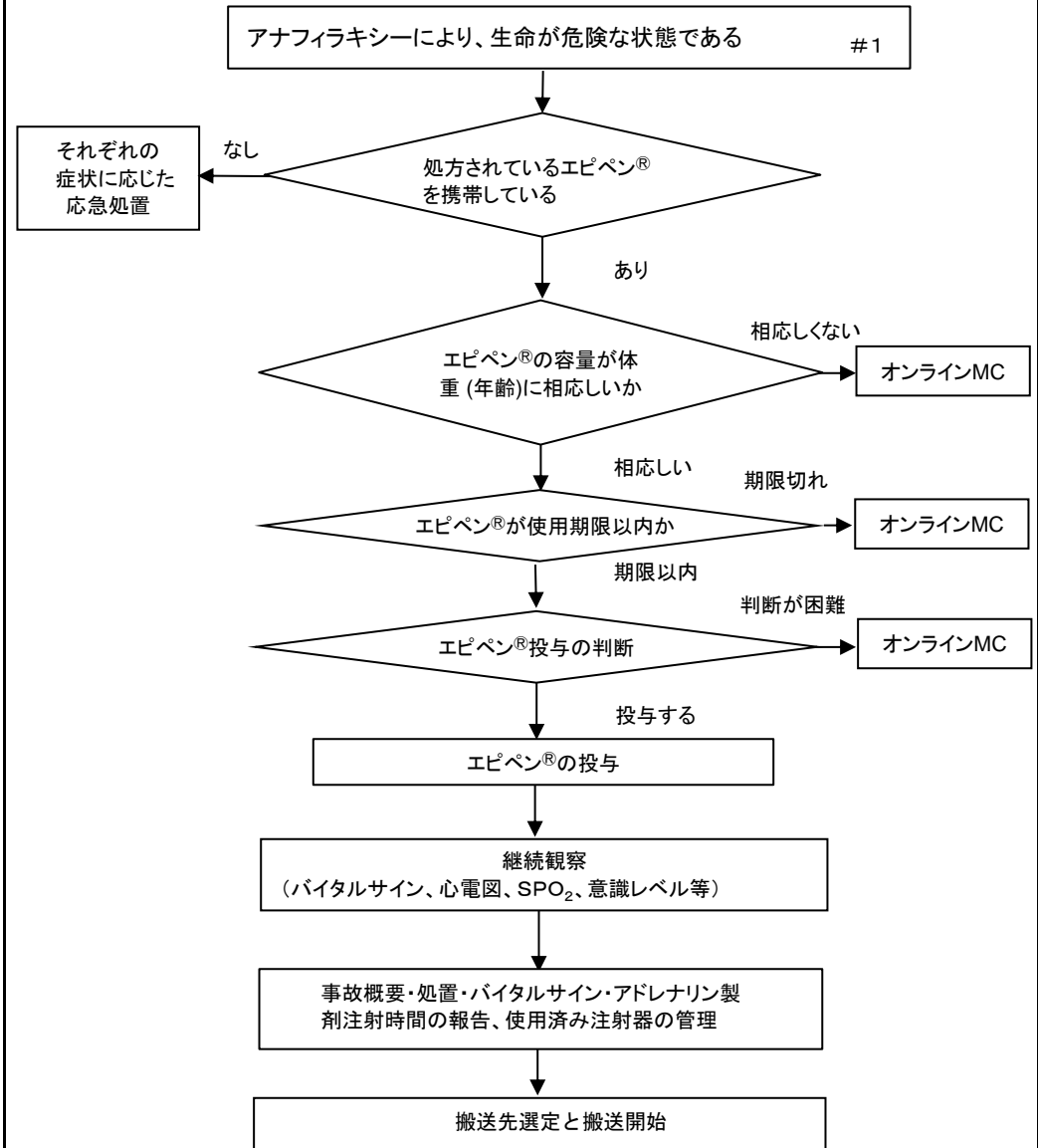
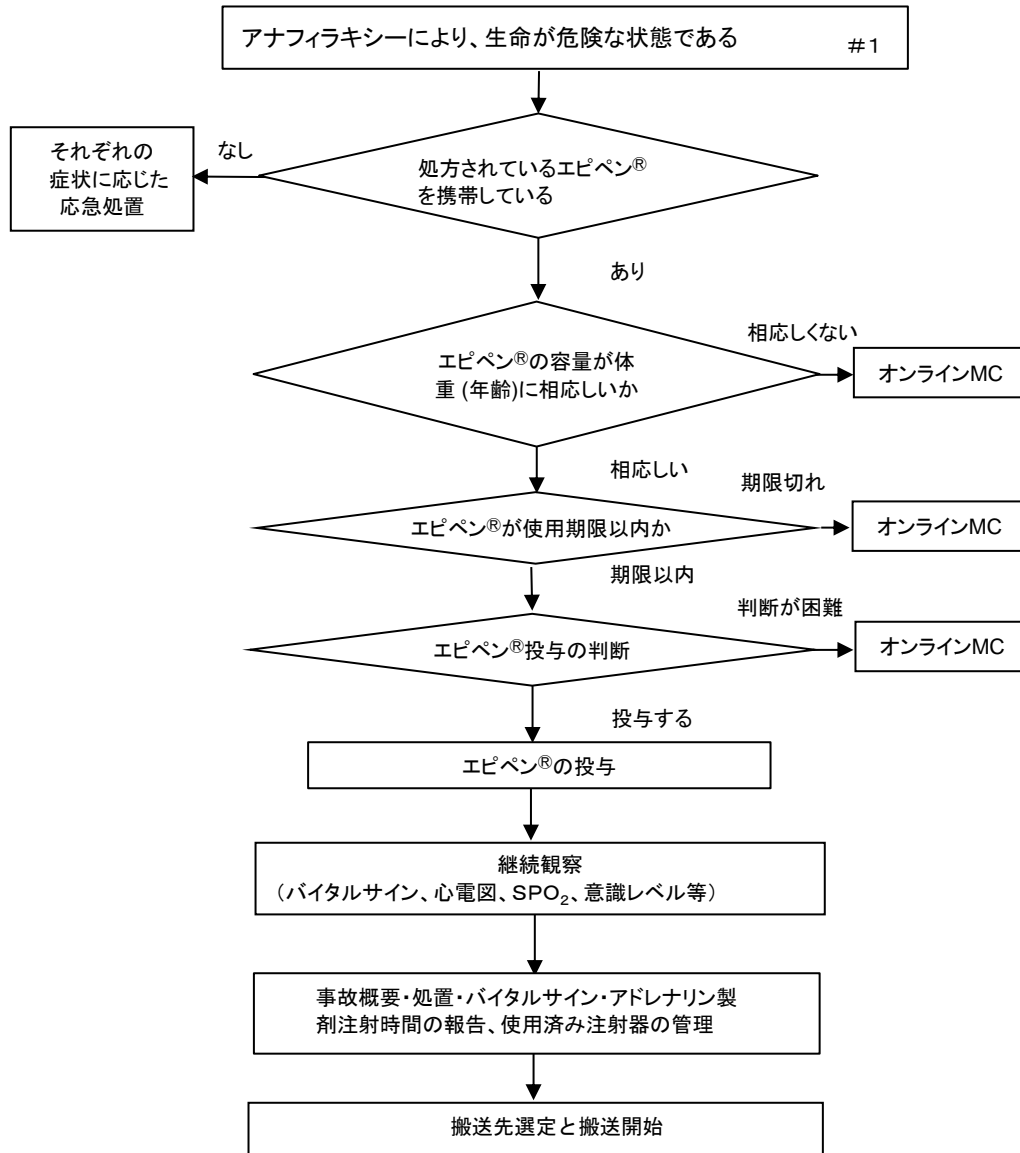
# 心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

## (案) 改正後

## 改正前

### アナフィラキシーの傷病者に対するエピペン® 投与のプロトコル 【エピペン®投与のプロトコル】

### エピペン®投与のプロトコル



心肺停止前傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

平成 2 1 年 5 月 (エピペン®投与のプロトコル)	策 定
平成 2 6 年 5 月 (ショック・クラッシュ・意識障害)	策 定
平成 2 7 年 3 月 (全部)	改 正
令和 2 年 1 2 月 (全部)	改 正

大阪府

(案)

# 心肺停止前傷病者に対する プロトコル

大阪府

# 心肺停止前傷病者に対するプロトコルとは

初期対応基本プロトコルの指示に従い、心肺停止前の傷病者に対して行う観察と処置に関するプロトコルである。《特定行為に係るプロトコル》と《各種プロトコル》とに分類される。

## 《特定行為に係るプロトコル》

生命の危機的状況にある心肺停止前の傷病者に対して、病態の改善と安定化を図るための特定行為を行う救急隊の活動手順書である。

- 「ショックの傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル」  
【輸液のプロトコル(ショック)】
- 「クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル」  
【輸液のプロトコル(クラッシュ)】
- 「意識障害の傷病者に対する血糖測定及びブドウ糖投与のプロトコル」  
【ブドウ糖投与のプロトコル】

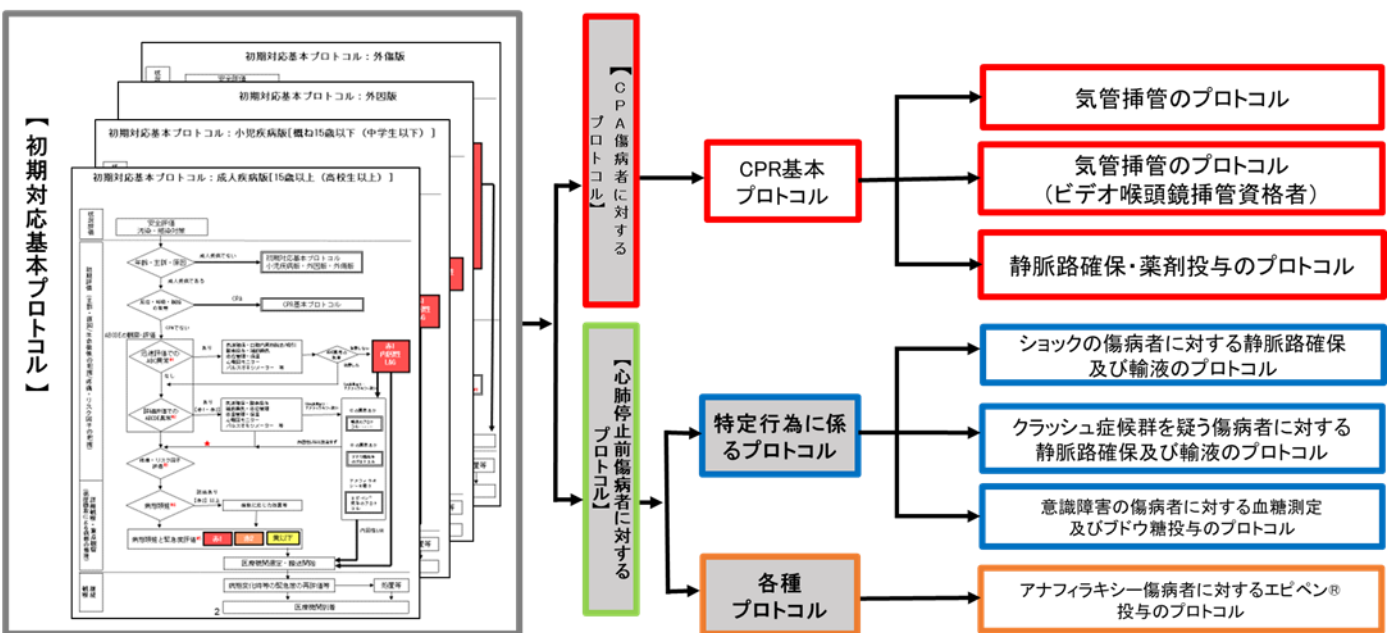
## 《各種プロトコル》

特定行為には該当しない、救急隊の活動手順書である。

- 「アナフィラキシーの傷病者に対するエピペン<sup>®</sup> 投与のプロトコル」  
【エピペン<sup>®</sup> 投与のプロトコル】

上記プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

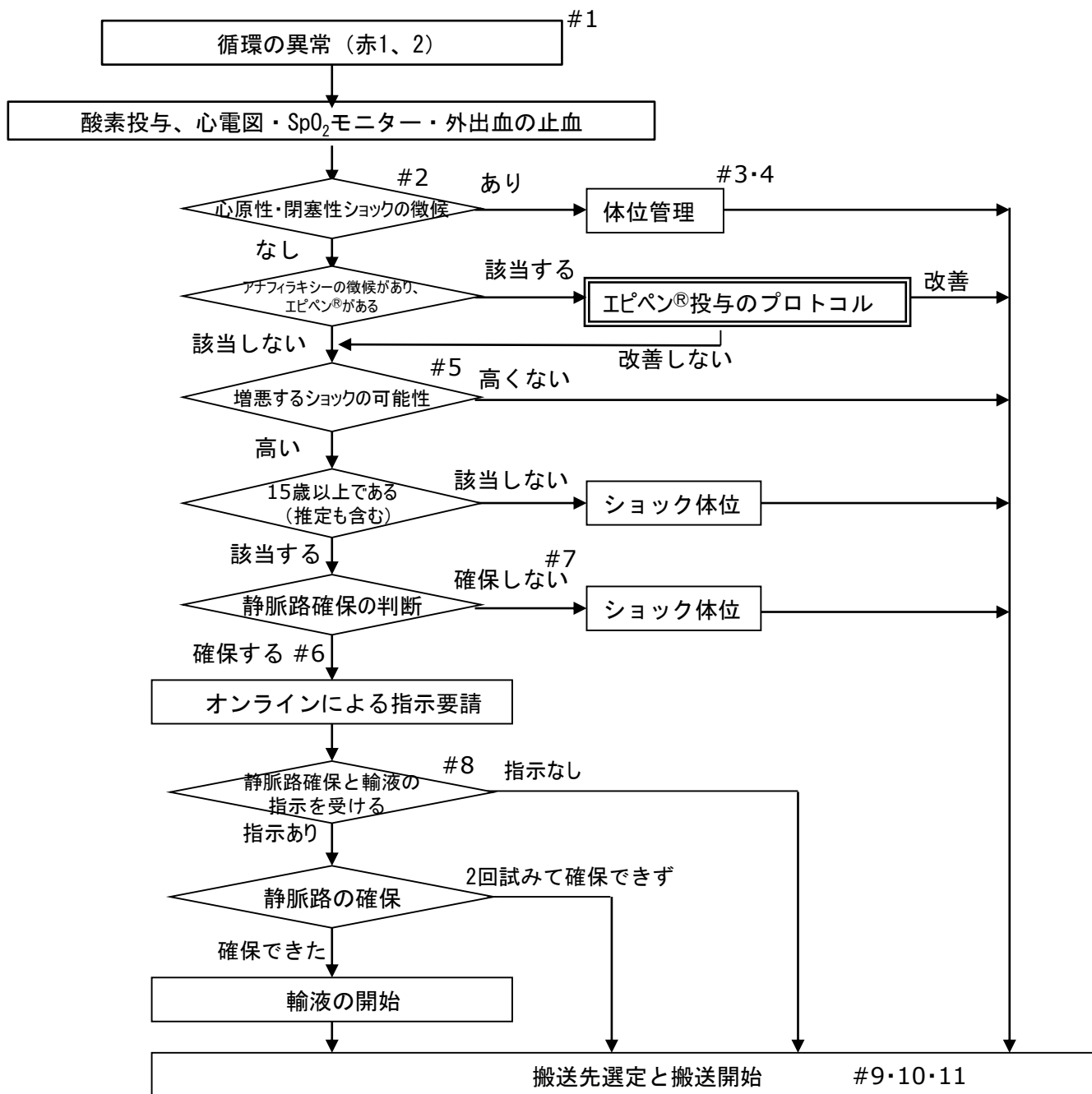
## (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



# 心肺停止前傷病者に対する 特定行為に係るプロトコル

# ショックの傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル

## 【輸液のプロトコル(ショック)】



#1 皮膚蒼白、皮膚冷感、皮膚湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の頻脈・徐脈(心拍数120回/分以上または50回/分未満)、血圧の低下(収縮期血圧90mmHg以下)、循環状態が安定しているとは言えない、制御不可能な外出血、止血可能な外出血の持続、不穏・興奮、等がショックの症状・所見である。ただし、皮膚紅潮・温感・乾燥(敗血症性・神経原性・アナフィラキシー)を呈することもある。赤1の場合は、L&Gである。

注:外傷による循環の異常はL&Gの適応であり、原則、輸液は行わず搬送を優先する。

#2 心原性ショックを疑う徴候とは;

- ①急性冠症候群を疑わせる突然の胸痛出現後のショック症状
- ②呼吸困難、喘鳴、肺ラ音、起座呼吸を伴うショック(左心不全)
- ③頸静脈の怒張、肝腫大、下肢の浮腫(右心不全)

閉塞性ショックを疑う徴候とは;

- ①激しい胸・背部痛、頸静脈怒張(大動脈解離による心タンポナーデ)
- ②呼吸困難、頸静脈怒張、胸痛(肺血栓塞栓症)

#3 起座位で呼吸困難を訴えている場合は仰臥位としてはならない。(左心不全が疑われるため)

#4 心原性ショック・閉塞性ショックが疑われる場合には迅速な搬送を行う。

#5 増悪するショックとは、出血の持続、意識障害の進行、アナフィラキシー、熱中症等によるショックを言う。

#6 病院選定できていない、または決まっても現場から病院まで予想される走行時間が20分を超える場合は、静脈路を確保する。

#7 輸液路の確保困難が予測される(90秒以上を要する)等、状況によって処置の実施より迅速な搬送を優先する。

#8 可能性の高いショックの病態、傷病者の観察所見、状況等を報告し、輸液量と滴下速度について具体的指示を受ける。

#9 搬送先選定

救命救急センター等、幅広く重篤な傷病者に対応できる医療機関を選定する。

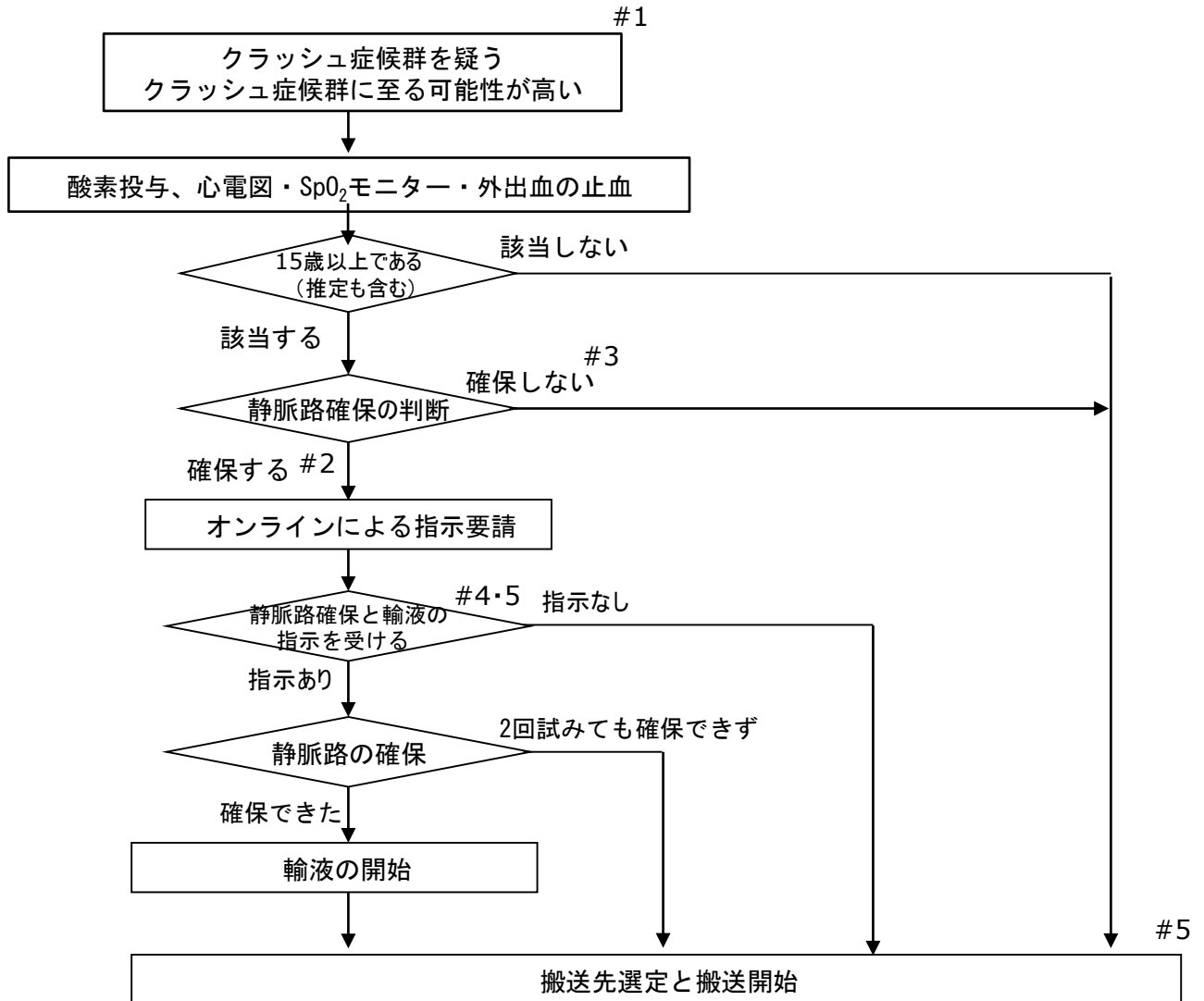
#10 内因性L&Gの場合は、車内で病歴聴取、身体観察を実施してもよい。

#11 搬送中に患者の容態が変化した場合は、指示出し医師に報告するとともに、再度輸液量と滴下速度の指示を受ける。



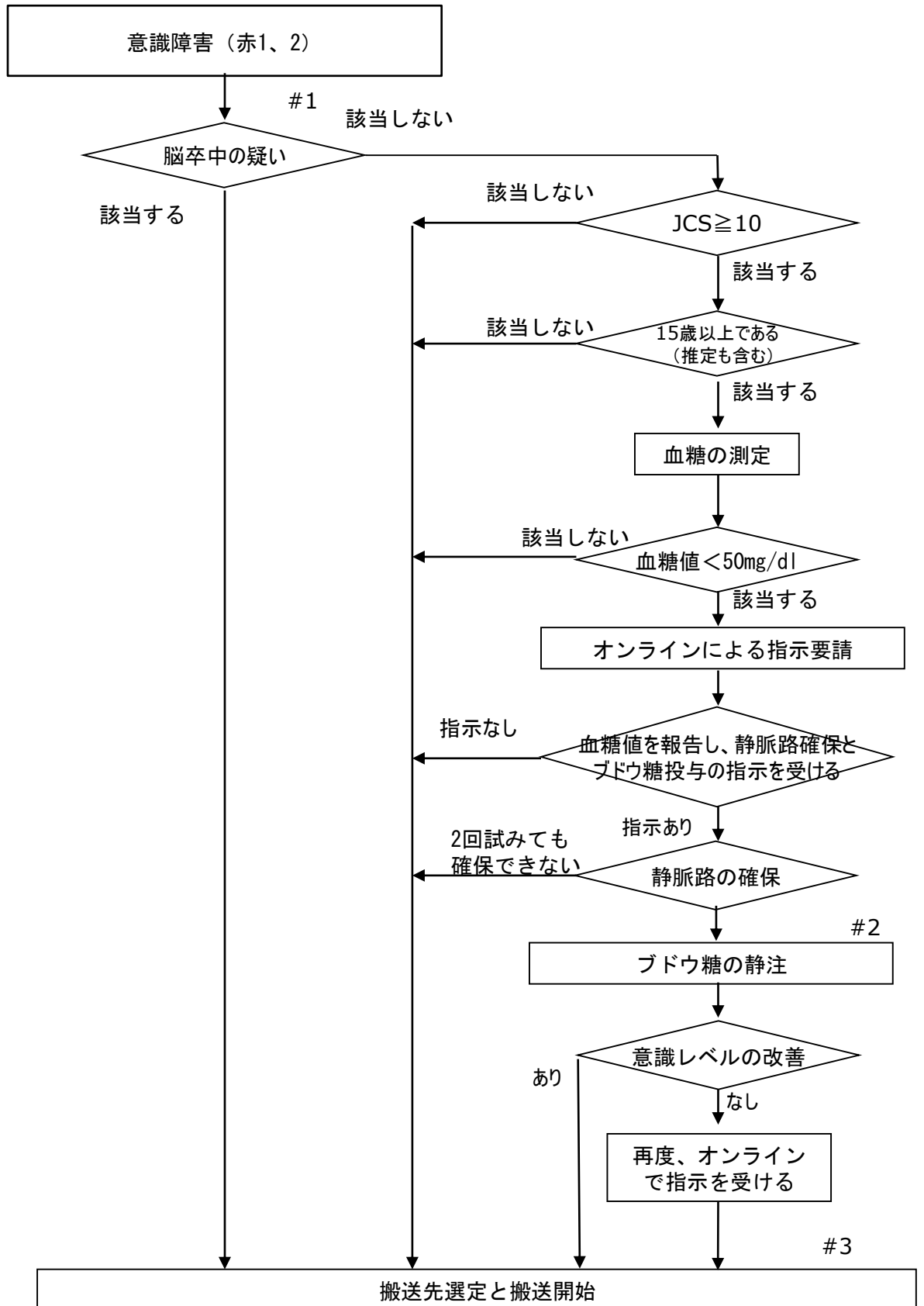
# クラッシュ症候群を疑う傷病者に対する静脈路確保及び輸液のプロトコル

## 【輸液のプロトコル(クラッシュ)】



- #1 挟圧(重量物、器械、土砂等に身体が挟まれ圧迫されている状況)などによるクラッシュ症候群を疑うか、それに至る可能性の高い場合。
- #2 救出に時間がかかる、病院選定できていない、または決まっても現場から病院まで予想される走行時間が20分以上を要する場合は、静脈路を確保する。
- #3 輸液路確保の困難が予測される(90秒以上を要する)等、状況によって処置の実施より迅速な搬送を優先する。
- #4 傷病者の観察所見、状況等を報告し、輸液量と滴下速度について具体的指示を受ける。
- #5 活動中に患者の容態が変化した場合は、指示出し医師に報告するとともに、再度輸液量と滴下速度の指示を受ける。

# 意識障害の傷病者に対する血糖測定及びブドウ糖投与のプロトコル 【ブドウ糖投与のプロトコル】



#1 以下の場合には脳卒中を疑う。

ヘルニア徴候

片側上肢または下肢の運動麻痺

片側顔面の運動麻痺

片側のしびれ感

言語障害(失語症・構音障害)

片側の失明

失調

突然の激しい頭痛・これまでで最悪の頭痛

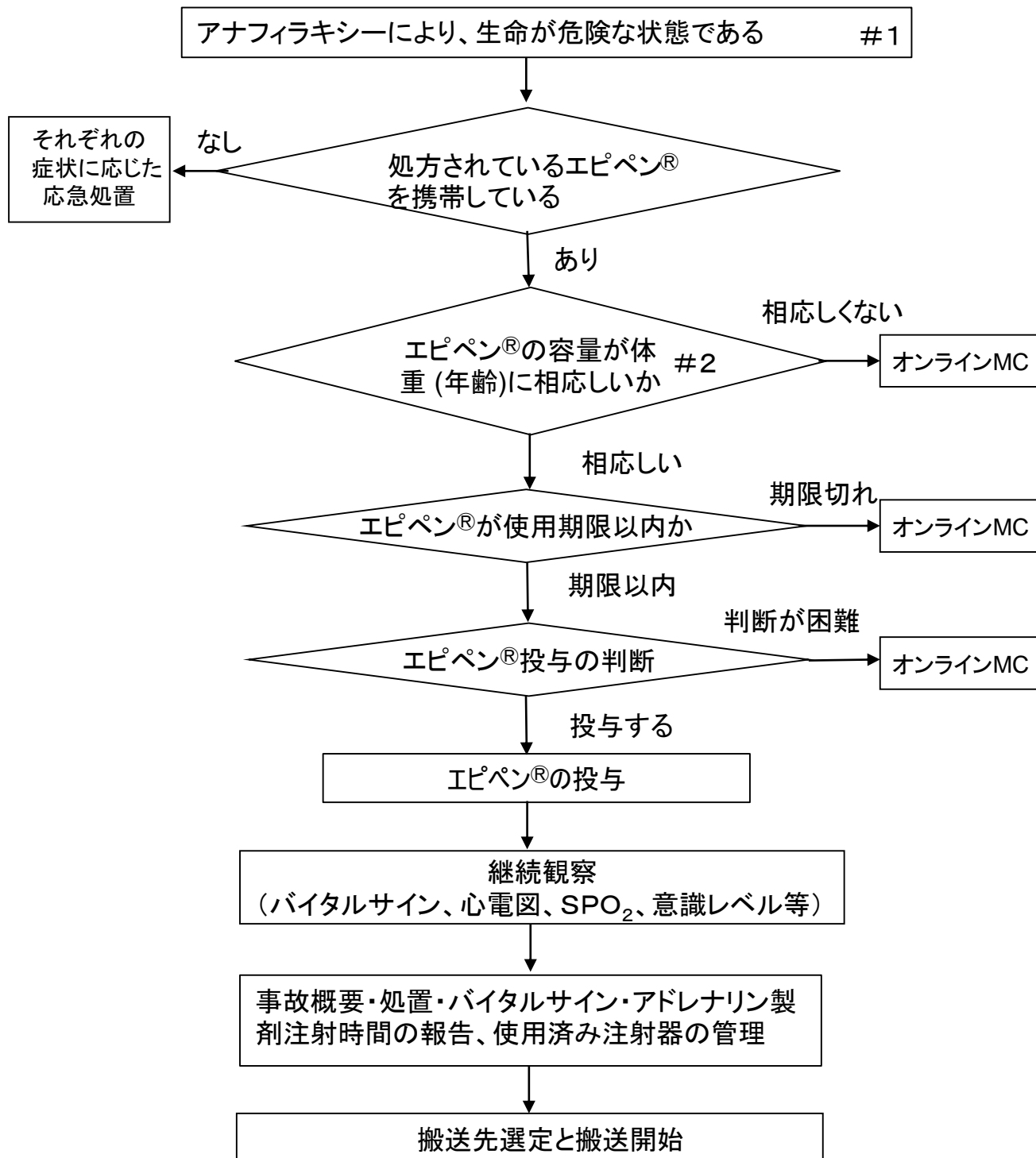
#2 輸液の速度は、維持輸液(1秒1滴程度)とする。ブドウ糖溶液の投与は50%ブドウ糖溶液20mlを原則とする。

#3 血糖を測定した場合は、その結果にかかわらず、搬送先医療機関の医師等に報告する。

# 心肺停止前傷病者に対する 各種プロトコル

# アナフィラキシーの傷病者に対するエピペン® 投与のプロトコル

## 【エピペン®投与のプロトコル】



## エピペン<sup>®</sup>投与のプロトコル解説

### 【エピペン<sup>®</sup>（自己注射が可能なアドレナリン製剤）投与の適応】

- ・ 観察結果、アナフィラキシーで生命が危険な状態であること。
- ・ 医師よりあらかじめ傷病者本人にエピペン<sup>®</sup>が処方されていること。
- ・ エピペン<sup>®</sup>を現に携行している者は、あらかじめ医師により傷病者本人へエピペン<sup>®</sup>を交付されている者として取り扱うこと。

※ 「自己注射が可能なアドレナリン製剤を投与できる救急救命士」とは、「救急救命士の薬剤投与の実施のための講習および実習要領について」（平成17年3月10日付け医政指発第0310002号厚生労働省医政局指導課長通知）で定められている、いわゆる追加講習及び実習を受講したか否かに関わらず、救急救命士全般を指す。

#1 アナフィラキシーで生命が危険な状態とは、アレルギーの既往があり、以下の1、2又は3を認める場合をいう。

- 1 アレルゲンへの暴露（表1参照）に引き続き生じる呼吸（器）症状または血圧低下を認める場合。（初期評価で赤1）
- 2 アレルゲン暴露が不明でも、皮膚症状（蕁麻疹等）に加えて呼吸（器）症状または血圧低下を認める場合。（初期評価で赤1）
- 3 アレルゲン暴露後にアナフィラキシー徴候（表2参照）を認める場合。（病歴聴取、身体観察）

※ 判断が困難な場合は、医師の助言要請を行うこと（オンラインMC）。

<表1 アレルゲン（原因物質）の代表例>

食物	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、キウイ、カニ、エビなど
虫毒	ミツバチ、スズメバチ、フシ蟻など
薬剤	抗菌薬、ワクチン、局所麻酔剤、消炎鎮痛剤など
その他	ラテックス、造影剤、ハウスダスト、花粉など

<表2 アナフィラキシーの主な徴候>

観察項目	自覚症状	他覚症状
皮膚粘膜症状	痒み・口内異物感	蕁麻疹、眼瞼・口腔内粘膜浮腫 皮膚蒼白、皮膚紅潮
呼吸症状	喉頭狭窄感・胸部絞扼感、呼吸困難	咳発作、喘鳴、チアノーゼ
循環症状	心悸亢進・胸内苦悶	頻脈、脈拍微弱、血圧低下、徐脈
消化器症状	嘔気・腹痛・腹鳴・便意・尿意	嘔吐・下痢・便・尿失禁
全身症状・その他	不安感・無力感・耳鳴り・めまい	冷汗、発汗、失神、意識障害

※アンダーラインの症状が重要

#2 エピペン<sup>®</sup>の容量と体重(年齢)との関係

0.15mg : 15kg以上 (概ね4歳以上)

0.3mg : 30kg以上 (概ね9歳以上)

### 【応急処置】

- ・ 気道の開通、呼吸様式、循環、意識レベル及び皮膚所見を観察する。
- ・ 気道浮腫に注意し必要があれば気道確保を行う。  
(注：アナフィラキシーでは、気道浮腫により呼吸困難を来す)
- ・ リザーババッグ付フェイスマスクにより 10ℓ/分以上の酸素投与を行う。
- ・ 呼吸回数が 10 回/分未満の場合は、バッグバルブマスク (10ℓ/分以上の酸素) による補助呼吸を考慮する。
- ・ 相対的循環血液量減少に対応するためショック体位を考慮する。
- ・ **エピペン®**投与の適応となる場合は、速やかに上記応急処置に並行し、**エピペン®**を投与する。
- ・ **エピペン®**投与後も気道、呼吸様式、バイタルサイン、皮膚所見および意識レベルの変化を継続観察し、心電図および SpO<sub>2</sub> モニターし、容態急変に備えること。
- ・ 傷病者への保温処置を行い病院搬送する。
- ・ 医療機関収容時には、事故概要 (アナフィラキシーに至った原因と接触時間)、バイタルサインの経過、症状の経過、応急処置内容 (**エピペン®**投与含む) と時間を医師に報告し、使用済み注射器を提出する。

### 【**エピペン®**投与の注意事項】

- ・ **エピペン®**投与は、アナフィラキシーへの補助治療である。投与後、必ず症状改善に至るとは限らないことを認識すること。
- ・ 臀部からの注射を避け、大腿部の前外側から注射し (黒い先端を数秒間強く押し付ける)、適正に作動した場合には針が出ているので確認すること。
- ・ **エピペン®**の種類には、注射液 0.3m g と 0.15m g の 2 種類 (どちらも 1 管中 2mL の薬液) の製剤があり、アドレナリン製剤 0.01m g / k g の量を基準として体重にあわせて処方されている。
- ・ 投与後は、薬液の大部分 (約 1.7mL) が注射器内に残るが、針が出ていれば一定量 (約 0.3mL) のアドレナリン製剤が投与されている。
- ・ 一回投与すれば同じ注射器から再投与することは出来ない。
- ・ 使用済み注射器は針が出ているので、針刺し事故に注意し、針先側から携帯用ケースに戻しキャップする。
- ・ アドレナリン製剤を大量に投与又は、静脈内に投与した場合、急激な血圧上昇により脳内出血等を起こす場合があるので注意する。

### 【事後検証】

- ・ **エピペン®**投与を実施した症例については、全て医学的検証を受けるため、救急活動後は、検証票を作成すること。

平成 21 年 5 月 (エピペン®投与の Protocol)	策 定
平成 26 年 5 月 (ショック・クラッシュ・意識障害)	策 定
平成 27 年 3 月 (全部)	改 正
令和 2 年 1 2 月 (全部)	改 正

大阪府



(案) 改正後

改正前

(案)

CPA傷病者に対する  
プロトコル

CPRのプロトコル

平成29年6月8日  
大阪府救急業務高度化推進連絡協議会

平成31年4月1日から大阪府救急医療対策審議会  
救急業務高度化推進に関する部会

# CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

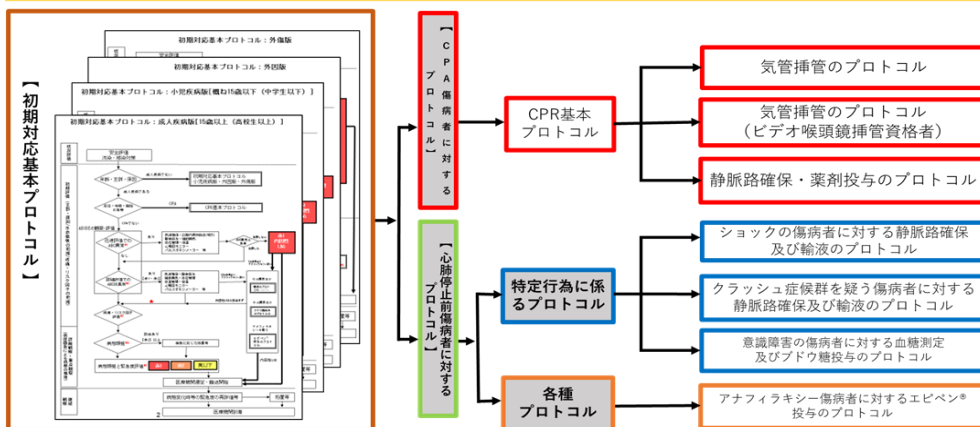
## CPA傷病者に対するプロトコルとは

初期対応基本プロトコルの指示に従い、CPA傷病者に対して、特定行為を含めた救急隊の活動手順書である。以下の4つのプロトコルがある。

- 「CPR基本プロトコル」
- 「気管挿管のプロトコル」
- 「気管挿管のプロトコル(ビデオ喉頭鏡挿管資格者)」
- 「静脈路確保・薬剤投与のプロトコル」

上記プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

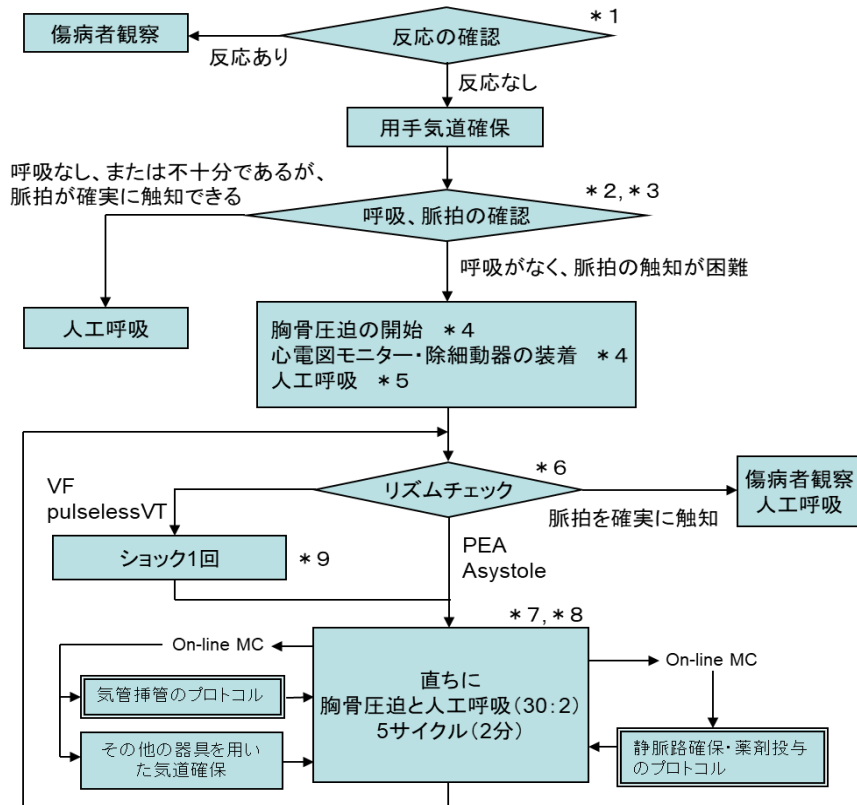
### (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



# CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後 現行のまま

## CPR基本プロトコル

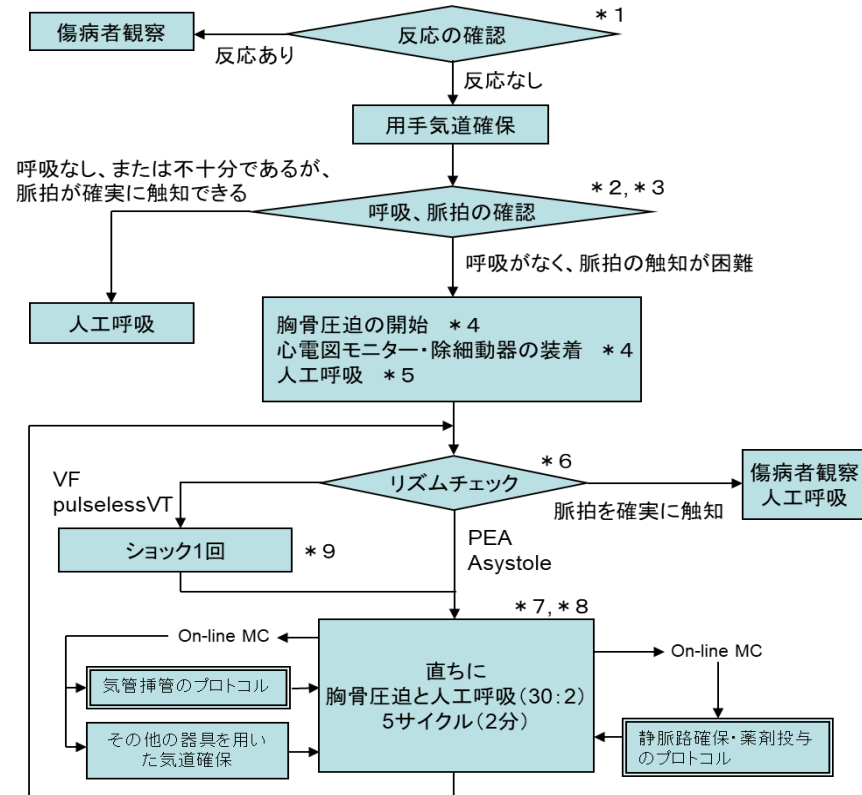


- \* 1 大声で呼びかけあるいは肩をたたいても何らかの応答や目的のある仕草がなければ反応なしとみなす。
- \* 2 呼吸があるか、脈拍を確実に触知できるかを、気道確保を含めて10秒以内に確認する。脈拍の触知が困難な場合は、反応と呼吸のみで心停止を判断する。小児、乳児の場合、十分な酸素投与や人工呼吸にもかかわらず、心拍数が60回/分以下でかつ循環が悪い場合は胸骨圧迫を開始する。
- \* 3 死戦期呼吸は心停止として扱う。小児、乳児の場合、10回/分以下の徐呼吸は呼吸停止と同様に対応する。
- \* 4 心停止と判断した場合、胸骨圧迫を開始するとともに心電図モニター・除細動器を装着し、準備が整い次第リズムチェックを行い、除細動対応の波形であれば、可能な限り早期の段階で除細動を実施する。
- \* 5 目前での心停止や有効な人工呼吸を伴う心肺蘇生から引き継ぐ場合には、初回の人工呼吸は30回の胸骨圧迫の後に行う。それ以外の場合には、人工呼吸の準備が整い次第実施する。以降、胸骨圧迫と人工呼吸を30:2で行う。
- \* 6 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。
- \* 7 小児、乳児に対して二人で実施する場合は15:2とする。
- \* 8 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施する。
- \* 9 乳児、小児、成人を対象とする。乳児および未就学児には小児用パッドを用いることが望ましい。

[ 本プロトコルはいわゆる「半自動式除細動器」の使用を前提としている。  
[ その他の機種については地域MC協議会で手順等を確認しておくことが望ましい。 ]

改正前

## CPR基本プロトコル



- \* 1 大声で呼びかけあるいは肩をたたいても何らかの応答や目的のある仕草がなければ反応なしとみなす。
- \* 2 呼吸があるか、脈拍を確実に触知できるかを、気道確保を含めて10秒以内に確認する。脈拍の触知が困難な場合は、反応と呼吸のみで心停止を判断する。小児、乳児の場合、十分な酸素投与や人工呼吸にもかかわらず、心拍数が60回/分以下でかつ循環が悪い場合は胸骨圧迫を開始する。
- \* 3 死戦期呼吸は心停止として扱う。小児、乳児の場合、10回/分以下の徐呼吸は呼吸停止と同様に対応する。
- \* 4 心停止と判断した場合、胸骨圧迫を開始するとともに心電図モニター・除細動器を装着し、準備が整い次第リズムチェックを行い、除細動対応の波形であれば、可能な限り早期の段階で除細動を実施する。
- \* 5 目前での心停止や有効な人工呼吸を伴う心肺蘇生から引き継ぐ場合には、初回の人工呼吸は30回の胸骨圧迫の後に行う。それ以外の場合には、人工呼吸の準備が整い次第実施する。以降、胸骨圧迫と人工呼吸を30:2で行う。
- \* 6 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。
- \* 7 小児、乳児に対して二人で実施する場合は15:2とする。
- \* 8 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施する。
- \* 9 乳児、小児、成人を対象とする。乳児および未就学児には小児用パッドを用いることが望ましい。

[ 本プロトコルはいわゆる「半自動式除細動器」の使用を前提としている。  
[ その他の機種については地域MC協議会で手順等を確認しておくことが望ましい。 ]

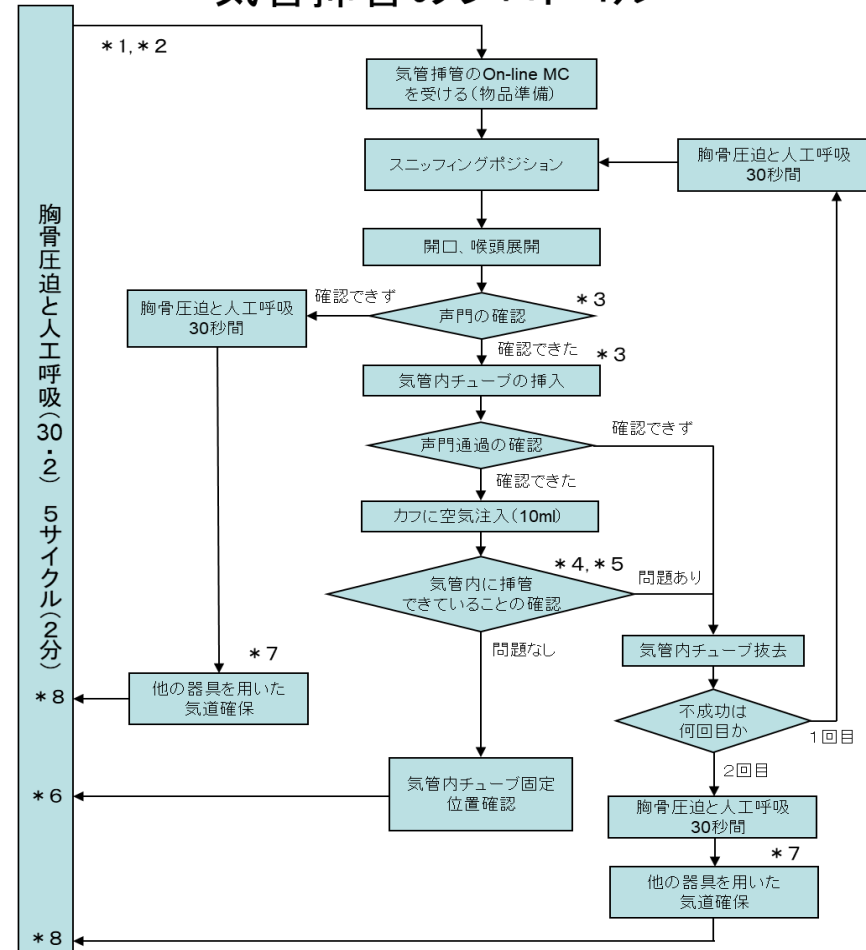
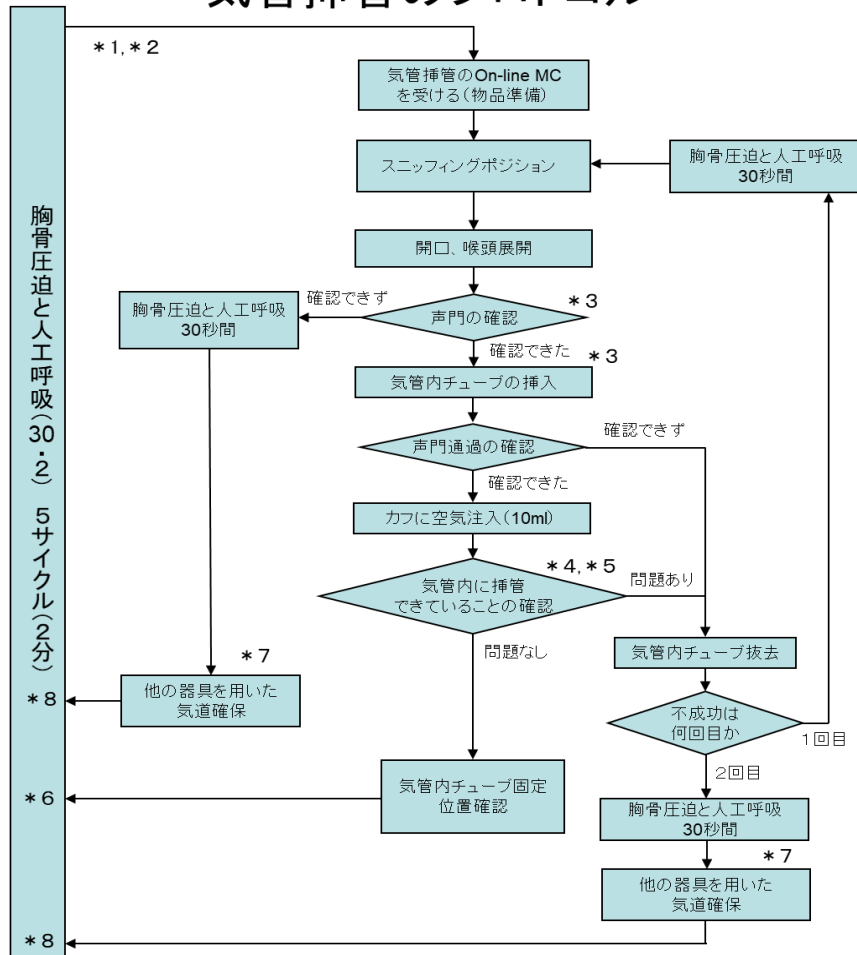
# CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後 現行のまま

改正前

## 気管挿管のプロトコル \*1,\*2

## 気管挿管のプロトコル \*1,\*2



- \*1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \*2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \*3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \*4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \*5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \*6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \*7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \*8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

- \*1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \*2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \*3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \*4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \*5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \*6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \*7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \*8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

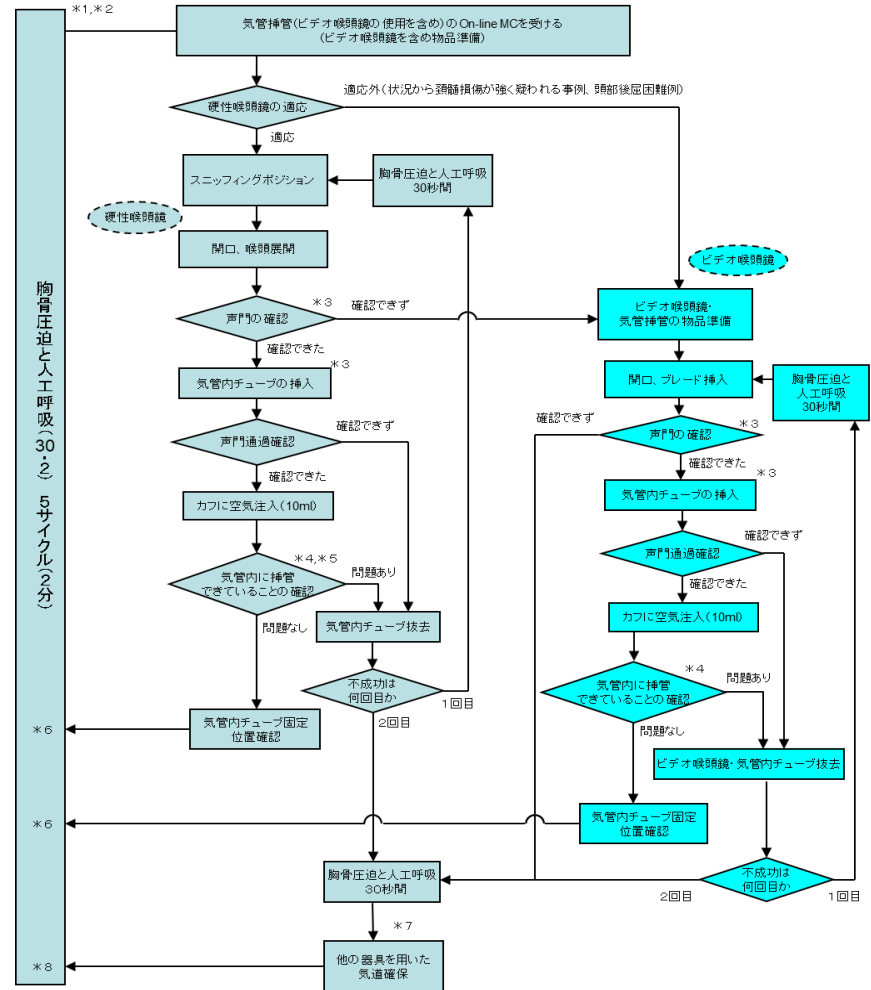
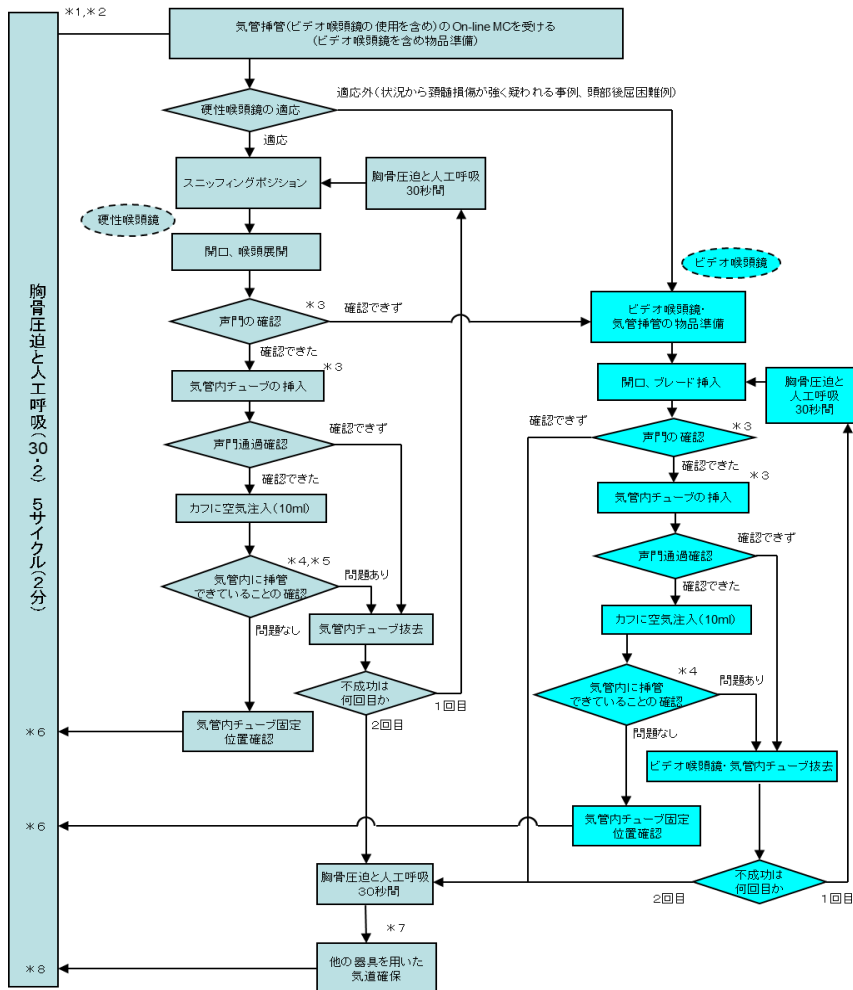
# CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後 現行のまま

改正前

## 気管挿管のプロトコル (ビデオ喉頭鏡挿管資格者)<sup>\*1,\*2</sup>

## 気管挿管のプロトコル (ビデオ喉頭鏡挿管資格者)<sup>\*1,\*2</sup>



- \*1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \*2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \*3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \*4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \*5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \*6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \*7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \*8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

- \*1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \*2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \*3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \*4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \*5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \*6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \*7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \*8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

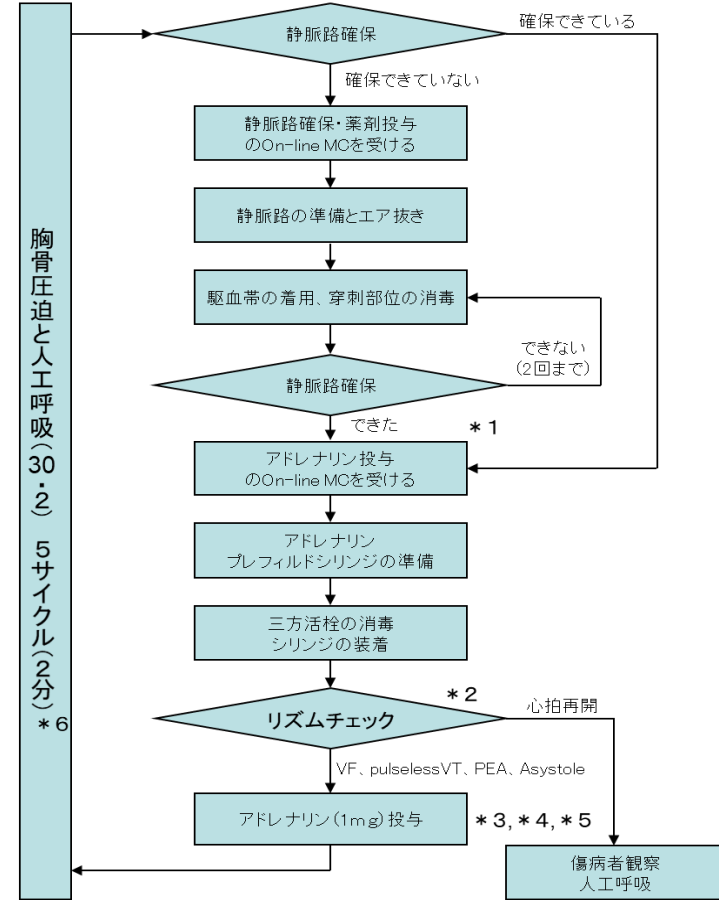
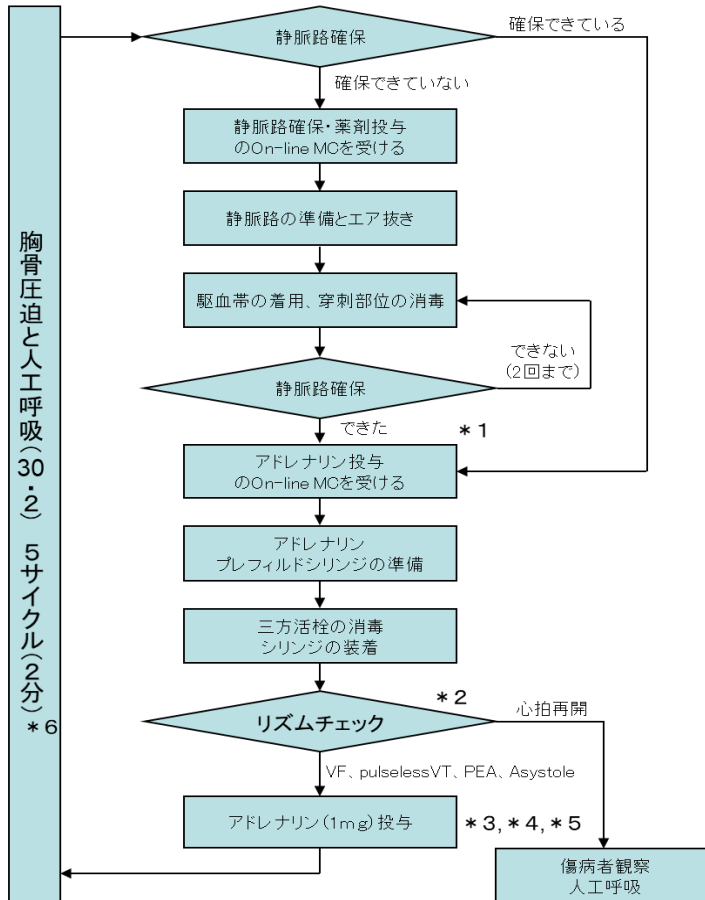
# CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後 現行のまま

改正前

## 静脈路確保・薬剤投与のプロトコル

## 静脈路確保・薬剤投与のプロトコル



- \*1 アドレナリン投与の適応は、およそ8歳以上かつ
  1. VF/pulselessVT
  2. PEA
  3. 心停止に陥ってからの時間が短時間であると推測できるAsystoleのいずれかを満たすものとする。
- \*2 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。
- \*3 薬剤もれがあった場合は、静脈路の再確保は行わない。
- \*4 VF/pulselessVTに対しては、アドレナリン投与直前または直後に電気ショック1回を実施する。アドレナリン投与のために電気ショックが遅れてはならない。電気ショックの直後にアドレナリンを投与する場合、再度のリズムチェックは行わない。
- \*5 心停止前に静脈路確保が完了した傷病者が心停止になった場合、ショック適応リズムであれば、電気ショックを実施する。アドレナリン投与は、ショック実施直後ではなく、2分後に行う。
- \*6 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

- \*1 アドレナリン投与の適応は、およそ8歳以上かつ
  1. VF/pulselessVT
  2. PEA
  3. 心停止に陥ってからの時間が短時間であると推測できるAsystoleのいずれかを満たすものとする。
- \*2 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。
- \*3 薬剤もれがあった場合は、静脈路の再確保は行わない。
- \*4 VF/pulselessVTに対しては、アドレナリン投与直前または直後に電気ショック1回を実施する。アドレナリン投与のために電気ショックが遅れてはならない。電気ショックの直後にアドレナリンを投与する場合、再度のリズムチェックは行わない。
- \*5 心停止前に静脈路確保が完了した傷病者が心停止になった場合、ショック適応リズムであれば、電気ショックを実施する。アドレナリン投与は、ショック実施直後ではなく、2分後に行う。
- \*6 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

CPA傷病者に対するプロトコル 新旧対照表

(案) 改正後

改正前

平成 2 9 年 6 月 策 定

令和 2 年 1 2 月 改 正

大阪府

(案)

# CPA傷病者に対する プロトコル



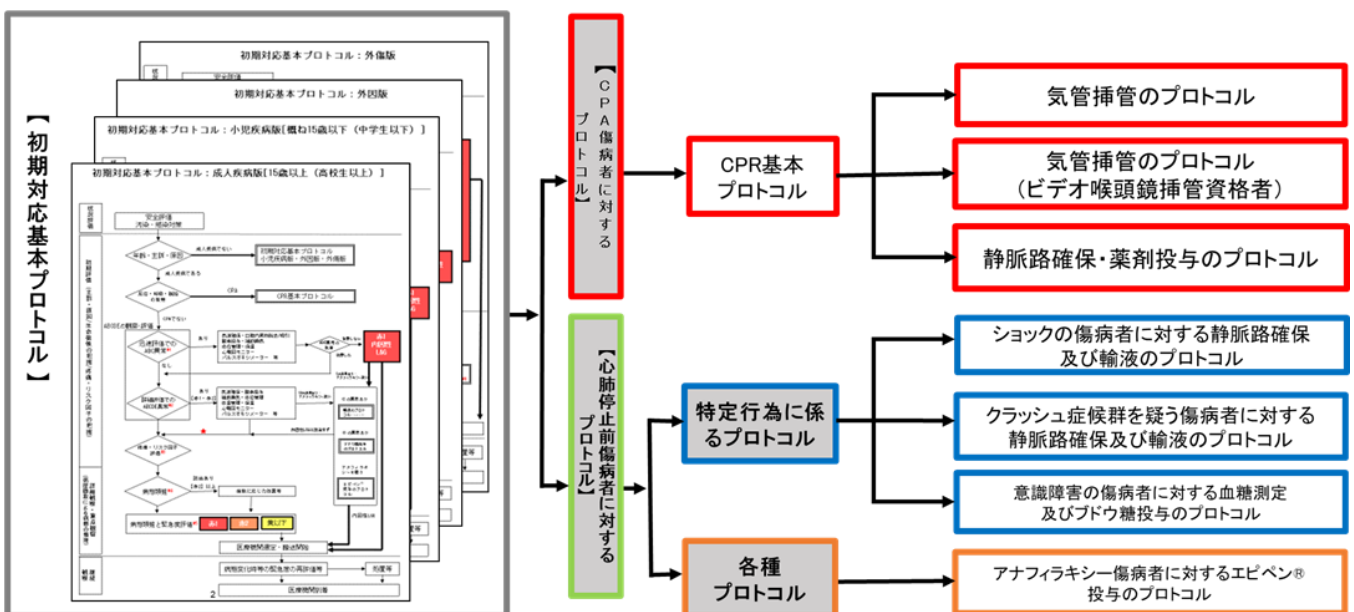
# CPA傷病者に対するプロトコルとは

初期対応基本プロトコルの指示に従い、CPA傷病者に対して、特定行為を含めた救急隊の活動手順書である。以下の4つのプロトコルがある。

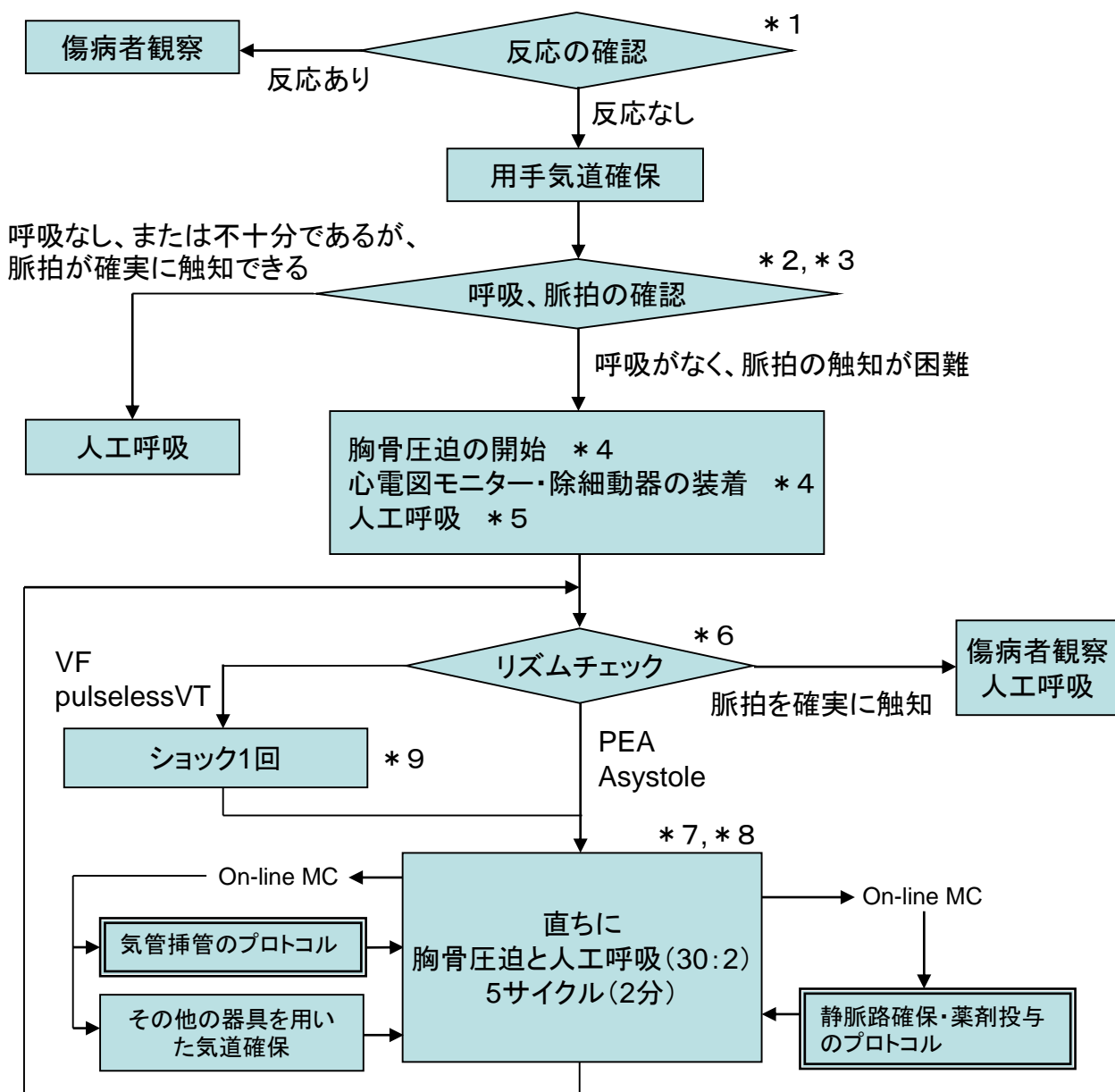
- 「CPR基本プロトコル」
- 「気管挿管のプロトコル」
- 「気管挿管のプロトコル(ビデオ喉頭鏡挿管資格者)」
- 「静脈路確保・薬剤投与のプロトコル」

上記プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

## (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



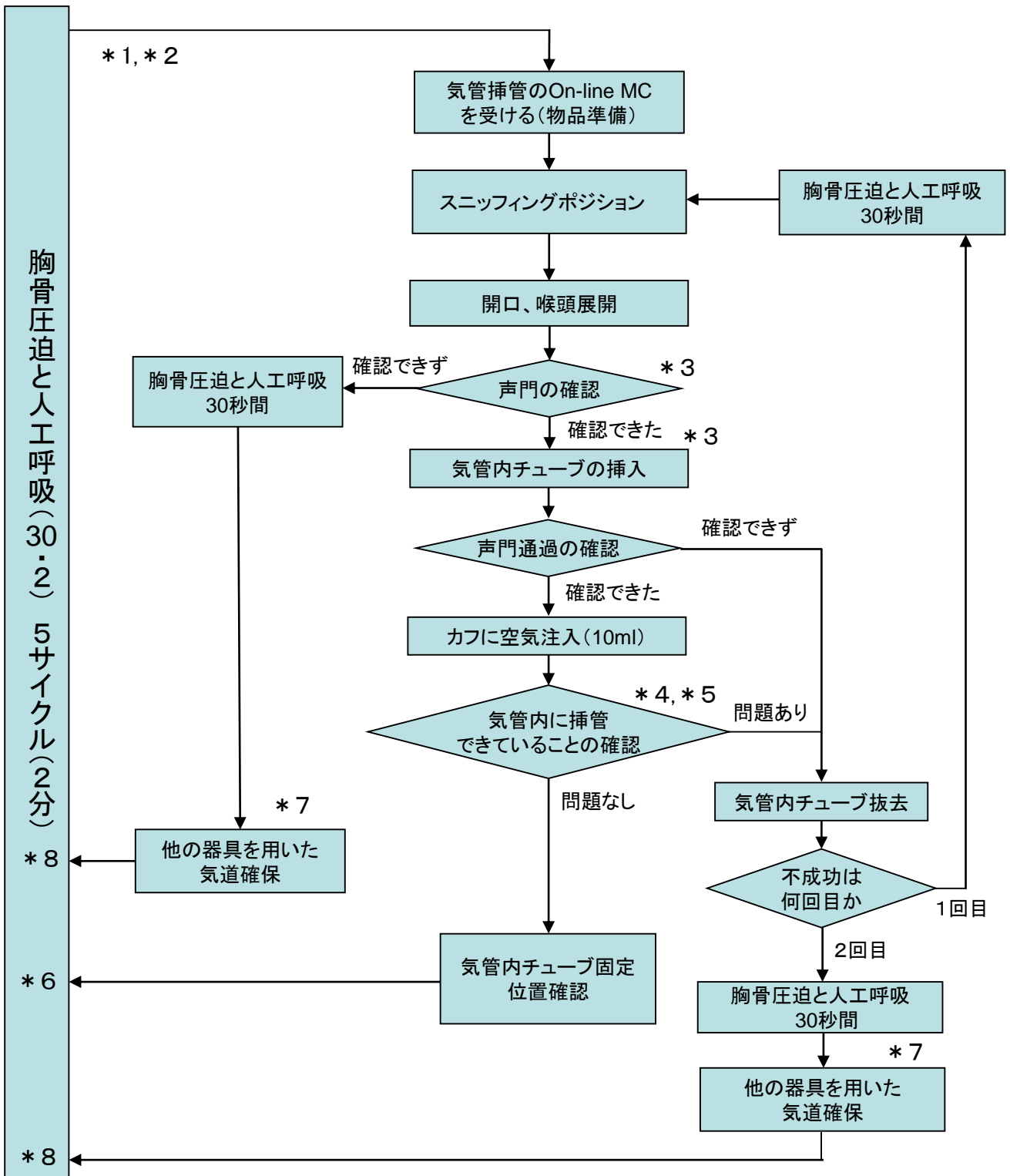
# CPR基本プロトコル



- \* 1 大声で呼びかけあるいは肩をたたいても何らかの応答や目的のある仕草がなければ反応なしとみなす。
- \* 2 呼吸があるか、脈拍を確実に触知できるかを、気道確保を含めて10秒以内に確認する。脈拍の触知が困難な場合は、反応と呼吸のみで心停止を判断する。小児、乳児の場合、十分な酸素投与や人工呼吸にもかかわらず、心拍数が60回/分以下でかつ循環が悪い場合は胸骨圧迫を開始する。
- \* 3 死戦期呼吸は心停止として扱う。小児、乳児の場合、10回/分以下の徐呼吸は呼吸停止と同様に対応する。
- \* 4 心停止と判断した場合、胸骨圧迫を開始するとともに心電図モニター・除細動器を装着し、準備が整い次第リズムチェックを行い、除細動対応の波形であれば、可能な限り早期の段階で除細動を実施する。
- \* 5 目前での心停止や有効な人工呼吸を伴う心肺蘇生から引き継ぐ場合には、初回の人工呼吸は30回の胸骨圧迫の後に行う。それ以外の場合には、人工呼吸の準備が整い次第実施する。以降、胸骨圧迫と人工呼吸を30:2で行う。
- \* 6 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。
- \* 7 小児、乳児に対して二人で実施する場合は15:2とする。
- \* 8 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施する。
- \* 9 乳児、小児、成人を対象とする。乳児および未就学児には小児用パッドを用いることが望ましい。

〔 本プロトコルはいわゆる「半自動式除細動器」の使用を前提としている。  
 その他の機種については地域MC協議会で手順等を確認しておくことが望ましい。 〕

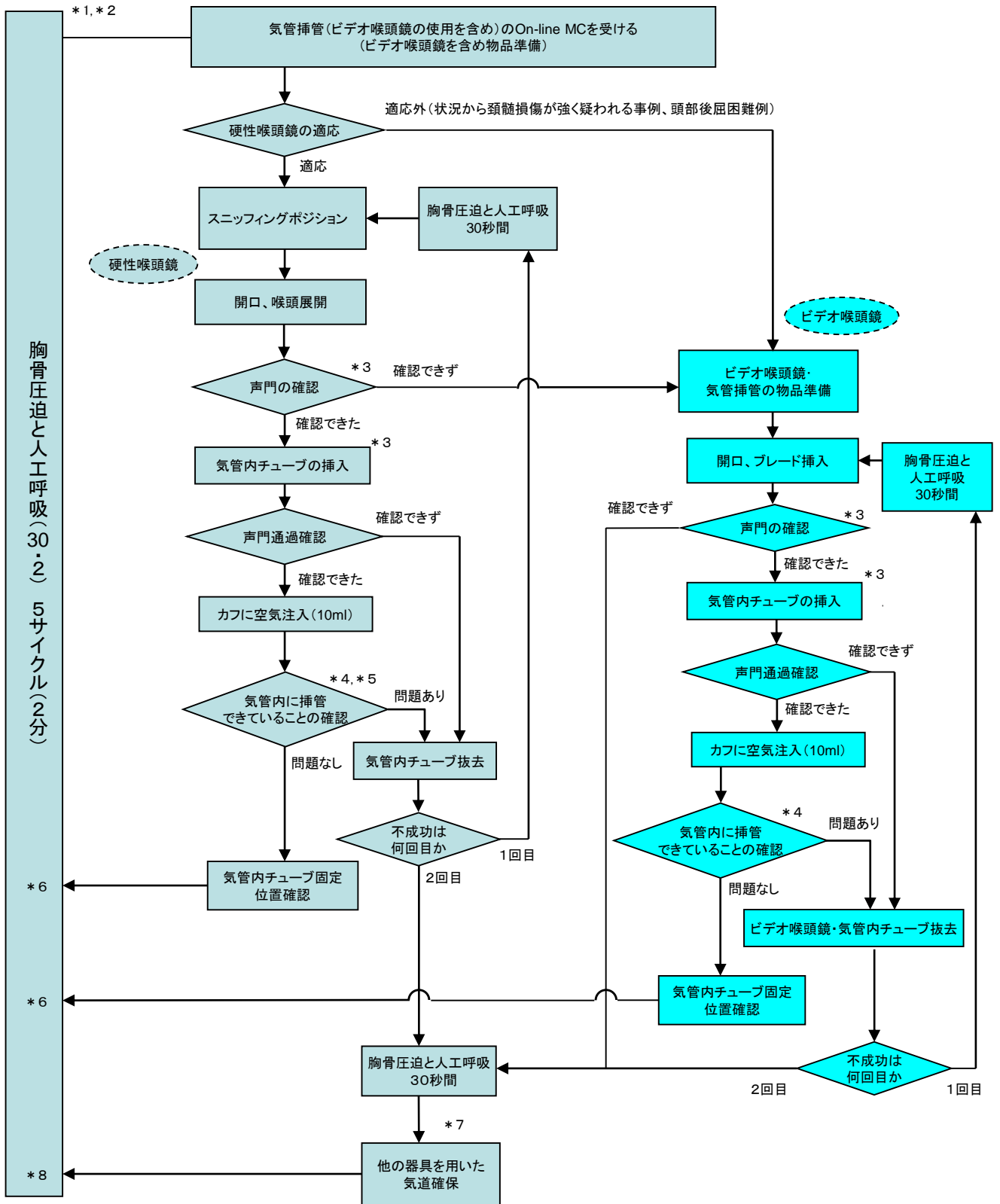
# 気管挿管のプロトコル \*1,\*2



- \*1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \*2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \*3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \*4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \*5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \*6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \*7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \*8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

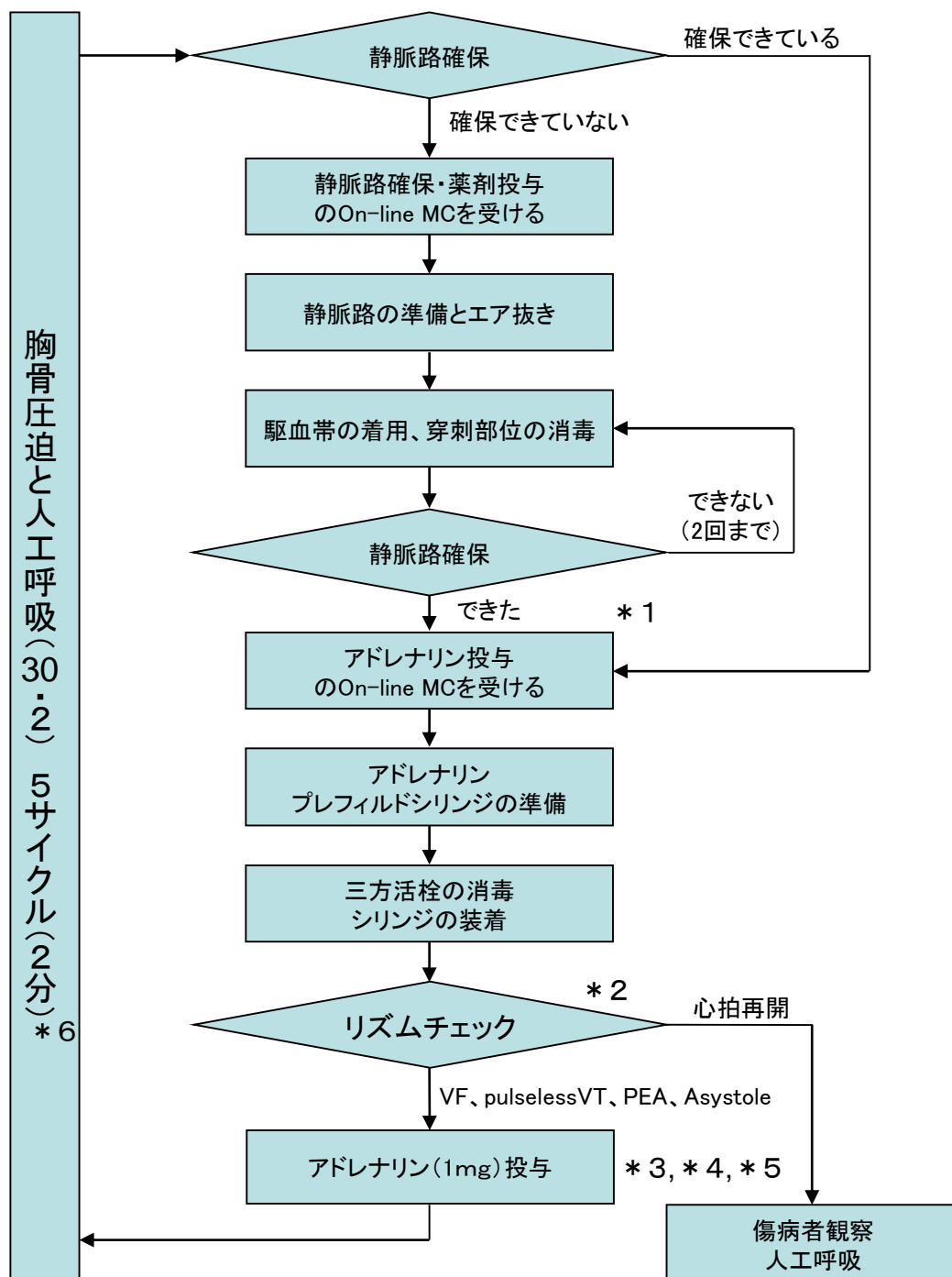
# 気管挿管の protocols (ビデオ喉頭鏡挿管資格者)

\*1,\*2



- \* 1 本プロトコルの適応は、成人で心臓機能停止、かつ呼吸機能停止であるものとする。
- \* 2 気管挿管のために電気ショックの実施が遅れてはならない。
- \* 3 胸骨圧迫は、可能な限り中断することなく実施し、やむを得ない場合でも10秒以内の中断にとどめる。
- \* 4 視診、聴診による観察所見とあわせて、呼気CO2モニタを有する場合は(連続)監視を行う。呼気CO2モニタが無ければ器具を用いた確認を併用する。食道検知器を使用する場合は、チューブ挿入直後に装着し確認する。カフはその後に膨張させる。
- \* 5 気管内チューブの位置に確信がもてない場合は喉頭鏡で再度展開し、気管内チューブが声門を通過しているか確認する。
- \* 6 胸骨圧迫は中断なく行い、人工呼吸と同期させない。
- \* 7 必要に応じて再度指示を受ける。
- \* 8 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

# 静脈路確保・薬剤投与のプロトコル



\* 1 アドレナリン投与の適応は、およそ8歳以上  
かつ

1. VF/pulselessVT
2. PEA

3. 心停止に陥ってからの時間が短時間であると推測できるAsystoleのいずれかを満たすものとする。

\* 2 リズムチェックとは、心電図の波形確認を行うとともに、必要に応じて脈拍の確認を行うことをいう。

\* 3 薬剤もれがあった場合は、静脈路の再確保は行わない。

\* 4 VF/pulselessVTに対しては、アドレナリン投与直前または直後に電気ショック1回を実施する。アドレナリン投与のために電気ショックが遅れてはならない。電気ショックの直後にアドレナリンを投与する場合、再度のリズムチェックは行わない。

\* 5 心停止前に静脈路確保が完了した傷病者が心停止になった場合、ショック適応リズムであれば、電気ショックを実施する。アドレナリン投与は、ショック実施直後ではなく、2分後に行う。

\* 6 適切な換気が可能であれば、胸骨圧迫と人工呼吸は同期させない。

平 成 2 9 年 6 月

策 定

令 和 2 年 1 2 月

改 正

大阪府

改正後（案）

改正前

資料 3-3-1

(案)

初期対応基本プロトコル

大阪府

疾病傷病者のプロトコル

小児疾病傷病者のプロトコル

外傷・熱傷傷病者のプロトコル

その他の外因傷病者のプロトコル

大阪府救急業務高度化推進連絡協議会

平成27年3月9日 作成

平成31年4月1日から大阪府救急医療対策審議会  
救急業務高度化推進に関する部会

### 初期対応基本プロトコル

初期対応基本プロトコル(以下、本プロトコル)は、「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」をもとに、【成人疾病】【小児疾病】【外因】【外傷】の4つのカテゴリーにおける、傷病者の観察と処置、及び緊急度判定と病態類推から医療機関を選定するまでの救急隊員及び救急救命士の基本活動を示したものである。

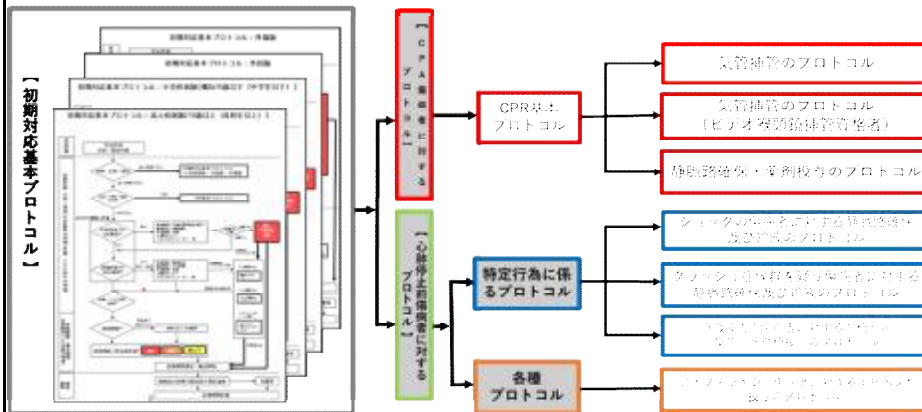
救急隊員及び救急救命士は、傷病者の類型に応じて、本プロトコルとCPR基本プロトコルに基づき現場活動を行うとともに、必要に応じて救急救命処置に関する活動詳細プロトコルに移行する。

本プロトコルは複数の医師の合意により作成された事前指示書であり、救急隊員及び救急救命士は本プロトコルに従い現場救護活動を行うこととなる。逸脱する場合は、オンラインメディカルコントロールにて医師の助言をうけるべきである。

なお、本プロトコルは、大阪府の統一版であるが、救急医療体制や従来の活動状況に応じて地域メディカルコントロール協議会の医師により修正しても良い。なお、本プロトコルの周知を隊員にあまねく徹底することが重要であり、このためには指導救命士等が本プロトコルを活用した教育・指導を行うことが望ましい。

本プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

### (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



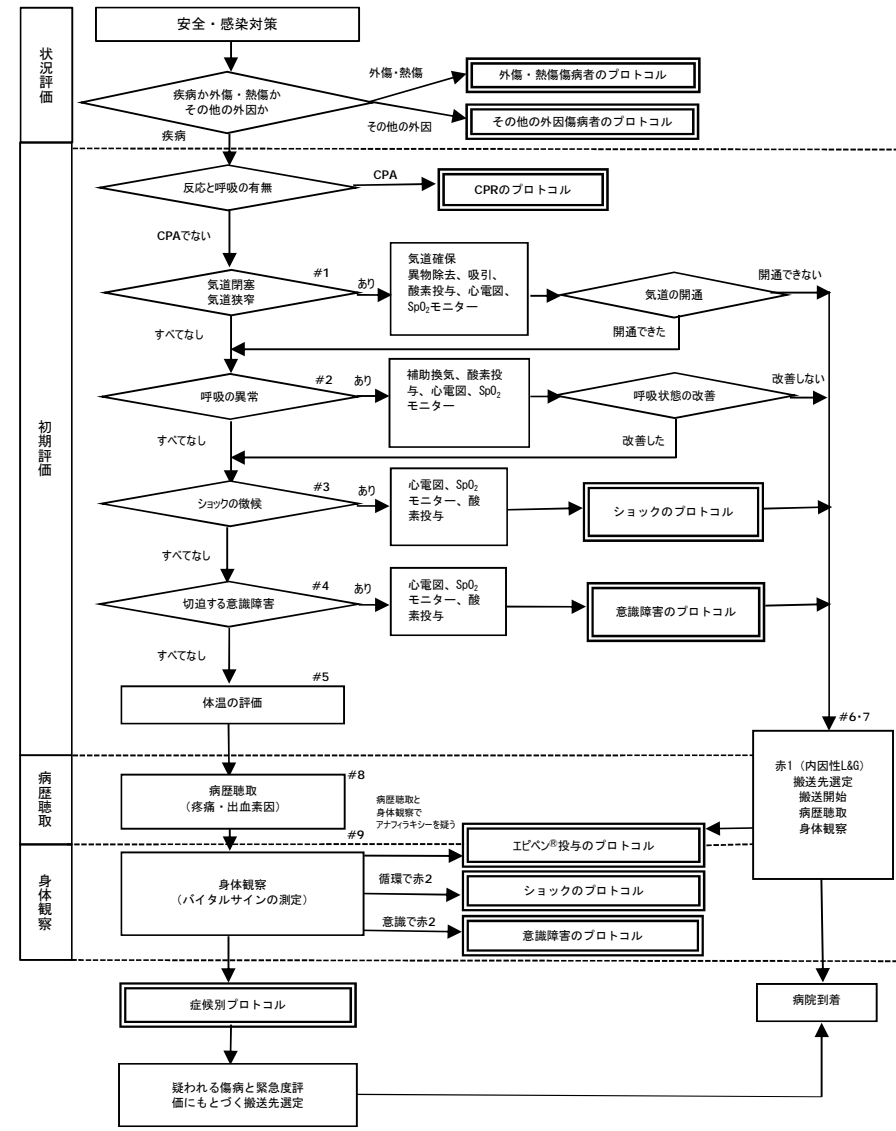
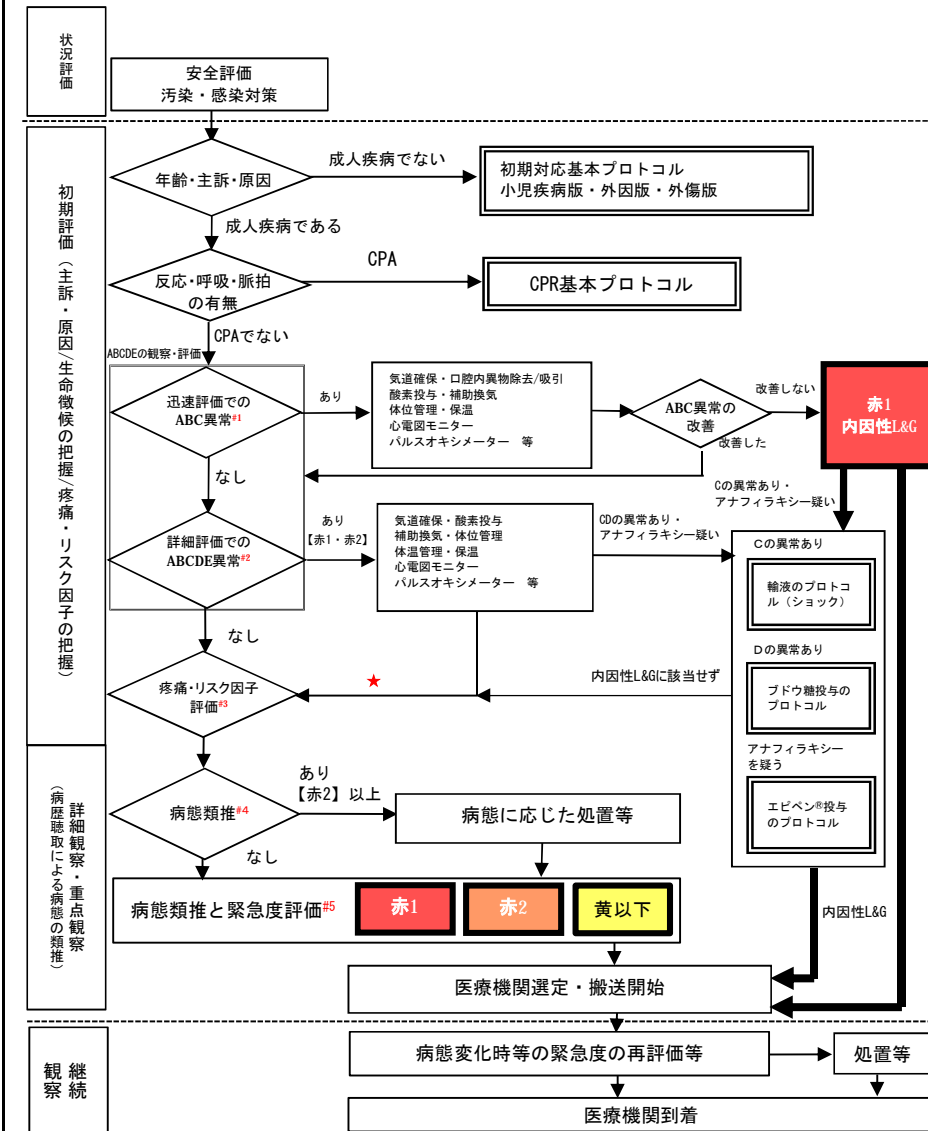


改正後 (案)

改正前

初期対応基本プロトコル：成人疾病版[15歳以上（高校生以上）]

疾病傷病者のプロトコル(15歳以上)



改正後（案）	改正前
<p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">成人疾病版</p> <p>#1 迅速評価でのABC異常 生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。 該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&amp;Gと判断する。</p> <p>《気道の異常》 重度の吸気性喘鳴、過度の陥没呼吸（鎖骨上、胸骨上又は胸骨部）、シーソー呼吸 《呼吸障害》 過度の努力呼吸（過度の呼吸努力のため疲労した状態）、会話不能又は単語しか発声できない、高度の徐呼吸又は高度の頻呼吸 《循環障害》 皮膚蒼白・冷感・湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の徐脈又は高度の頻脈、湧き出るような大量出血（吐血・性器出血）</p> <p>#2 詳細評価でのABCDE異常 観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。 ★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行いつつ改善がなければ搬送を優先する。</p> <p>《気道の異常》 【赤2】：増悪する吸気性喘鳴 《呼吸障害》 【赤1】：呼吸数&lt;10/分、呼吸数≥30/分、SpO<sub>2</sub>&lt;90%（酸素投与なし）、SpO<sub>2</sub>&lt;92%（3L酸素投与下） 【赤2】：努力呼吸（呼吸努力が増加した状態）、起坐呼吸、会話がとぎれとぎれになる、口唇チアノーゼ 呼吸音の減弱・左右差、SpO<sub>2</sub>:90-91%（酸素投与なし）、SpO<sub>2</sub>:92-94%（3L酸素投与下） 《循環障害》 【赤1】：脈拍&lt;40/分、脈拍≥120/分、血圧&lt;90mmHg 【赤2】：CRT&gt;2秒、失神（起立性失神）、持続する出血（吐血・性器出血） 《中枢神経障害》 【赤1】：JCS≥30 GCS≤8、急速なレベル低下あり（GCS合計点で2点以上下がる） ヘルニア徴候あり（瞳孔不同、片麻痺、クッシング現象） 【赤2】：JCS:2-20、GCS:9-13 《体温の異常》 【赤2】：体温≤35.0℃、体温≥40.0℃、体温≥37.5℃で他の異常が認められる状態 体温≥38.0℃の免疫不全患者</p> <p>#3 疼痛・リスク因子の評価（SAMPLE等） 【赤2】：深在性急性疼痛の疼痛スコア8～10 【赤2】：出血性素因（血友病等先天性疾患/肝硬変/抗凝固薬内服等）</p> <p>#4 病態類推 詳細な病歴聴取と身体観察により、症状・徴候を収集し、傷病者の病態を類推する。 【赤2】以上：特定病態に該当 《循環器疾患》 <input type="checkbox"/>急性冠症候群 <input type="checkbox"/>肺動脈血栓症 <input type="checkbox"/>急性大動脈解離 <input type="checkbox"/>大動脈瘤切迫破裂 《脳卒中》 <input type="checkbox"/>脳梗塞 <input type="checkbox"/>脳出血 <input type="checkbox"/>くも膜下出血 《消化器疾患》 <input type="checkbox"/>消化管出血 <input type="checkbox"/>急性腹症 【黄】以下：特定病態以外</p> <p>#5 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。 必要に応じてオンラインMCIに指示を仰ぐ</p> <p>内因性ロードアンドゴー（L&amp;G）：生理学的指標において、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。</p>	<p>#1 気道の狭窄所見として、いびき、ゴロゴロ音、異物、口腔咽頭の浮腫を観察する。</p> <p>#2 呼吸の異常として、会話不能～単語のみ、過度の努力呼吸、鼻翼呼吸、起坐呼吸、陥没呼吸、腹式呼吸、気管の牽引、チアノーゼ、呼吸数&lt;10、SpO<sub>2</sub>&lt;90%（酸素投与なし）のいずれかを認めれば緊急度が高い（赤1）と判断し、並行してSpO<sub>2</sub>モニターを装着する。直ちに、酸素を投与し、SpO<sub>2</sub>&lt;92%も緊急度が高い（赤1）と判断する。 必要に応じて補助換気を行う。 COPDが予測される時は、酸素投与は低流量から開始するとともに、必要に応じて補助換気を追加する。</p> <p>#3 循環の評価で、皮膚蒼白、皮膚冷感、皮膚湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の頻脈・徐脈を認めれば、ショック徴候ありと判断する。制御不可能な外出血の存在は出血性ショックを示唆する。</p> <p>#4 切迫する意識障害とは以下のような病態である。 ・JCS≥30（または、ECS≥20、GCS≤8） ・目前での急な意識レベルの低下（例；GCSなら2ポイントの低下） ・ヘルニア徴候（傾眠以下の意識レベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッシング現象、繰り返す嘔吐）</p> <p>#5 体表にふれて、明らかに熱いか冷たいかを評価する。</p> <p>#6 赤1（内因性L&amp;G）では、気道、呼吸、循環に対する必要な処置をおこなった後に、医療機関への搬送を優先する。</p> <p>#7 気道・呼吸・循環異常の赤1傷病者は、救命救急センター等、幅広く重篤な病態に対応できる医療機関を選定する。 切迫する意識障害（赤1）傷病者は、脳血管障害対応医療機関もしくは救命救急センター等を選定する。</p> <p>#8 病歴聴取では、主訴、病歴、時間関係、疼痛の強さ、出血性素因、慢性透析、糖尿病、妊娠、精神疾患、最終食事、内服薬、アレルギー、ADLについて聴取する。</p> <p>#9 身体観察では、バイタルサイン（呼吸数、SpO<sub>2</sub>、血圧、脈拍、体温）の測定、意識レベルや神経学的所見とともに、症状・徴候に関連した部位の観察を行う。</p>

改正後 (案)

改正前

生理学的指標による緊急度評価基準 (成人)

1 表補足因子 生理学的指標	CPA評価	観察	迅速評価		詳細評価			
			赤1	赤2	赤3	黄	緑	
気道の異常 (A)		気管維持時	重度の気管維持時	重度の気管維持時	増悪する気管維持時	呼吸音のない 気管維持時		
		吸気時の 胸部運動	過度の胸壁呼吸 (肋骨上、肋骨上又は肋骨式) 又は肋骨上呼吸	過度の胸壁呼吸 (肋骨上、肋骨上又は肋骨式) 又は肋骨上呼吸	増悪する胸壁呼吸			
呼吸障害 (B)	呼吸不全 呼吸	呼吸様式	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	努力呼吸	呼吸音のない		
		会話と意識との 関係	会話不能又は 単語しか発音できない	会話不能又は 単語しか発音できない	単語しか発音できない	会話不能		
		口唇青紫 (還元型 ヘモグロビン量の 多い)				口唇チアノーゼ		
		呼吸音	高度の湿啰音又は 葉間摩擦音	高度の湿啰音又は 葉間摩擦音				
		呼吸音				呼吸音の減弱又は 左右差		
		動脈血酸素飽和度 (酸素投与なし)						
		動脈血酸素飽和度 (酸素投与下)			SpO2 < 92%	SpO2 : 92-94%	SpO2 ≥ 95%	
循環障害 (C)	循環系 状態因子	循環状態	皮膚蒼白・冷感・湿潤	皮膚蒼白・冷感・湿潤				
		脈拍	鳴音動脈雑音聴知不可	鳴音動脈雑音聴知不可				
			高度の浮腫又は 高度の乾眼	高度の浮腫又は 高度の乾眼				
				脈拍 < 40/分 脈拍 > 140/分				
		末梢循環、血圧			MAP < 60 血圧 < 110mmHg MAP < 60			
		顔面蒼白又は 顔面赤化 (大量を伴う)				失神 (起立性失神)	起立時にふらつく 又は血圧が低下する (起立性低血圧)	
中枢神経障害 (D)	全く又は 少ない	意識レベル		GCS ≤ 8	GCS : 9-13	GCS : 14	GCS : 15	
		意識レベル低下		急速な意識レベル低下 ① 意識レベル低下 ② 瞳孔反応消失 ③ 瞳孔不等大 ④ ヘルニア徴候あり ⑤ 瞳孔固定				
		ヘルニア徴候						
体温の異常 (E)		体温			体温 ≤ 35.0℃ 体温 ≥ 40.0℃	体温 ≥ 38.5℃	体温 ≥ 37.6℃	
						体温 ≥ 38.0℃の 免疫不全患者		

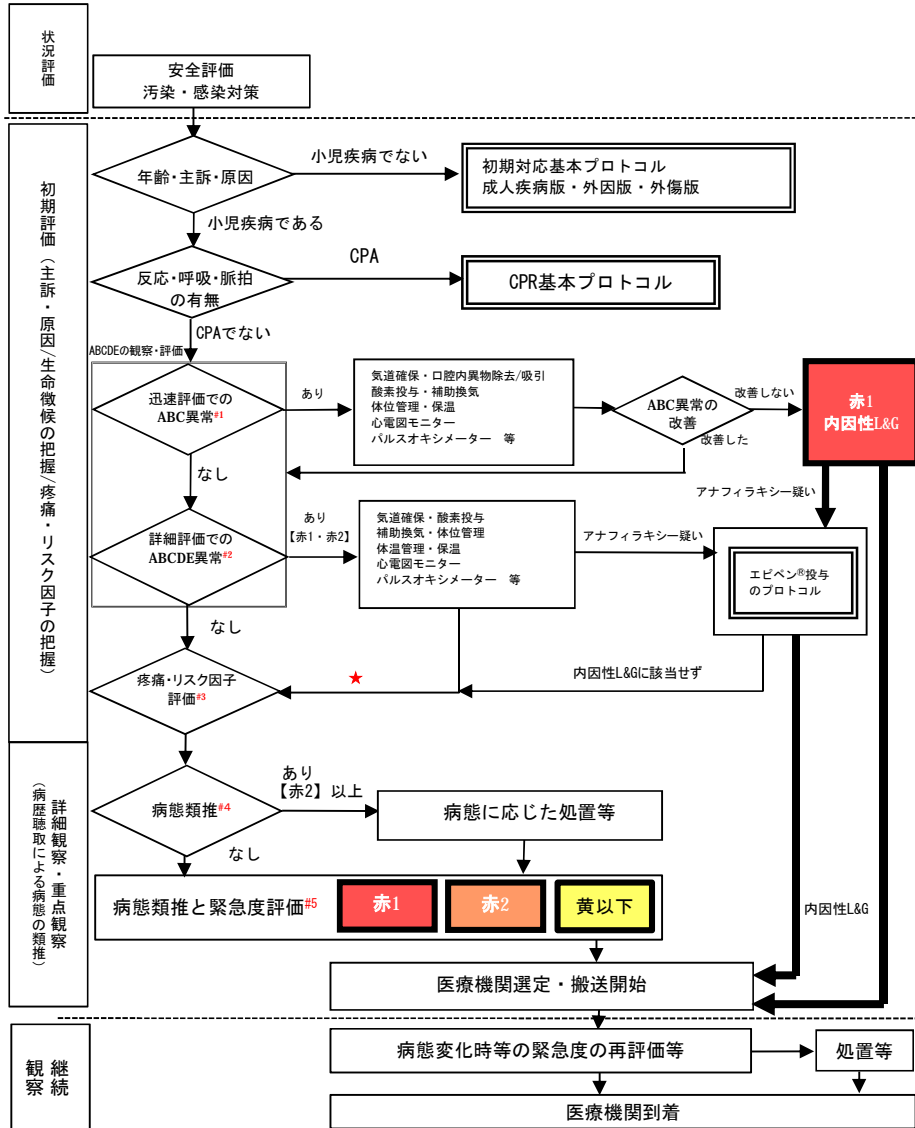
緊急度評価: 第一補足因子

		赤1 (市町村によるGCS評価 を対応)	赤2	黄以下
第1段階	気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫		
	呼吸	会話不能～単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 起座呼吸 隔浪呼吸 腹式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 呼吸数 < 10 SpO2 < 90% (酸素投与なし) SpO2 < 92% (酸素投与下)	努力呼吸 とびれとびれの会話 重度低気圧喘鳴 SpO2 < 92% (酸素投与なし) SpO2 < 95% (酸素投与下)	赤1, 2に該当しない
	循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 骨動脈脈拍聴知不可 高度の頻脈・徐脈 制御不可能な外出血	血圧 < 90mmHg 脈拍 ≥ 120/分, < 50/分 循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続	赤1, 2に該当しない
	意識	JCS ≥ 30(または、ECS ≥ 20, GCS ≥ 8) 目下での急な意識レベルの 低下 ヘルニア徴候 (顔面以下の意識レベルで、 片麻痺、瞳孔不同、クッシング 現象、繰り返す嘔吐)	JCS 2-20 GCS 9-13	赤1, 2に該当しない
	体温		明らかに熱い 明らかに冷たい 35℃以下 40℃以上 38℃以上で敗血症・免疫不全の疑い	赤1, 2に該当しない
第2段階	疼痛スコア		急性の深在性で 疼痛スコア (9-10)	赤1, 2に該当しない
	出血性素因		先天性出血疾患 抗凝固薬の内服	赤1, 2に該当しない



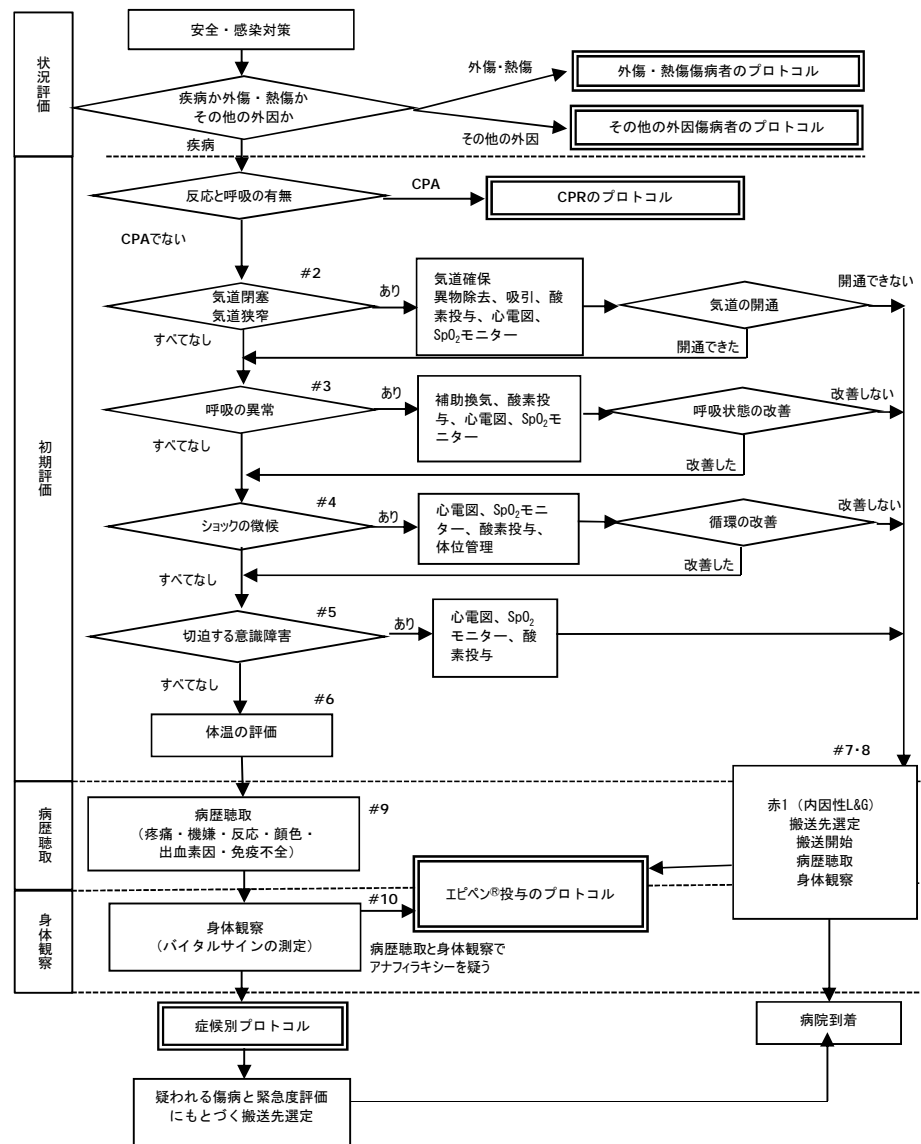
改正後 (案)

初期対応基本プロトコル：小児疾病版 [概ね15歳以下 (中学生以下)]



改正前

小児疾病傷病者のプロトコル (15歳未満) #1



改正後 (案)

小児疾病版

**【小児疾病版】に「輸液(ショック・クラッシュ)とブドウ糖投与」を記載していない。ただし、15歳で上記の処置が必要と判断された時は、活動プロトコルを開始する。**

#1 迅速評価でのABC異常  
 生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。  
 該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&Gと判断する。

《気道の異常》  
 重度の吸気性喘鳴、過度の陥没呼吸(鎖骨上、胸骨上又は胸骨部)、シーソー呼吸  
 《呼吸障害》  
 過度の努力呼吸(過度の呼吸努力のため疲労した状態)、呻吟(しんごん)、会話不能又は単語しか発声できない、口唇チアノーゼ、高度の徐呼吸\*又は高度の頻呼吸\*  
 《循環障害》  
 皮膚蒼白・冷感・湿潤、網状皮斑、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の徐脈\*又は高度の頻脈\*、湧き出るような大量出血(吐下血・性器出血)

#2 詳細評価でのABCDE異常  
 観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。  
 ★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置をいつ改善がなければ搬送を優先する。

《気道の異常》  
 【赤2】:増悪する吸気性喘鳴  
 《呼吸障害》  
 【赤1】:呼吸音の減弱・左右差、SpO<sub>2</sub><90%(酸素投与なし)、SpO<sub>2</sub><92%(3L酸素投与下)  
 【赤2】:努力呼吸(呼吸努力が増加した状態)、起坐呼吸、会話がとぎれとぎれになる、徐呼吸\*又は頻呼吸\*  
 SpO<sub>2</sub>:90-91%(酸素投与なし)、SpO<sub>2</sub>:92-94%(3L酸素投与下)  
 《循環障害》  
 【赤1】:低血圧\*  
 【赤2】:徐脈\*又は頻脈\*、CRT>2秒、失神(起立性失神)、持続する出血(吐下血・性器出血)  
 《中枢神経障害》  
 【赤1】:JCS≥30 GCS≤8、急速なレベル低下あり(GCS合計点で2点以上下がる)、ヘルニア徴候あり(瞳孔不同、片麻痺、クッシング現象)  
 【赤2】:JCS:2-20、GCS:9-13  
 《体温の異常》  
 【赤2】:体温≤35.0℃、体温≥41.0℃、体温≥37.5℃で他の異常が認められる状態  
 体温≥37.5℃の免疫不全患者

#3 疼痛・リスク因子の評価(SAMPLE等)  
 【赤2】:6歳以上:深在性急性疼痛の疼痛スコア8~10、5歳以下:行動スケール8~10  
 【赤2】:先天性疾患(出血性疾患、心疾患又は免疫不全等)

#4 病態類推 (別紙2:緊急度、重症度が高い特徴的な症状・徴候)  
 【赤2】以上:詳細な病歴聴取と身体観察により、症状・徴候を収集し、傷病者の病態類推を行い、緊急度、重症度が高い特徴的な症状・徴候に該当

#5 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。  
 必要に応じてオンラインMCIに指示を仰ぐ  
 内因性ロードアンドゴー(L&G):生理学的指標において、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。  
 \*は(別紙1:小児傷病者のバイタル基準)を参照

改正前

- #1 本プロトコルの対象は小児(15歳未満)とする。
- #2 気道の狭窄所見として、いびき、ゴロゴロ音、異物、口腔咽頭の浮腫を観察する。
- #3 呼吸の異常として、会話不能～単語のみ、過度の努力呼吸、鼻翼呼吸、起座呼吸、陥没呼吸、腹式呼吸、気管の牽引、チアノーゼ、呼吸数の異常(※)、SpO<sub>2</sub><90%(酸素投与なし)のいずれかを認めれば緊急度が高い(赤1)と判断し、並行してSpO<sub>2</sub>モニターを装着する。直ちに、酸素を投与し、SpO<sub>2</sub><92%も緊急度が高い(赤1)と判断する。必要に応じて補助換気を行う。
- #4 循環の評価で、皮膚蒼白、皮膚冷感、皮膚湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、脈拍の異常(※)を認めれば、ショック徴候ありと判断する。制御不可能な外出血の存在は出血性ショックを示唆する。
- #5 切迫する意識障害とは以下のような病態である。
  - ・JCS≥30(または、ECS≥20、GCS≤8)
  - ・目前での急な意識レベルの低下(例:GCSなら2ポイントの低下)
  - ・ヘルニア徴候(傾眠以下の意識レベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッシング現象、繰り返す嘔吐)
- #6 体表にふれて、明らかに熱いか冷たいかを評価する。
- #7 赤1(内因性L&G)では、気道、呼吸、循環に対する必要な処置をおこなった後に、医療機関への搬送を優先する。
- #8 赤1傷病者は、救命救急センターまたは重症小児対応医療機関等、幅広く重篤な病態に対応できる医療機関を選定する。
- #9 病歴聴取では、主訴、病歴、時間関係、疼痛の強さ、出血性素因、免疫不全、慢性透析、糖尿病、精神疾患、最終食事、内服薬、アレルギー、ADLについて聴取するとともに、不機嫌、周囲への反応低下、顔色不良も確認する。
- #10 身体観察では、バイタルサイン(呼吸数、SpO<sub>2</sub>、血圧、脈拍、体温)の測定、意識レベルや神経学的所見とともに、症状・徴候に関連した部位の観察を行う。

※呼吸・脈拍

	6ヶ月未満	6ヶ月～1歳	1歳～3歳	3歳～6歳	6歳以上
呼吸	<10回/min.未満				
	>80回/min.	>60回/min.	>40回/min.	>30回/min.	>25回/min.
脈拍	<40bpm.				<30bpm
	>210bpm.	>180bpm.	>165bpm.	>140bpm.	>120bpm.

改正後 (案)

生理学的指標による緊急度評価基準 (小児)

1. 改定項目 生理学的指標	CPA評価 赤1	観察 項目/指標	迅速評価		詳細評価		
			赤1	赤2	赤3	黄	緑
気道の異常 (A)		呼吸性喘鳴	重度の呼吸性喘鳴	重度の呼吸性喘鳴	軽度(1)の呼吸性喘鳴	軽度(2)の呼吸性喘鳴	軽度(3)の呼吸性喘鳴
		呼吸時の胸郭運動 (肋骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーブナー呼吸	過度の陥没呼吸 (肋骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーブナー呼吸	過度の陥没呼吸 (肋骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーブナー呼吸	肋骨上、胸骨上又は胸骨部 で軽度の陥没呼吸	肋骨上、胸骨上又は胸骨部 で軽度の陥没呼吸	肋骨上、胸骨上又は胸骨部 で軽度の陥没呼吸
呼吸器 異常 (B)	無呼吸 死後期 呼吸	呼吸様式	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	軽度の努力呼吸	軽度の努力呼吸	軽度の努力呼吸
		嚔吟(しんぎん)		嚔吟(しんぎん)	軽度の嚔吟	軽度の嚔吟	軽度の嚔吟
		全顔と鼻根との 関係	全顔不能又は 単弱しか発現できない	全顔不能又は 単弱しか発現できない	軽度の全顔不能 又は単弱	軽度の全顔不能 又は単弱	軽度の全顔不能 又は単弱
		口唇所見(還元型 ヘモグロビン量が多い)	口唇チアノーゼ	口唇チアノーゼ	軽度の口唇チアノーゼ	軽度の口唇チアノーゼ	軽度の口唇チアノーゼ
		呼吸回数	高度の徐呼吸*又は 高度の頻呼吸*	高度の徐呼吸*又は 高度の頻呼吸*	軽度の徐呼吸* 又は軽度の頻呼吸*	軽度の徐呼吸* 又は軽度の頻呼吸*	軽度の徐呼吸* 又は軽度の頻呼吸*
		嚔動		呼吸音(呼吸)は弱く	呼吸音(呼吸)は弱く	呼吸音(呼吸)は弱く	呼吸音(呼吸)は弱く
		動脈血酸素飽和度 (酸素投与なし)			軽度の動脈血酸素飽和度低下	軽度の動脈血酸素飽和度低下	軽度の動脈血酸素飽和度低下
動脈血酸素飽和度 (3L酸素投与下)			軽度の動脈血酸素飽和度低下	軽度の動脈血酸素飽和度低下	軽度の動脈血酸素飽和度低下		
循環系 (C)	項動脈 脈知せず	循環状態	皮膚蒼白・冷感・湿潤	皮膚蒼白・冷感・湿潤	軽度の皮膚蒼白・冷感・湿潤	軽度の皮膚蒼白・冷感・湿潤	軽度の皮膚蒼白・冷感・湿潤
		網状皮斑		網状皮斑	軽度の網状皮斑	軽度の網状皮斑	軽度の網状皮斑
		脈拍	異常動脈脈拍触知不可	異常動脈脈拍触知不可	軽度の異常動脈脈拍触知不可	軽度の異常動脈脈拍触知不可	軽度の異常動脈脈拍触知不可
		末梢循環、血圧	高度の徐脈*又は 高度の頻脈*	高度の徐脈*又は 高度の頻脈*	軽度の徐脈* 又は軽度の頻脈*	軽度の徐脈* 又は軽度の頻脈*	軽度の徐脈* 又は軽度の頻脈*
		起立時の血圧変化 (不感を除く)			軽度の起立時の血圧変化	軽度の起立時の血圧変化	軽度の起立時の血圧変化
		外出血	湧き出るような大量出血	湧き出るような大量出血	軽度の湧き出るような大量出血	軽度の湧き出るような大量出血	軽度の湧き出るような大量出血
中枢神経障害 (D)	全く反応 しない	意識レベル			軽度の意識レベル低下	軽度の意識レベル低下	軽度の意識レベル低下
		急速なレベル低下		急速なレベル低下	軽度の急速なレベル低下	軽度の急速なレベル低下	軽度の急速なレベル低下
		ヘルニア徴候		ヘルニア徴候	軽度のヘルニア徴候	軽度のヘルニア徴候	軽度のヘルニア徴候
体温の異常 (E)		体温			軽度の体温異常	軽度の体温異常	軽度の体温異常

\* パイタル基準値参照

改正前

緊急度評価: 第一補足因子

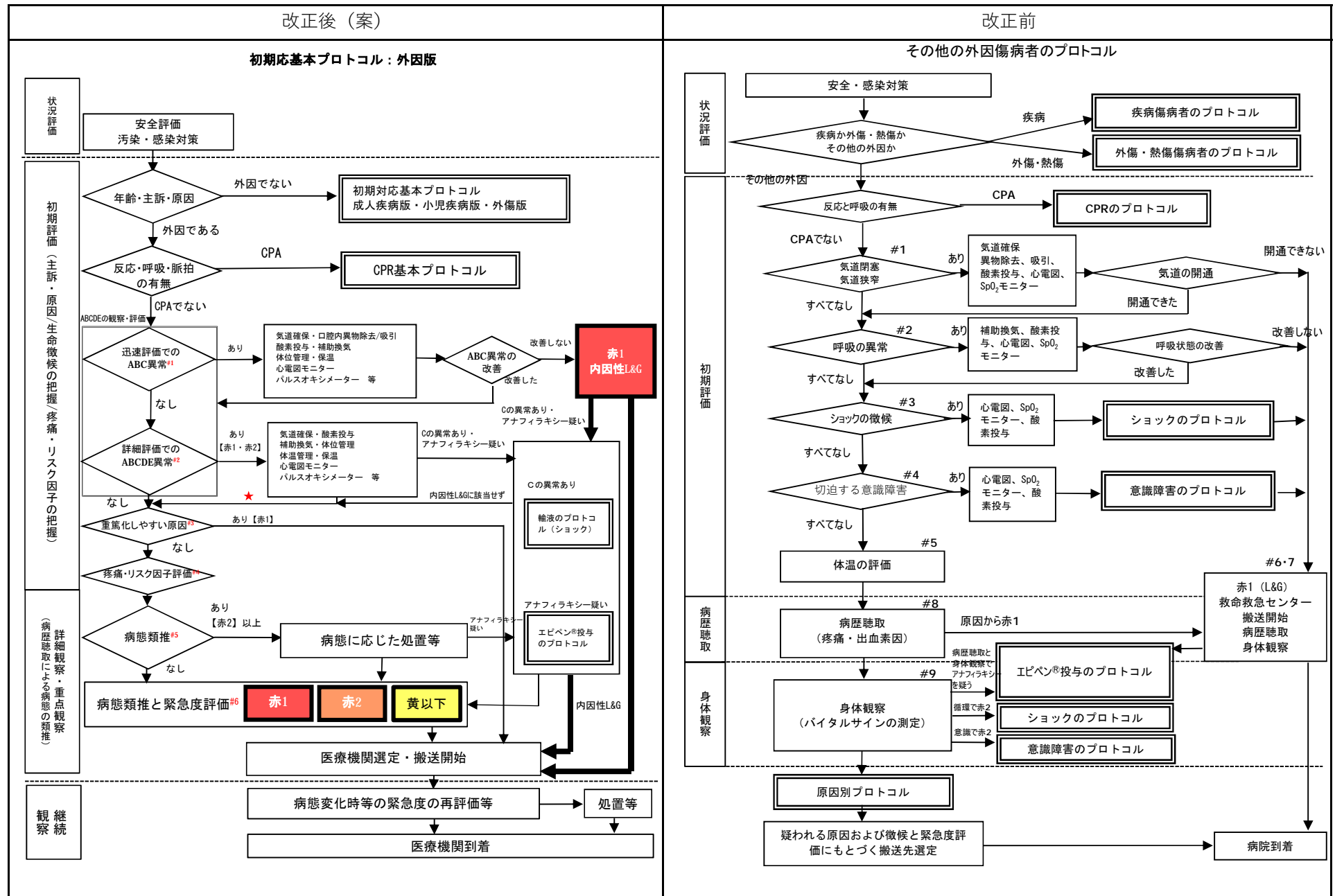
		赤1 (内因性原因による初期呼吸 不全)	赤2	黄以下
第1段階	気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫		
	呼吸	会話不能〜単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 鼾症呼吸 陥没呼吸 腹式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 呼吸の異常 SpO <sub>2</sub> <90% (酸素投与なし) SpO <sub>2</sub> <92% (酸素投与下)	努力呼吸 とぎれとぎれの会話 重度呼吸性陰傷 SpO <sub>2</sub> <92%(酸素投与なし) SpO <sub>2</sub> <95%(酸素投与下)	赤1, 2に該当しない
	循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 骨動脈脈拍触知不可 脈拍の異常 制御不可能な外出血	循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続	赤1, 2に該当しない
	意識	JCS ≥ 30(または、ECS ≥ 20, GCS ≤ 8) 目前での急な意識レベルの 低下 ヘルニア徴候 (鎖乳嚢以下の意識レベルで、 片麻痺、瞳孔不同、クッシング 現象、繰り返す嘔吐)	JCS 2-20 GCS 9-13	赤1, 2に該当しない
	体温		明らかに熱い 明らかに冷たい  35℃以下 40℃以上 37.5℃以上で敗血症・免疫不全の疑い	赤1, 2に該当しない
第2段階	疼痛スコア・機嫌・反応・顔色		急性の深在性で疼痛スコア(8~10)  不機嫌 周囲への反応低下 顔色不良	赤1, 2に該当しない
	先天性疾患		出血要因・免疫不全	赤1, 2に該当しない







改正後（案）	改正前																																
	<table border="1" data-bbox="1128 392 1924 644"> <thead> <tr> <th></th> <th>6か月未満</th> <th>6か月～1歳</th> <th>1歳～3歳</th> <th>3歳～6歳</th> <th>6歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">呼吸</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">&lt;10回/min.未満</td> </tr> <tr> <td>&gt;80回/min.</td> <td>&gt;60回/min.</td> <td>&gt;40回/min.</td> <td>&gt;30回/min.</td> <td>&gt;25回/min.</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">脈拍</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">&lt;40bpm.</td> <td>&lt;30bpm</td> </tr> <tr> <td>&gt;210bpm.</td> <td>&gt;180bpm.</td> <td>&gt;165bpm.</td> <td>&gt;140bpm.</td> <td>&gt;120bpm.</td> </tr> </tbody> </table>						6か月未満	6か月～1歳	1歳～3歳	3歳～6歳	6歳以上	呼吸	<10回/min.未満					>80回/min.	>60回/min.	>40回/min.	>30回/min.	>25回/min.	脈拍	<40bpm.				<30bpm	>210bpm.	>180bpm.	>165bpm.	>140bpm.	>120bpm.
	6か月未満	6か月～1歳	1歳～3歳	3歳～6歳	6歳以上																												
呼吸	<10回/min.未満																																
	>80回/min.	>60回/min.	>40回/min.	>30回/min.	>25回/min.																												
脈拍	<40bpm.				<30bpm																												
	>210bpm.	>180bpm.	>165bpm.	>140bpm.	>120bpm.																												



改正後（案）	改正前
<div style="text-align: center; border: 1px solid black; width: fit-content; margin: 0 auto; padding: 2px;">外因版</div> <p>【外因版】は外傷、熱傷以外の外因性傷病をさす。</p> <p>#1 迅速評価でのABC異常 生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。 該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&amp;Gと判断する。</p> <p>《気道の異常》 《呼吸障害》 緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様 《循環障害》</p> <p>#2 詳細評価でのABCDE異常 観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。 ★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行いつつ改善がなければ搬送を優先する。</p> <p>《気道の異常》 《呼吸障害》 《循環障害》 緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様 《中枢神経障害》 《体温の異常》</p> <p>#3 重篤化しやすい原因 【赤1】 □農業 医薬品：□アスピリン □アセトアミノフェン □血糖降下薬の大量服用 工業薬品：□強酸 □強アルカリ □石油製品 □青酸化合物 家庭用品：□防虫剤 □殺鼠剤 □毒性のある食物</p> <p>#4 疼痛・リスク因子の評価 緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様</p> <p>#5 病態類推 特定病態又は重症化が予測される特徴的な症状・徴候（別紙3） 【赤2】以上： 詳細な病歴聴取と身体観察により、原因、症状・徴候を収集し、傷病者の病態類推を行い、特定病態（潜水病又は減圧症）や重症化が予測される特徴的な症状・徴候に該当</p> <p>#6 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。 必要に応じてオンラインMCIに指示を仰ぐ。</p> <p>内因性ロードアンドゴー（L&amp;G）：生理学的指標において、緊急度を「赤1」と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。</p>	<p>#1 気道の狭窄所見として、いびき、ゴロゴロ音、異物、口腔咽頭の浮腫を観察する。</p> <p>#2 呼吸の異常として、会話不能～単語のみ、過度の努力呼吸、鼻翼呼吸、起座呼吸、陥没呼吸、腹式呼吸、気管の牽引、チアノーゼ、呼吸数&lt;10、SpO<sub>2</sub>&lt;90%（酸素投与なし）のいずれかを認めれば緊急度が高い（赤1）と判断し、並行してSpO<sub>2</sub>モニターを装着する。直ちに、酸素を投与し、SpO<sub>2</sub>&lt;92%も緊急度が高い（赤1）と判断する。 必要に応じて補助換気を行う。 COPDが予測される時は、酸素投与は低流量から開始するとともに、必要に応じて補助換気を追加する。</p> <p>#3 循環の評価で、皮膚蒼白、皮膚冷感、皮膚湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の頻脈・徐脈を認めれば、ショック徴候ありと判断する。制御不可能な外出血の存在は出血性ショックを示唆する。</p> <p>#4 切迫する意識障害とは以下のような病態である。 ・JCS≥30（または、ECS≥20、GCS≤8） ・目前での急な意識レベルの低下（例：GCSなら2ポイントの低下） ・ヘルニア徴候（傾眠以下の意識レベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッシング現象、繰り返す嘔吐）</p> <p>#5 体表にふれて、明らかに熱いか冷たいかを評価する。</p> <p>#6 赤1（L&amp;G）では、気道、呼吸、循環に対する必要な処置を行った後に、医療機関への搬送を優先する。</p> <p>#7 気道・呼吸・循環異常・切迫する意識障害の赤1傷病者は、救命救急センターを選定する。</p> <p>#8 病歴聴取では、主訴、原因、病歴、時間関係、疼痛の強さ、出血性素因、慢性透析、糖尿病、妊娠、精神疾患、最終食事、内服薬、アレルギー、ADLについて聴取する。下記によるものは、症状の如何にかかわらず赤1と判断し救命救急センターへ搬送する。 p 農業 p 医薬品：アスピリン、アセトアミノフェン、血糖降下薬の大量服用 p 工業用品：強酸、強アルカリ、石油製品、青酸化合物 p 家庭用品：防虫剤、殺鼠剤 p 毒性のある食物</p> <p>#9 身体観察では、バイタルサイン（呼吸数、SpO<sub>2</sub>、血圧、脈拍、体温）の測定、意識レベルや神経学的所見とともに、症状・徴候の観察を行う。</p>

改正後（案）		改正前			
		#9 緊急度評価: 第一補足因子			
		赤1 (内因性L&Gとして初期評価 で対応)	赤2	黄以下	
第1段階	気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫			
	呼吸	会話不能～単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 起座呼吸 陥没呼吸 腹式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 呼吸数<10 SpO <sub>2</sub> <90% (酸素投与なし) SpO <sub>2</sub> <92% (酸素投与下)	努力呼吸 ときれときれの会話 重度吸気性喘鳴 SpO <sub>2</sub> <92%(酸素投与なし) SpO <sub>2</sub> <95%(酸素投与下)		赤1, 2に該当しない
	循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 橈骨動脈脈拍触知不可 高度の頻脈・徐脈 制御不可能な外出血	血圧<90mmHg 脈拍≧120/分、<50/分 循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続		赤1, 2に該当しない
	意識	JCS≧30(または、ECS≧20、 GCS≦8) 目前での急な意識レベルの 低下 ヘルニア徴候 (傾眠以下の意識レベルで、 片麻痺、瞳孔不同、クッシング 現象、繰り返す嘔吐)	JCS 2-20 GCS 9-13		赤1, 2に該当しない
	体温		明らかに熱い 明らかに冷たい 35℃以下 40℃以上 38℃以上で敗血症・免疫不全の疑い		赤1, 2に該当しない
第2段階	疼痛スコア		急性の深在性で 疼痛スコア(8～10)		赤1, 2に該当しない
	出血性素因		先天性出血疾患 抗凝固薬の内服		赤1, 2に該当しない

改正後 (案)

改正前

特定病態又は重症化が予測される特徴的な病状・徴候 (別紙3)

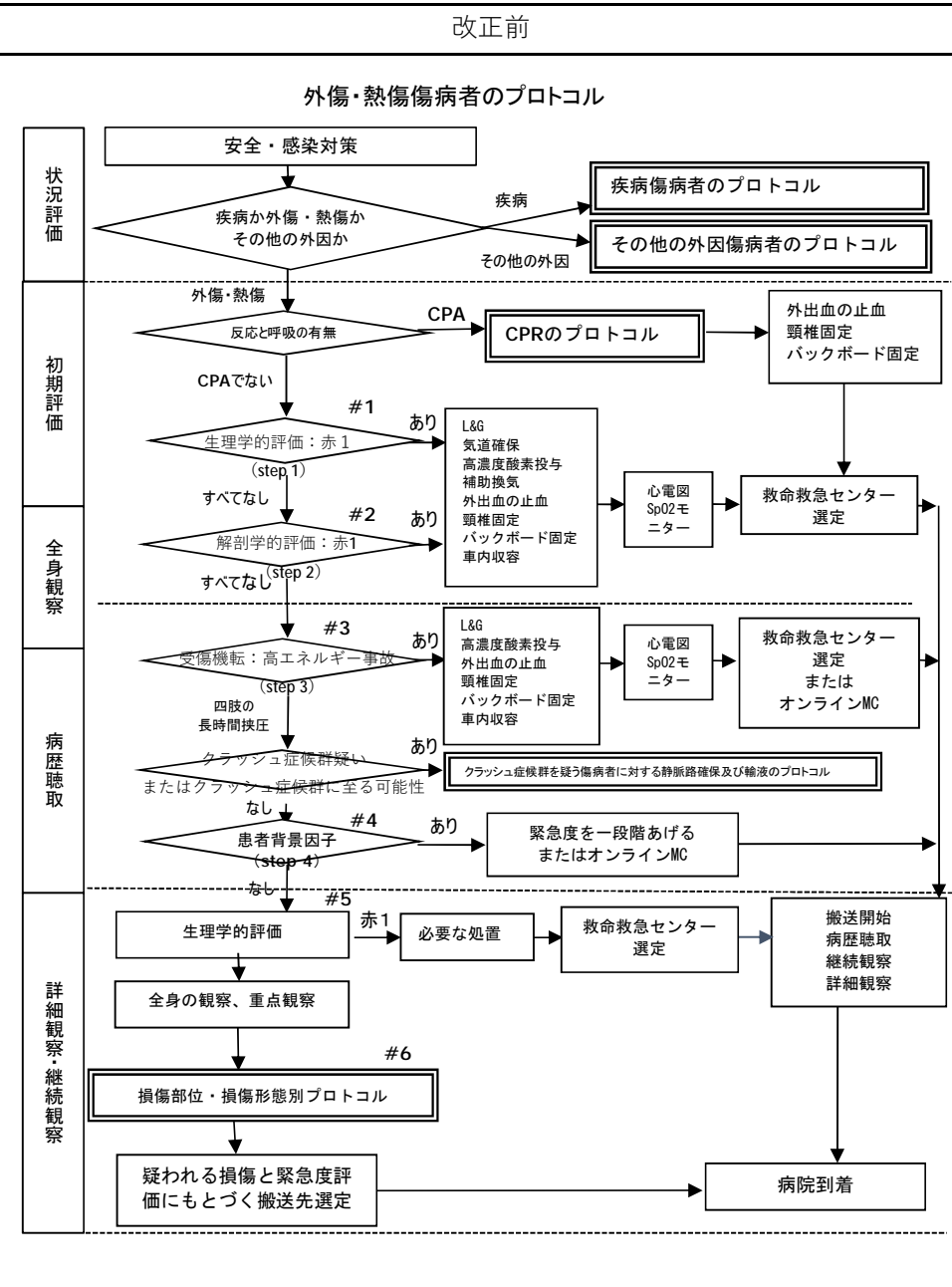
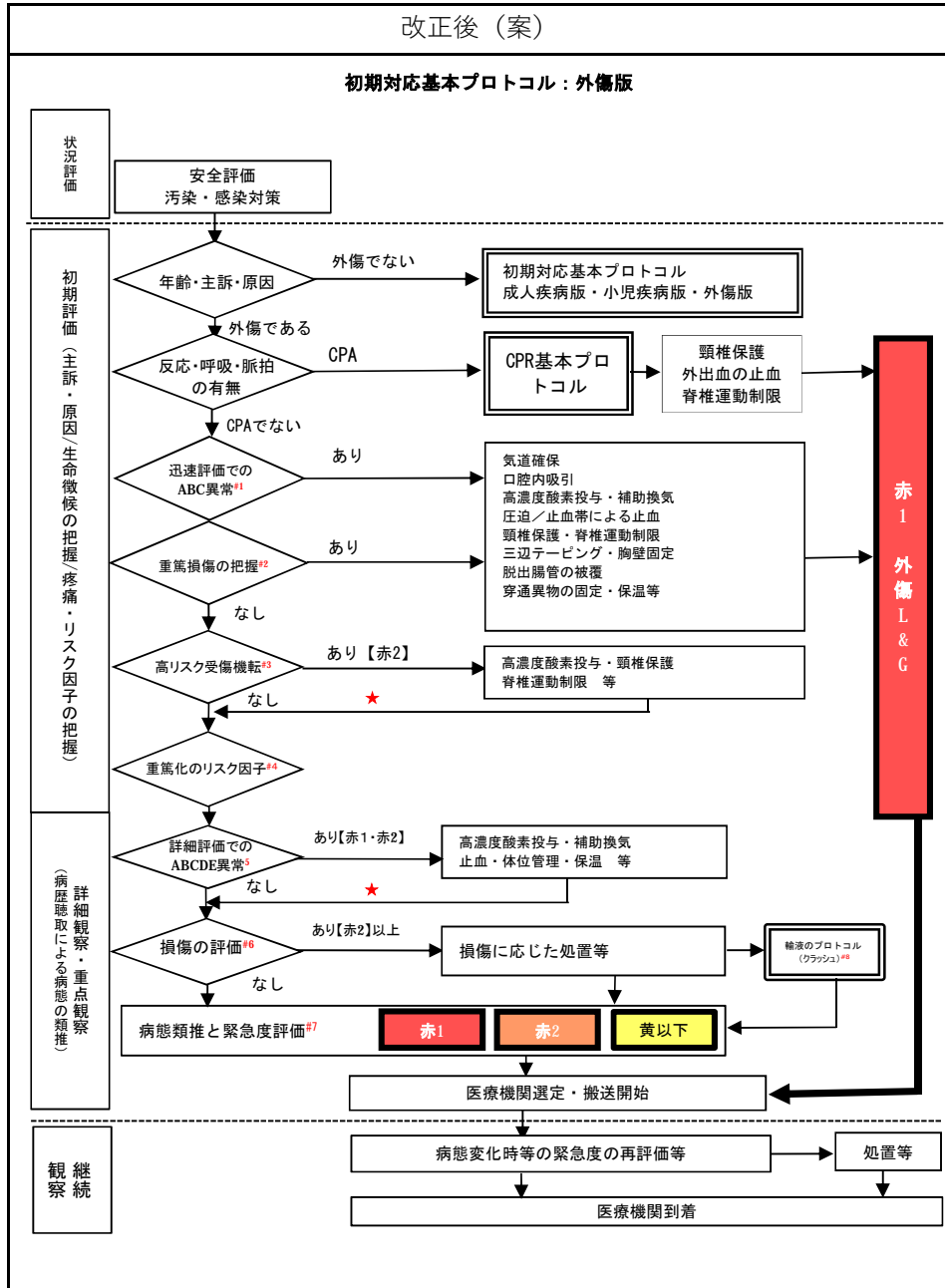
実施基準 別則  
プロトコル: テーブル版 2: 外因  
(感候学的指標と緊急度・重症度関連規定)

実施基準テーブル版  
(外因)

病態/病状	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...
呼吸不全/呼吸器	...	...	...	...	...	...	...
化学動脈硬症/化学病変	...	...	...	...	...	...	...
腎臓病	...	...	...	...	...	...	...
糖尿病	...	...	...	...	...	...	...
心臓病	...	...	...	...	...	...	...
神経系	...	...	...	...	...	...	...
消化器	...	...	...	...	...	...	...
生体による反応/徴候	...	...	...	...	...	...	...
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...

病態/病状	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...
呼吸不全/呼吸器	...	...	...	...	...	...	...
化学動脈硬症/化学病変	...	...	...	...	...	...	...
腎臓病	...	...	...	...	...	...	...
糖尿病	...	...	...	...	...	...	...
心臓病	...	...	...	...	...	...	...
神経系	...	...	...	...	...	...	...
消化器	...	...	...	...	...	...	...
生体による反応/徴候	...	...	...	...	...	...	...
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...

病態/病状	対応	対応	対応	対応	対応	対応	対応
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...
呼吸不全/呼吸器	...	...	...	...	...	...	...
化学動脈硬症/化学病変	...	...	...	...	...	...	...
腎臓病	...	...	...	...	...	...	...
糖尿病	...	...	...	...	...	...	...
心臓病	...	...	...	...	...	...	...
神経系	...	...	...	...	...	...	...
消化器	...	...	...	...	...	...	...
生体による反応/徴候	...	...	...	...	...	...	...
高血圧/脳血管	...	...	...	...	...	...	...



改正後（案）	改正前												
<p>#1 迅速評価でのABC異常 生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。 該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】外傷L&amp;Gと判断する。</p> <p>《気道の異常》 《呼吸障害》 緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様 《循環障害》 (救出に時間を要すると判断した時は必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ)</p> <p>#2 重篤損傷の把握(解剖学的指標) 迅速評価でのABC異常の把握に続いて、全身観察を行い、下記の項目を認めた場合、直ちに救急救命処置を行い搬送を開始する:【赤1】外傷L&amp;G □頭部の開放骨折又は陥没骨折 □顔面の高度な損傷 □胸郭の動揺、変形 □胸郭開放創 □骨盤動揺又は疼痛 □2本以上の中枢側長管骨骨折 □挫滅創又はデグロービング損傷 □四肢動脈損傷 □手関節・足関節より中枢側での四肢切断又は離断 □四肢麻痺 □頭頸部・体幹・大腿又は上腕の穿通性外傷(刺創・銃創・杵創) □気道熱傷(顔面熱傷)</p> <p>#3 高リスク受傷機転 【赤2】以上 □同乗者心肺停止 □車外放出 □車の高度損傷 □バイクと運転者の距離大 □車に跳ね飛ばされた □車に轢過された□高所墜落(成人&gt;6m(3階フロアー以上))(小児&gt;3m(身長2~3倍)) □機械器具に巻き込まれた□体幹部を挟まれた (救出に時間を要すると判断した時は必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ) ★処置を行いながら観察・評価を継続する</p> <p>#4 重症化のリスク因子 【赤2】以上 □12歳以下 □65歳以上 □抗凝固薬又は抗血小板薬の服用 □20週以降の妊婦 □重症化しそうな印象 □心疾患の既往(高血圧等を含む) □呼吸器疾患の既往 □透析患者 □肝疾患の既往 □糖尿病の既往 □薬物中毒の合併</p> <p>#5 ABCDEの詳細評価 観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。 緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様 ★処置を行いながら観察・評価を継続する</p> <p>#6 損傷の評価 【赤2】以上:生命や機能予後を最良化するために緊急度が高いとされる損傷及び搬送先医療機関の選定困難となりやすい外傷(特定損傷(特定病態含む))に該当 □多部位の外傷 □頭蓋内損傷の疑い □眼損傷 □頭部主要器官損傷の疑い □腹部臓器損傷の疑い □開放性の骨折又は脱臼 □閉鎖骨折又は脱臼(12歳以下) □脊髄損傷の疑い □手指又は足趾切断(特定病態) □皮膚の広範囲剥皮創 □重症熱傷 □機能整容を損なう熱傷 【黄】以下 上記に該当しない</p> <p>#7 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。 必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ</p> <p>#8 受傷機転が挟圧(重量物、器械、土砂等に身体が挟まれ圧迫されている状況)などに該当する場合を指す。</p> <p>外傷ロードアンドゴー(L&amp;G):生理学的指標あるいは解剖学的指標により緊急度が「赤1」で、救急救命処置を行いつつ搬送を優先することを指す。</p>	<p>#1 生理学的評価による緊急度判断(step1). 生理学的評価により赤1(別紙参照)と判断される傷病者は、L&amp;Gと判断し救命救急センターに搬送する。 ただし、現場では器具を用いた評価(血圧、SpO2)や詳細観察(瞳孔所見、呼吸回数や脈拍数)は不要である。 外傷患者でショック徴候を認めるものは原則L&amp;Gであるため、クラッシュ症候群が疑われる傷病者以外は、心停止前の輸液の対象とはならない。ただし、救出に時間を要する場合や多数傷病者発生事案等の特殊な場合は各地域の取り決めの中でオンラインMCによる医師の指示を仰ぐ。</p> <p>#2 解剖学的評価による緊急度判断(step2) 全身観察による解剖学的評価により下記損傷が疑われる傷病者は、L&amp;Gと判断し救命救急センターに搬送する。 □頭部の開放骨折・陥没骨折、□顔面頭部の高度な損傷、□皮下気腫、□外頭静脈の著しい怒張 □呼吸音の左右差、□胸郭の動揺・変形・フレイルチェスト、□腹部膨隆、腹壁緊張 □腰部骨盤部の激しい疼痛・圧痛、骨盤動揺、下肢長差、□両側大腿骨骨折 □頭頸部・体幹・大腿・上腕の穿通性外傷(刺創・銃創・杵創)、 □挫滅創、デグロービング損傷、□四肢切断・離断、□四肢の麻痺 □四肢動脈損傷(急激に増大する血腫、拍動性の腫瘍、拍動性の外出血、四肢末梢阻血症状) □15%以上の熱傷を合併した外傷 □II度熱傷20%以上(小児高齢者10%以上)、□III度熱傷10%以上(小児高齢者5%以上) □顔面熱傷、気道熱傷</p> <p>#3 受傷機転による緊急度判断(step3) 下記受傷機転が想定されるものは高エネルギー事故と判断し、L&amp;Gで搬送を優先する。搬送先の選定は救命救急センター、またはオンラインMCとする。</p> <table border="0"> <tr> <td>自動車乗車中</td> <td>□同乗者死亡、□車の横転、□車外放出、□車の高度損傷</td> </tr> <tr> <td>バイク走行中</td> <td>□バイクと運転者の距離大</td> </tr> <tr> <td>歩行者、自転車</td> <td>□車に跳ね飛ばされた、□車に轢過された</td> </tr> <tr> <td>高所墜落</td> <td>□成人&gt;6m(3階フロアー以上)、□小児&gt;3m(身長2~3倍)</td> </tr> <tr> <td>機械器具に挟まれた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>体幹部を挟まれた</td> <td></td> </tr> </table> <p>#4 緊急度および搬送先医療機関の判断時に考慮すべき患者背景因子(step4) 既往歴などの患者背景因子に下記に該当する項目がある傷病者は、緊急度を一段階高くするなどの配慮が必要である。 □12歳以下、□高齢者:65歳以上、□出血性素因、□20週以降の妊婦、□重症化しそうな印象 □心疾患の既往、□呼吸器疾患の既往、□透析患者、□肝疾患の既往、□糖尿病の既往、□薬物中毒の合併</p> <p>#5 生理学的評価は、別紙参照</p> <p>#6 全身詳細観察では、Step1,2,3に問題が無い場合で、重篤な機能障害回避のために緊急処置を必要とする損傷の有無を評価する。 □眼球損傷・眼窩周辺骨折、□四肢外傷、□手指足趾切断(再接着術)、□頭部外傷 □12歳以下の四肢外傷、□12歳以下の頭部外傷 これら以外の外傷に関しては、赤1は救命救急センター、赤2は救命救急センターまたはオンラインMC、黄以下は各専門診療科初期対応医療機関を選定する。</p>	自動車乗車中	□同乗者死亡、□車の横転、□車外放出、□車の高度損傷	バイク走行中	□バイクと運転者の距離大	歩行者、自転車	□車に跳ね飛ばされた、□車に轢過された	高所墜落	□成人>6m(3階フロアー以上)、□小児>3m(身長2~3倍)	機械器具に挟まれた		体幹部を挟まれた	
自動車乗車中	□同乗者死亡、□車の横転、□車外放出、□車の高度損傷												
バイク走行中	□バイクと運転者の距離大												
歩行者、自転車	□車に跳ね飛ばされた、□車に轢過された												
高所墜落	□成人>6m(3階フロアー以上)、□小児>3m(身長2~3倍)												
機械器具に挟まれた													
体幹部を挟まれた													



改正後（案）	改正前																								
<div data-bbox="244 871 1021 1378" style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center;"> <p>平成27年3月 策定</p> <p>令和2年12月 改正</p> <p>大阪府</p> </div>	<p>#1.5 緊急度評価:第一補足因子</p> <table border="1" data-bbox="1133 304 2033 1342"> <thead> <tr> <th data-bbox="1133 304 1301 360">緊急度</th> <th data-bbox="1301 304 1626 360">赤1 (L&amp;Gとして対応)</th> <th data-bbox="1626 304 1924 360">赤2</th> <th data-bbox="1924 304 2033 360">黄以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1133 360 1301 523">気道</td> <td data-bbox="1301 360 1626 523">           気道の閉塞            気道の狭窄            いびき            ゴロゴロ音            異物            口腔咽頭の浮腫         </td> <td data-bbox="1626 360 1924 523"></td> <td data-bbox="1924 360 2033 523"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1133 523 1301 799">呼吸</td> <td data-bbox="1301 523 1626 799">           会話不能～単語のみ            過度の努力呼吸            鼻翼呼吸            陥没呼吸            腹式呼吸            気管の牽引            チアノーゼ            徐呼吸(概ね呼吸数&lt;10)            SpO2&lt;90%(酸素なし)            SpO2&lt;92%(酸素投与下)         </td> <td data-bbox="1626 523 1924 799">           努力呼吸            とぎれとぎれの会話            重度吸気性喘鳴            SpO2&lt;92%(酸素投与なし)            SpO2&lt;95%(酸素投与下)         </td> <td data-bbox="1924 523 2033 799">赤1,2に該当しない</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1133 799 1301 1098">循環</td> <td data-bbox="1301 799 1626 1098">           皮膚蒼白            皮膚冷感            皮膚湿潤            橈骨動脈脈拍触知不可            頻脈・徐脈            (概ね<math>\geq 120</math>, &lt;50)            制御不可能な外出血            血圧&lt;90mmHg         </td> <td data-bbox="1626 799 1924 1098">           ショック徴候を認めた            循環状態が安定しているとは言えない            止血可能な外出血の持続            65歳以上で血圧&lt;110mmHg         </td> <td data-bbox="1924 799 2033 1098">赤1,2に該当しない</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1133 1098 1301 1283">意識</td> <td data-bbox="1301 1098 1626 1283">           JCS<math>\geq 30</math>(またはECS<math>\geq 20</math>,            GCS<math>\leq 8</math>)            目前での急な意識レベルの低下            ヘルニア徴候(傾眠以下の意識レ            ベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッ            シング現象、繰り返す嘔吐)            痙攣重積(痙攣の持続)         </td> <td data-bbox="1626 1098 1924 1283">JCS 2-20、GCS 9-13</td> <td data-bbox="1924 1098 2033 1283">赤1,2に該当しない</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1133 1283 1301 1342">体温</td> <td data-bbox="1301 1283 1626 1342"></td> <td data-bbox="1626 1283 1924 1342">           明らかに熱い(40℃以上)            明らかに冷たい(35℃以下)         </td> <td data-bbox="1924 1283 2033 1342">赤1,2に該当しない</td> </tr> </tbody> </table>	緊急度	赤1 (L&Gとして対応)	赤2	黄以下	気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫			呼吸	会話不能～単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 陥没呼吸 腹式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 徐呼吸(概ね呼吸数<10) SpO2<90%(酸素なし) SpO2<92%(酸素投与下)	努力呼吸 とぎれとぎれの会話 重度吸気性喘鳴 SpO2<92%(酸素投与なし) SpO2<95%(酸素投与下)	赤1,2に該当しない	循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 橈骨動脈脈拍触知不可 頻脈・徐脈 (概ね $\geq 120$ , <50) 制御不可能な外出血 血圧<90mmHg	ショック徴候を認めた 循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続 65歳以上で血圧<110mmHg	赤1,2に該当しない	意識	JCS $\geq 30$ (またはECS $\geq 20$ , GCS $\leq 8$ ) 目前での急な意識レベルの低下 ヘルニア徴候(傾眠以下の意識レ ベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッ シング現象、繰り返す嘔吐) 痙攣重積(痙攣の持続)	JCS 2-20、GCS 9-13	赤1,2に該当しない	体温		明らかに熱い(40℃以上) 明らかに冷たい(35℃以下)	赤1,2に該当しない
緊急度	赤1 (L&Gとして対応)	赤2	黄以下																						
気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫																								
呼吸	会話不能～単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 陥没呼吸 腹式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 徐呼吸(概ね呼吸数<10) SpO2<90%(酸素なし) SpO2<92%(酸素投与下)	努力呼吸 とぎれとぎれの会話 重度吸気性喘鳴 SpO2<92%(酸素投与なし) SpO2<95%(酸素投与下)	赤1,2に該当しない																						
循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 橈骨動脈脈拍触知不可 頻脈・徐脈 (概ね $\geq 120$ , <50) 制御不可能な外出血 血圧<90mmHg	ショック徴候を認めた 循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続 65歳以上で血圧<110mmHg	赤1,2に該当しない																						
意識	JCS $\geq 30$ (またはECS $\geq 20$ , GCS $\leq 8$ ) 目前での急な意識レベルの低下 ヘルニア徴候(傾眠以下の意識レ ベルで、片麻痺、瞳孔不同、クッ シング現象、繰り返す嘔吐) 痙攣重積(痙攣の持続)	JCS 2-20、GCS 9-13	赤1,2に該当しない																						
体温		明らかに熱い(40℃以上) 明らかに冷たい(35℃以下)	赤1,2に該当しない																						



改正後（案）	改正前
	<p data-bbox="1211 325 1682 357">四肢動脈損傷を疑う所見      別紙1</p> <div data-bbox="1211 400 1839 807" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 急激に増大する腫瘤</li><li><input type="checkbox"/> 拍動性の腫瘤</li><li><input type="checkbox"/> 拍動性の外出血</li></ul><p data-bbox="1211 539 1391 571">末梢阻血症状</p><ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 疼痛＋蒼白</li><li><input type="checkbox"/> 疼痛＋冷感</li><li><input type="checkbox"/> 知覚障害</li><li><input type="checkbox"/> 運動障害</li><li><input type="checkbox"/> 脈微弱</li></ul></div>

改正後（案）

改正前

生理学的評価による緊急度判断

別紙2

1:stage1で赤1を認めればLSGで救命センター等に搬送

観測圧	赤1 (LSGとして対応)	赤2	黄以下
気道	気道の閉塞 気道の狭窄 いびき ゴロゴロ音 異物 口腔咽頭の浮腫		
呼吸	全無不能～単語のみ 過度の努力呼吸 鼻翼呼吸 陥没呼吸 鼓式呼吸 気管の牽引 チアノーゼ 徐呼吸(観測呼吸数<10) SpO2<90%(酸素なし) SpO2<92%(酸素投与下)	とぎれとぎれの会話 努力呼吸 重度吸気性喘鳴 SpO2<90%(酸素なし) SpO2<95%(酸素投与下)	赤1, 2に該当しない
循環	皮膚蒼白 皮膚冷感 皮膚湿潤 視動脈脈拍触知不可 頻脈・徐脈 (観測<50, ≥120) 制御不可能な外出血 血圧<90mmHg	ショック徴候を認めた 循環状態が安定しているとは言えない 止血可能な外出血の持続 65歳以上で血圧<110mmHg	赤1, 2に該当しない
意識	JCS ≥30またはGCS ≤8 目前での急な意識レベルの低下(GCS 5-2点以上) ヘルニア徴候(意識レベル3未満以下でかつ下記征候を認める) 片麻痺 瞳孔不同 クッシング現象 繰り返す嘔吐 瞳孔重積(羞光の持続)	JCS 2-20, GCS 9-13	赤1, 2に該当しない
体温		明らかに熱い(40℃以上) 明らかに冷たい(35℃以下)	赤1, 2に該当しない

(案)

# 初期対応基本プロトコル

大阪府

# 初期対応基本プロトコル

初期対応基本プロトコル（以下、本プロトコル）は、「傷病者の搬送及び受入れの実施基準」をもとに、【成人疾病】【小児疾病】【外因】【外傷】の4つのカテゴリーにおける、傷病者の観察と処置、及び緊急度判定と病態類推から医療機関を選定するまでの救急隊員及び救急救命士の基本活動を示したものである。

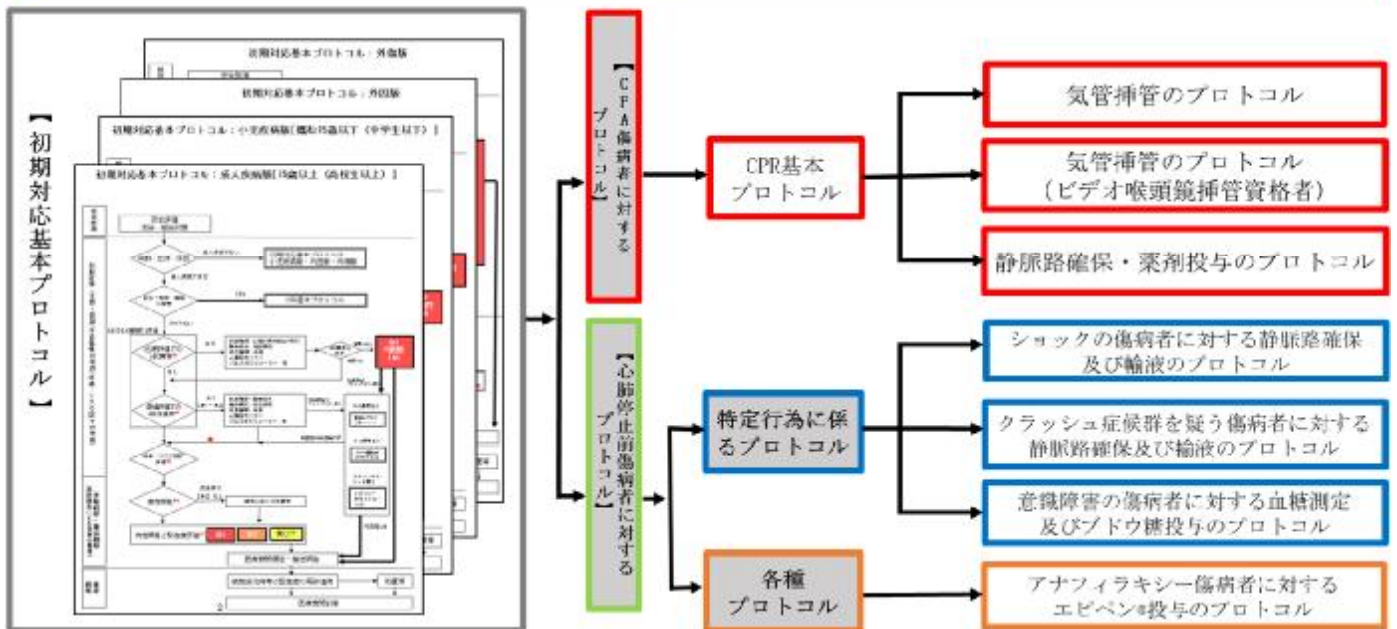
救急隊員及び救急救命士は、傷病者の類型に応じて、本プロトコルとCPR基本プロトコルに基づき現場活動を行うとともに、必要に応じて救急救命処置に関する活動詳細プロトコルに移行する。

本プロトコルは複数の医師の合意により作成された事前指示書であり、救急隊員及び救急救命士は本プロトコルに従い現場救護活動を行うこととなる。逸脱する場合は、オンラインメディカルコントロールにて医師の助言をうけるべきである。

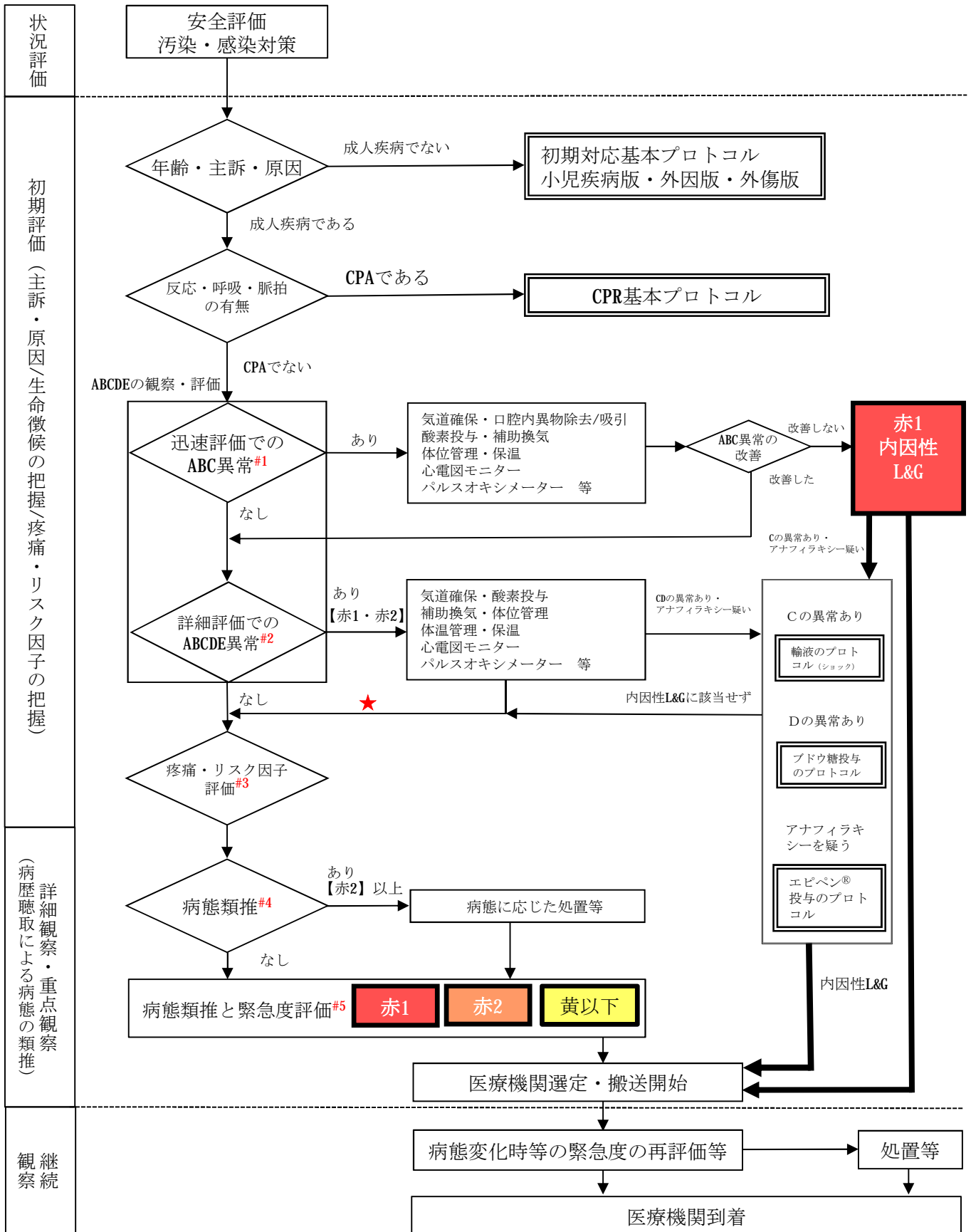
なお、本プロトコルは、大阪府の統一版であるが、救急医療体制や従来の活動状況に応じて地域メディカルコントロール協議会の医師により修正しても良い。なお、本プロトコルの周知を隊員にあまねく徹底することが重要であり、このためには指導救命士等が本プロトコルを活用した教育・指導を行うことが望ましい。

本プロトコルとそれに関連する各プロトコルの構成を下の図に示す。

## (大阪府版) 病院前救護プロトコルの構成



# 初期対応基本プロトコル：成人疾病版 [15歳以上（高校生以上）]



## #1 迅速評価でのABC異常

生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。  
該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&Gと判断する。

## 《気道の異常》

重度の吸気性喘鳴、過度の陥没呼吸（鎖骨上、胸骨上又は胸骨部）、シーソー呼吸

## 《呼吸障害》

過度の努力呼吸（過度の呼吸努力のため疲労した状態）、会話不能又は単語しか発声できない、高度の徐呼吸又は高度の頻呼吸

## 《循環障害》

皮膚蒼白・冷感・湿潤、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の徐脈又は高度の頻脈、湧き出るような大量出血（吐血・性器出血）

## #2 詳細評価でのABCDE異常

観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。

★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行いつつ改善がなければ搬送を優先する。

## 《気道の異常》

【赤2】：増悪する吸気性喘鳴

## 《呼吸障害》

【赤1】：呼吸数<10/分、呼吸数≥30/分

SpO<sub>2</sub><90%（酸素投与なし）、SpO<sub>2</sub><92%（3L酸素投与下）

【赤2】：努力呼吸（呼吸努力が増加した状態）、起坐呼吸、会話がとぎれとぎれになる  
口唇チアノーゼ

呼吸音の減弱・左右差、SpO<sub>2</sub>：90-91%（酸素投与なし）

SpO<sub>2</sub>：92-94%（3L酸素投与下）

## 《循環障害》

【赤1】：脈拍<40/分、脈拍≥120/分、血圧<90mmHg

【赤2】：CRT>2秒、失神（起立性失神）、持続する出血（吐血・性器出血）

## 《中枢神経障害》

【赤1】：JCS≥30 GCS≤8、急速なレベル低下あり（GCS合計点で2点以上下がる）  
ヘルニア徴候あり（瞳孔不同、片麻痺、クッシング現象）

【赤2】：JCS：2-20、GCS：9-13

## 《体温の異常》

【赤2】：体温≤35.0℃、体温≥40.0℃、体温≥37.5℃で他の異常が認められる状態  
体温≥38.0℃の免疫不全患者

## #3 疼痛・リスク因子の評価（SAMPLE等）

【赤2】：深在性急性疼痛の疼痛スコア8～10

【赤2】：出血性素因（血友病等先天性疾患/肝硬変/抗凝固薬内服等）

## #4 病態類推

詳細な病歴聴取と身体観察により、症状・徴候を収集し、傷病者の病態を類推する。

【赤2】以上：特定病態に該当

《循環器疾患》 急性冠症候群 肺動脈血栓塞栓症 急性大動脈解離  
大動脈瘤切迫破裂

《脳卒中》 脳梗塞 脳出血 くも膜下出血

《消化器疾患》 消化管出血 急性腹症

【黄】以下：特定病態以外

## #5 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。

必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ。

内因性ロードアンドゴー（L&G）：生理学的指標において、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。

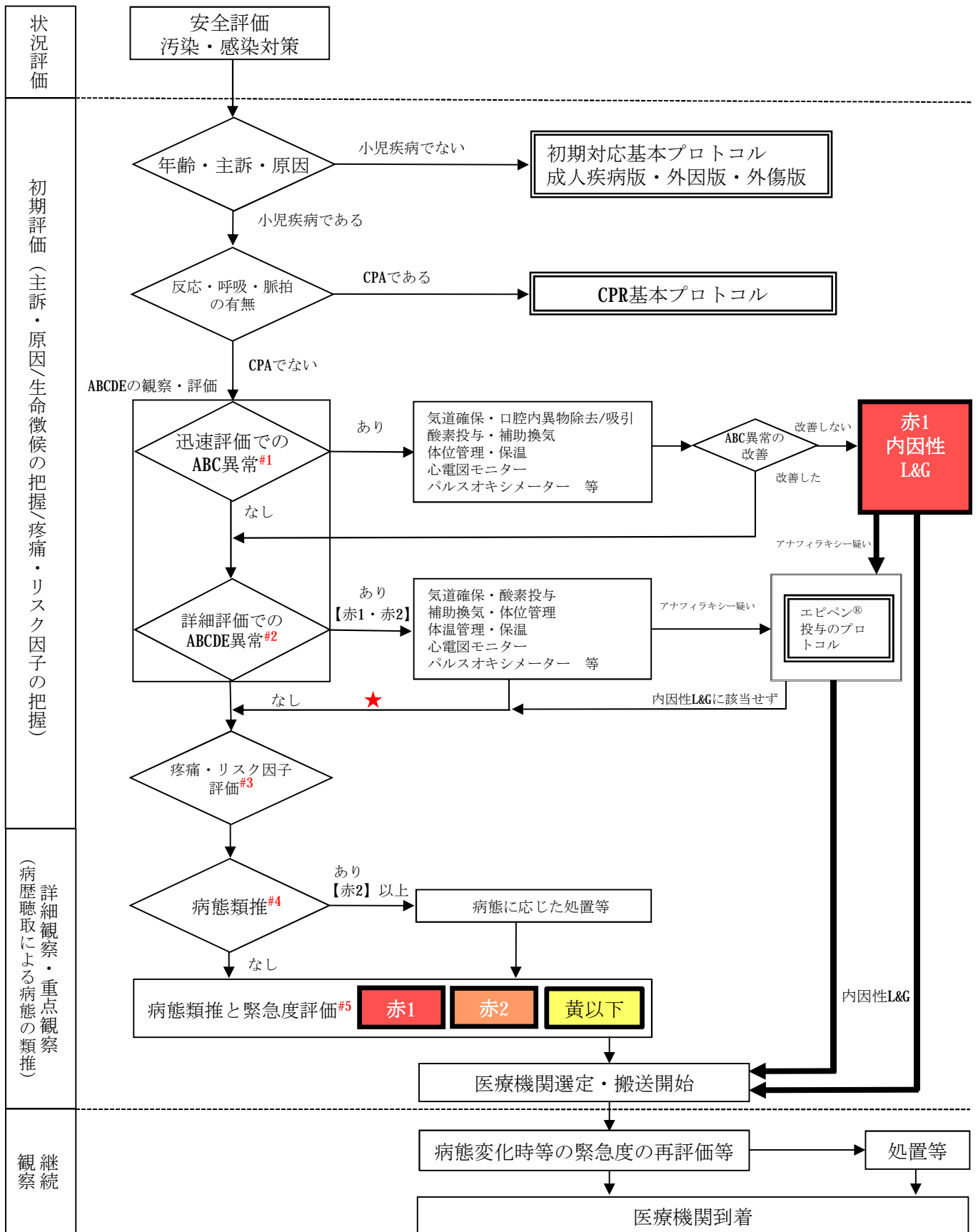


生理学的指標による緊急度評価基準（成人）

1次補因子 生理学的指標	CPA評価	観察	迅速評価		詳細評価			
	赤1	項目/指標	赤1	赤1	赤2	黄	緑	
気道の異常 (A)		吸気性喘鳴	重度の吸気性喘鳴	重度の吸気性喘鳴	増悪する吸気性喘鳴	呼吸苦のない 吸気性喘鳴		
		吸気時の 胸部運動	過度の陥没呼吸 (鎖骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーソー呼吸	過度の陥没呼吸 (鎖骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーソー呼吸				
呼吸障害 (B)	無呼吸/ 死戦期 呼吸	呼吸様式	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	努力呼吸 (呼吸努力が 増加した状態)	労作時息切れ		
					起坐呼吸			
		会話と息継ぎの 関係	会話不能又は 単語しか発声できない	会話不能又は 単語しか発声できない	会話がとぎれとぎれ になる	文章単位で 会話ができる		
		口唇所見（還元型 ヘモグロビン量が多 い）			口唇チアノーゼ			
		呼吸回数	高度の徐呼吸又は 高度の頻呼吸	高度の徐呼吸又は 高度の頻呼吸				
					呼吸数<10/分 呼吸数≥30/分			
		聴診			呼吸音の減弱又は 左右差			
		動脈血酸素飽和度 (酸素投与なし)			SpO2 < 90%	SpO2 : 90-91%	SpO2 : 92-94%	SpO2 ≥ 95%
		動脈血酸素飽和度 (3L酸素投与下)			SpO2 < 92%	SpO2 : 92-94%	SpO2 ≥ 95%	
循環障害 (C)	頸動脈 触知せず	循環状態	皮膚蒼白・冷感・湿潤	皮膚蒼白・冷感・湿潤				
		脈拍	橈骨動脈脈拍触知不可	橈骨動脈脈拍触知不可				
			高度の徐脈又は 高度の頻脈	高度の徐脈又は 高度の頻脈				
				脈拍<40/分 脈拍≥120/分				
		末梢循環、血圧			CRT > 2秒			
					血圧<90mmHg	血圧<110mmHg (外傷で65歳以上の 場合のみ)		
		起立時の血圧変化 (外傷を除く)			失神（起立性失神）	起立時にふらつく 又は血圧が低下する (失神には至らない)		
外出血	湧き出るような大量出血	湧き出るような大量出血	持続する出血					
中枢神経障害 (D)	全く反応 しない	意識レベル		JCS ≥ 30	JCS : 2 - 20	JCS : 1	JCS : 0	
				GCS ≤ 8	GCS : 9 - 13	GCS : 14	GCS : 15	
		急速なレベル低下		急速なレベル低下あり (GCS合計点で 2点以上下がる)				
		ヘルニア徴候		ヘルニア徴候あり (瞳孔不同、片麻痺、 クッシング現象)				
体温の異常 (E)		体温			体温 ≤ 35.0℃ 体温 ≥ 40.0℃	体温 ≥ 38.5℃	体温 ≥ 37.5℃	
					体温 ≥ 37.5℃で他の異常 が認められる状態			
					体温 ≥ 38.0℃の 免疫不全患者			



# 初期対応基本プロトコル：小児疾病版〔概ね15歳以下（中学生以下）〕



【小児疾病版】に「輸液（ショック・クラッシュ）とブドウ糖投与」を記載していない。ただし、15歳で上記の処置が必要と判断された時は、活動プロトコルを開始する。

### #1 迅速評価でのABC異常

生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。  
該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&Gと判断する。

#### 《気道の異常》

重度の吸気性喘鳴、過度の陥没呼吸（鎖骨上、胸骨上又は胸骨部）、シーソー呼吸

#### 《呼吸障害》

過度の努力呼吸（過度の呼吸努力のため疲労した状態）、呻吟（しんぎん）、会話不能又は単語しか発声できない、口唇チアノーゼ、高度の徐呼吸\*又は高度の頻呼吸\*

#### 《循環障害》

皮膚蒼白・冷感・湿潤、網状皮斑、橈骨動脈脈拍触知不可、高度の徐脈\*又は高度の頻脈\*、湧き出るような大量出血（吐下血・性器出血）

### #2 詳細評価でのABCDE異常

観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。

★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行いつつ改善がなければ搬送を優先する。

#### 《気道の異常》

【赤2】：増悪する吸気性喘鳴

#### 《呼吸障害》

【赤1】：呼吸音の減弱・左右差、 $SpO_2 < 90\%$ （酸素投与なし）、 $SpO_2 < 92\%$ （3L酸素投与下）

【赤2】：努力呼吸（呼吸努力が増加した状態）、起坐呼吸、会話がとぎれとぎれになる  
徐呼吸\*又は頻呼吸\*

$SpO_2$ ：90-91%（酸素投与なし）、 $SpO_2$ ：92-94%（3L酸素投与下）

#### 《循環障害》

【赤1】：低血圧\*

【赤2】：徐脈\*又は頻脈\*、CRT > 2秒、失神（起立性失神）、持続する出血（吐下血・性器出血）

#### 《中枢神経障害》

【赤1】：JCS  $\geq 30$  GCS  $\leq 8$ 、急速なレベル低下あり（GCS合計点で2点以上下がる）  
ヘルニア徴候あり（瞳孔不同、片麻痺、クッシング現象）

【赤2】：JCS：2-20、GCS：9-13

#### 《体温の異常》

【赤2】：体温  $\leq 35.0^\circ\text{C}$ 、体温  $\geq 41.0^\circ\text{C}$ 、体温  $\geq 37.5^\circ\text{C}$  で他の異常が認められる状態  
体温  $\geq 37.5^\circ\text{C}$  の免疫不全患者

### #3 疼痛・リスク因子の評価（SAMPLE等）

【赤2】：6歳以上：深在性急性疼痛の疼痛スコア8～10、5歳以下：行動スケール8～10\*

【赤2】：先天性疾患（出血性疾患、心疾患又は免疫不全等）

### #4 病態類推 緊急度、重症度が高い特徴的な症状・徴候（別紙2）

【赤2】以上：

詳細な病歴聴取と身体観察により、症状・徴候を収集し、傷病者の病態類推を行い、緊急度、重症度が高い特徴的な症状・徴候に該当

### #5 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。

必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ。

内因性ロードアンドゴー（L&G）：生理学的指標において、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。

\*は小児傷病者のバイタル基準（別紙1）を参照

生理学的指標による緊急度評価基準（小児）

1次補足因子 生理学的指標	CPA評価	観察	迅速評価		詳細評価		
	赤1	項目/指標	赤1	赤1	赤2	黄	緑
気道の異常 (A)		吸気性喘鳴	重度の吸気性喘鳴	重度の吸気性喘鳴	増悪する吸気性喘鳴	呼吸苦のない 吸気性喘鳴	
		吸気時の胸郭運動	過度の陥没呼吸 (鎖骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーソー呼吸	過度の陥没呼吸 (鎖骨上、胸骨上又は胸骨部) 又はシーソー呼吸			
呼吸障害 (B)	無呼吸/ 死戦期 呼吸	呼吸様式	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	過度の努力呼吸 (過度の呼吸努力のため 疲労した状態)	努力呼吸 (呼吸努力が 増加した状態)	労作時息切れ	
					起坐呼吸		
			呻吟(しんぎん)	呻吟(しんぎん)			
		会話と息継ぎの 関係	会話不能又は 単語しか発声できない	会話不能又は 単語しか発声できない	会話がとぎれとぎれ になる	文章単位で 会話ができる	
		口唇所見(還元型 ヘモグロビン量 が多い)	口唇チアノーゼ	口唇チアノーゼ			
		呼吸回数	高度の徐呼吸*又は 高度の頻呼吸*	高度の徐呼吸*又は 高度の頻呼吸*	徐呼吸*又は頻呼吸*		
		聴診		呼吸音の減弱又は左右差			
		動脈酸素飽和度 (酸素投与なし)		SpO2 < 90%	SpO2 : 90-91%	SpO2 : 92-94%	SpO2 ≥ 95%
		動脈酸素飽和度 (3 L 酸素投与下)		SpO2 < 92%	SpO2 : 92-94%	SpO2 ≥ 95%	
循環障害 (C)	頸動脈 触知せず	循環状態	皮膚蒼白・冷感・湿潤	皮膚蒼白・冷感・湿潤			
			網状皮斑	網状皮斑			
		脈拍	橈骨動脈脈拍触知不可	橈骨動脈脈拍触知不可			
			高度の徐脈*又は 高度の頻脈*	高度の徐脈*又は 高度の頻脈*	徐脈*又は頻脈*		
		末梢循環、血圧			CRT > 2秒		
		起立時の血圧変化 (外傷を除く)			失神(起立性失神)	起立時にふらつく 又は血圧が低下する (失神には至らない)	
外出血	湧き出るような大量出血	湧き出るような大量出血	持続する出血				
中枢神経障害 (D)	全く反応 しない	意識レベル		JCS ≥ 30	JCS : 2-20	JCS : 1	JCS : 0
		急速なレベル低下		GCS ≤ 8	GCS : 9-13	GCS : 14	GCS : 15
		ヘルニア徴候		急速なレベル低下あり (GCS合計点で 2点以上下がる)			
体温の異常 (E)	体温				体温 ≤ 35.0°C 体温 ≥ 41.0°C	体温 ≥ 38.5°C	体温 ≥ 37.5°C
					体温 ≥ 37.5°Cで他の異常が 認められる状態		
					体温 ≥ 37.5°Cの 免疫不全患者		

\* バイタル基準値参照

## 小児傷病者のバイタル基準（別紙1）

### 呼吸数（回／分）

月齢／年齢（年齢区分）	赤1	赤2	赤2	赤1
0か月（新生児）	～16	17～25	63～71	72～
1～5か月（乳児前期）	～15	16～24	61～68	69～
6～11か月（乳児後期）	～13	14～21	55～62	63～
1～3歳（幼児前期）	～13	14～18	41～45	46～
4～6歳（幼児後期）	～13	14～17	29～31	32～
7～9歳（学童前期）	～12	13～15	26～27	28～
10～12歳（学童後期）	～11	12～13	25～26	27～
13～14歳（思春期）	～10	11～12	24～25	26～
参考：（成人）	～9			30～

<注釈> 医療機関のトリアージで使用されるJTAS2017ガイドブック（原典は、カナダのCTASガイドライン2014）を参考に、JTASでの赤を「赤2」、それより外れる異常値を「赤1」とした。なお、成人での「赤1」を参考に示すが、学童期以降の「赤1」は概ね成人と同様としてよい。

### 脈拍（回／分）

月齢／年齢（年齢区分）	赤1	赤2	赤2	赤1
0か月（新生児）	～78	79～94	160～175	176～
1～5か月（乳児前期）	～94	95～110	174～189	190～
6～11か月（乳児後期）	～85	86～100	161～175	176～
1～3歳（幼児前期）	～70	71～84	143～156	157～
4～6歳（幼児後期）	～55	56～69	127～140	141～
7～9歳（学童前期）	～46	47～60	117～129	130～
10～12歳（学童後期）	～41	42～54	109～122	123～
13～14歳（思春期）	～38	39～51	106～118	119～
参考：（成人）	～39			120～

<注釈> 医療機関のトリアージで使用されるJTAS2017ガイドブック（原典は、カナダのCTASガイドライン2014）を参考に、JTASでの赤を「赤2」、それより外れる異常値を「赤1」とした。なお、成人での「赤1」を参考に示すが、学童期以降の「赤1」は概ね成人と同様としてよい。

### JCS

対象年齢の目安		0歳～5歳（乳児・幼児）	6歳～（学童）
I.	刺激しないでも覚醒している状態	0. 正常。	清明。
		1. あやすや笑う。ただし不十分で、声を出して笑わない。	だいたい清明であるが、今ひとつはっきりしない。
		2. あやしても笑わないが、視線はある。	見当識障害がある。
		3. 保護者と視線が合わない。	自分の名前、生年月日が言えない。
II.	刺激で覚醒するが、刺激をやめると眠り込む状態	10. 飲み物を見せると飲もうとする。あるいは乳首を見せれば欲しがって吸う。	普通の呼びかけで容易に開眼する。
		20. 呼びかけると開眼して目を向ける。	大きな声又は身体を揺さぶることにより開眼する。
		30. 呼びかけを繰り返すと、かろうじて開眼する。	痛み刺激を加えつつ呼びかけを繰り返すことにより開眼する。
III.	刺激しても覚醒しない状態	100. 痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする。	痛み刺激に対し、払いのけるような動作をする。
		200. 痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめる。	痛み刺激で少し手足を動かしたり、顔をしかめる。
		300. 痛み刺激に全く反応しない。	痛み刺激に全く反応しない。

### GCS

対象年齢の目安		0～11か月（乳児）	1～7歳（幼児）	8歳以上（学童）
開眼（E）	4	自発的		
	3	呼びかけに応じて		
	2	痛みに応じて		
	1	開眼なし		
最良の言語反応（V）	5	機嫌良好・喃語	年齢相応な言葉・会話	見当識良好
	4	不機嫌・持続的な啼泣	混乱した言葉・会話	混乱した会話
	3	痛みに応じて啼泣 不適切な言葉		
	2	痛みに応じてうめき声	意味不明な発声	理解不能な発声
1	声が出ない			
最良の運動反応（M）	6	自発的に目的を持って動く	指示に従う	
	5	疼痛部位を示す	痛み刺激を払いのける	
	4	痛みに応じて逃避		
	3	痛みに応じて徐産姿勢	痛みに応じて四肢屈曲	四肢の異常屈曲
	2	痛みに応じて徐産姿勢	痛みに応じて四肢伸展	四肢の異常伸展
	1	体動なし		

### 行動スケール（FLACC）

対象年齢の目安	0～5歳（乳児・幼児・認知障害のある小児や成人期の患児）		
カテゴリー	0	1	2
表情（Face）	表情の異常なし又は笑顔である。	時々顔をゆがめたり、しかめ面をしている。視線が合わない。周囲に関心を示さない。	頻回又は持続的に下顎を震わせている。歯を食いしばっている。
足の動き（Legs）	正常な姿勢で、落ち着いている。	落ち着かない。じっとしていない。びんと張っている。	蹴る動作をしたり足を縮こませたりしている。
活動性（Activity）	おとなしく横になっている。正常な姿勢、容易に動くことができる。	身もたえしている。前後（左右）に体を動かしている。緊張状態。	弓状に反り返っている。硬直又は痙攣している。
泣き声（Cry）	泣いていない（起きてるか眠っている）。	呻き声を出す又ははしく泣いている。時々苦痛を訴える。	泣き続けている。悲鳴を上げている又はむせび泣いている。頻回に苦痛を訴える。
あやしやすさ（Consolability）	満足そうに落ち着いている。	時々触れてあげたり、抱きしめてあげたり、話しかけてあげたり、気を紛らわすことで安心する。	あやせない。苦痛を取り除けない。

<注釈> 乳幼児の疼痛程度の評価に客観性を持たせるため、ミシガン大学で開発されたスケールである。

### 収縮期血圧（mmHg）

月齢／年齢	赤1
0か月	< 60
1～11か月	< 70
1～9歳	< 70 + (年齢 × 2)
10～15歳	< 90

緊急度、重症度が高い特徴的な症状・徴候（別紙2）

実施基準 細則  
 プロトコル：テーブル版2：小児疾病  
 （症候学的指標と緊急度・医療機関選定）

呼吸困難

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1		赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない呼吸困難 ※	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

※ 上記症状のないとは、上記すべての第2補足因子を観察し、「あり」がいずれも該当しない場合をいう。

胸痛

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	□不整脈の既往 □冠動脈瘤（川崎病）の既往 □動悸	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない胸痛	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

腰痛

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	□しびれ/麻痺 □膀胱直腸障害	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない腰痛	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

頭痛

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	□突然発症の激しい頭痛	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない頭痛	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

痙攣

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	□痙攣重責状態 □痙攣が持続している	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□痙攣が収まっている	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

悪心/嘔吐

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	イレウスを疑う □頻回 □胆汁様	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	脱水を疑う □口腔/舌の乾燥 □ツルゴール低下 □尿量減少	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない悪心/嘔吐	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

腹痛

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	急性腹症を疑う □急性の激しい腹痛 □腹壁緊張/圧痛 □腹膜刺激徴候 □高度貧血 □グル音消失 □金属製グル音 □吐血 □腹部の異常膨隆 □頻回の嘔吐	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない腹痛	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

下痢

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	脱水を疑う □口腔/舌の乾燥 □ツルゴール低下 □尿量減少	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない下痢	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			

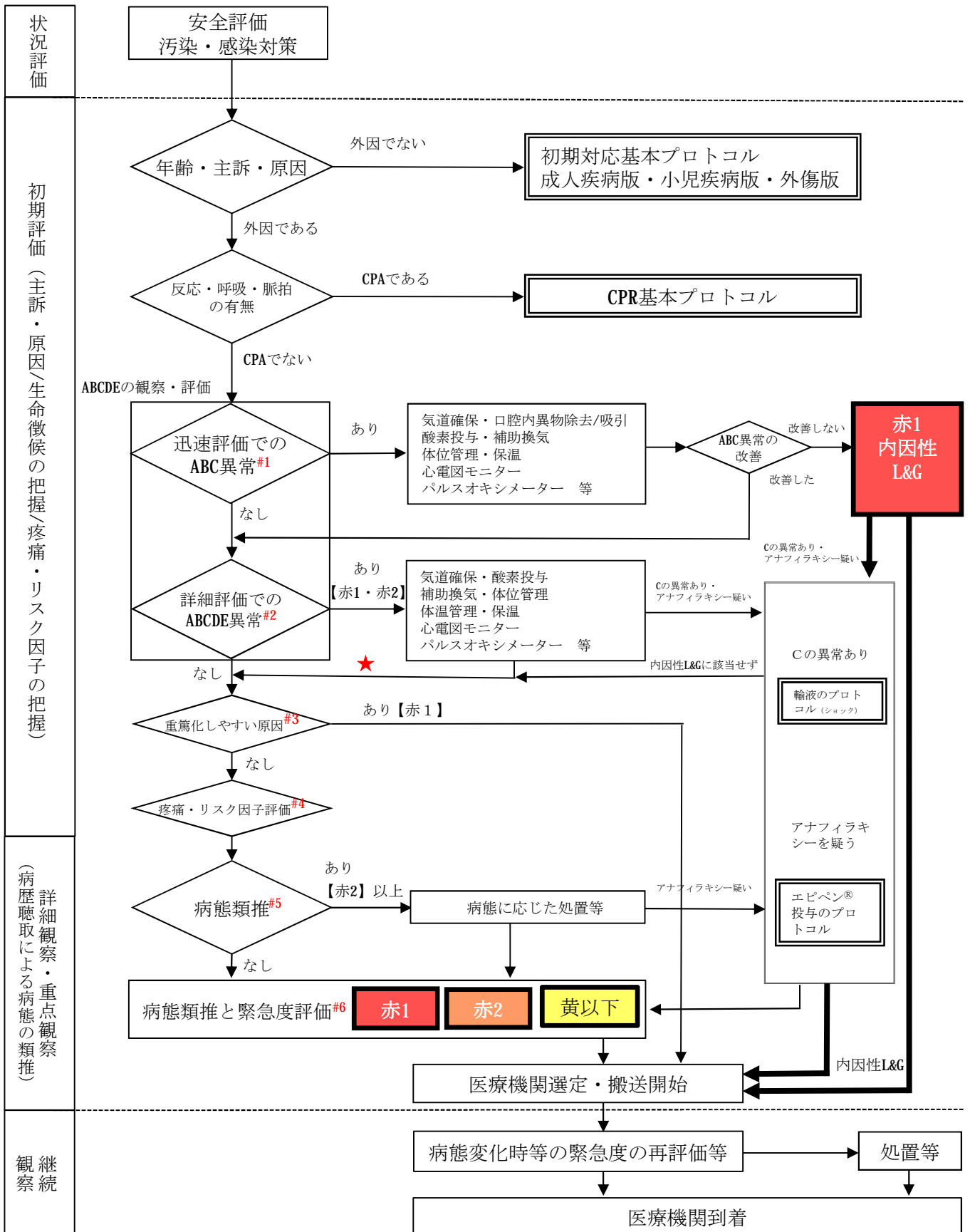
発熱（37.5℃）

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	□3ヵ月以下 □3歳以下で具合が悪そうな外観	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			
赤1	□上記症状のない発熱	赤1	重症小児対応医療機関 救命救急センター 小児救命救急センター
赤2			
黄以下			





# 初期対応基本プロトコル：外因版



【外因版】は外傷、熱傷以外の外因性傷病をさす。

#1 迅速評価でのABC異常

生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。  
該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】内因性L&Gと判断する。

《気道の異常》  
《呼吸障害》 緊急度評価は 「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様  
《循環障害》

#2 詳細評価でのABCDE異常

観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。  
★処置を行いながら観察・評価を継続する。ただし、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を  
行いつつ改善がなければ搬送を優先する。

《気道の異常》  
《呼吸障害》  
《循環障害》 緊急度評価は 「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様  
《中枢神経障害》  
《体温の異常》

#3 重篤化しやすい原因

【赤1】

- 農薬
- 医薬品： アスピリン  アセトアミノフェン  血糖降下薬の大量服用
- 工業薬品： 強酸  強アルカリ  石油製品  青酸化合物
- 家庭用品： 防虫剤  殺鼠剤
- 毒性のある食物

#4 疼痛・リスク因子の評価

緊急度評価は 「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様

#5 病態類推

【赤2】以上：

詳細な病歴聴取と身体観察により、原因、症状・徴候を収集し、傷病者の病態類推を行い、特定病態（潜水病又は減圧症）や重症化が予測される特徴的な症状・徴候に該当（別紙3）

#6 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。

必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ。

内因性ロードアンドゴー（L&G）：生理学的指標において、緊急度を【赤1】と判定した場合、救急救命処置を行い搬送を優先すること。

特定病態又は重症化が予測される特徴的な症状・徴候（別紙3）

実施基準 細則  
 プロトコル：テーブル版2：外因  
 （症候学的指標と緊急度・医療機関選定）

有毒ガス吸引

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2		赤2	救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 上記症状なし ※	黄以下	初期対応医療機関（内科/小児科）

※ 上記症状なしとは、上記すべての第2補足因子を観察し、「あり」がいずれも該当しない場合をいう。

覚醒剤/麻薬中毒

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2		赤2	救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 精神症状のみ <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	初期対応医療機関（精神科） 初期対応医療機関（内科/小児科/精神科）

化学物質曝露/化学損傷

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 皮膚（化学損傷） <input type="checkbox"/> 結膜症状 <input type="checkbox"/> 呼吸器症状 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 皮膚（化学損傷） <input type="checkbox"/> 結膜症状 <input type="checkbox"/> 呼吸器症状 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	初期対応医療機関（内科/外科/小児科）

電撃傷

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 一過性の意識障害 <input type="checkbox"/> 不整脈 <input type="checkbox"/> 胸痛 <input type="checkbox"/> 運動麻痺/脱力 <input type="checkbox"/> しびれ/感覚麻痺 <input type="checkbox"/> III度以上の電撃熱傷 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 一過性の意識障害 <input type="checkbox"/> 不整脈 <input type="checkbox"/> 胸痛 <input type="checkbox"/> 運動麻痺/脱力 <input type="checkbox"/> しびれ/感覚麻痺 <input type="checkbox"/> III度以上の電撃熱傷 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	初期対応医療機関（内科/外科）

生物による咬傷/刺傷

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 大関節を超える発赤腫脹 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー徴候 <input type="checkbox"/> マムシ咬傷疑い <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 大関節を超える発赤腫脹 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー徴候 <input type="checkbox"/> マムシ咬傷疑い <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	初期対応医療機関（外科）

高温曝露/高体温

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	<input type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 小脳症状 <input type="checkbox"/> 痙攣発作 <input type="checkbox"/> 出血傾向/紫斑	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 倦怠感/虚脱感 <input type="checkbox"/> 集中力/判断力の低下 <input type="checkbox"/> めまい <input type="checkbox"/> 大量の発汗 <input type="checkbox"/> 欠伸 <input type="checkbox"/> 筋内痛 <input type="checkbox"/> 筋硬直（こむら返り）	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 痙攣発作 <input type="checkbox"/> 小脳症状 <input type="checkbox"/> 出血傾向/紫斑 <input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 倦怠感/虚脱感 <input type="checkbox"/> 集中力/判断力の低下 <input type="checkbox"/> めまい <input type="checkbox"/> 大量の発汗 <input type="checkbox"/> 欠伸 <input type="checkbox"/> 筋内痛 <input type="checkbox"/> 筋硬直（こむら返り）	黄以下	救命救急センター 小児救命救急センター 初期対応医療機関（内科）

寒冷曝露/低体温

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 意識障害（無関心/錯乱/昏睡） <input type="checkbox"/> 徐脈/不整脈 <input type="checkbox"/> 心電図波形の延長/J波 <input type="checkbox"/> 筋硬直 <input type="checkbox"/> 四肢末梢の著しい冷感と蒼白/壊死 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 意識障害（無関心/錯乱） <input type="checkbox"/> 徐脈/不整脈 <input type="checkbox"/> 心電図波形の延長/J波 <input type="checkbox"/> 筋硬直 <input type="checkbox"/> 四肢末梢の著しい冷感と蒼白/壊死 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	救命救急センター 小児救命救急センター 初期対応医療機関（内科/外科）

異物誤飲

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 喘鳴 <input type="checkbox"/> 呼吸音の異常 <input type="checkbox"/> 呼吸音の左右差 <input type="checkbox"/> 腐食性（ボタン電池等） <input type="checkbox"/> 鋭利なもの <input type="checkbox"/> 中毒性のあるもの（タバコ等） <input type="checkbox"/> 上記に該当しない	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 喘鳴 <input type="checkbox"/> 呼吸音の異常 <input type="checkbox"/> 呼吸音の左右差 <input type="checkbox"/> 腐食性（ボタン電池等） <input type="checkbox"/> 鋭利なもの <input type="checkbox"/> 中毒性のあるもの（タバコ等） <input type="checkbox"/> 上記に該当しない	黄以下	初期対応医療機関（内科/小児科）

潜水病/減圧症

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 呼吸器症状 <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 神経障害 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	特定機能対応医療機関（高圧酸素療法） 救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 呼吸器症状 <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 神経障害 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	特定機能対応医療機関（高圧酸素療法） 初期対応医療機関（内科）

医薬品大量服用（アスピリン、アセトアミノフェン、血糖降下薬は除く）

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 傾眠 <input type="checkbox"/> 低血圧 <input type="checkbox"/> 不整脈 <input type="checkbox"/> 呼吸抑制 <input type="checkbox"/> 高体温 <input type="checkbox"/> 筋硬直 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 傾眠 <input type="checkbox"/> 低血圧 <input type="checkbox"/> 不整脈 <input type="checkbox"/> 呼吸抑制 <input type="checkbox"/> 高体温 <input type="checkbox"/> 筋硬直 <input type="checkbox"/> 上記症状なし	黄以下	初期対応医療機関（内科/精神科）

その他の中毒

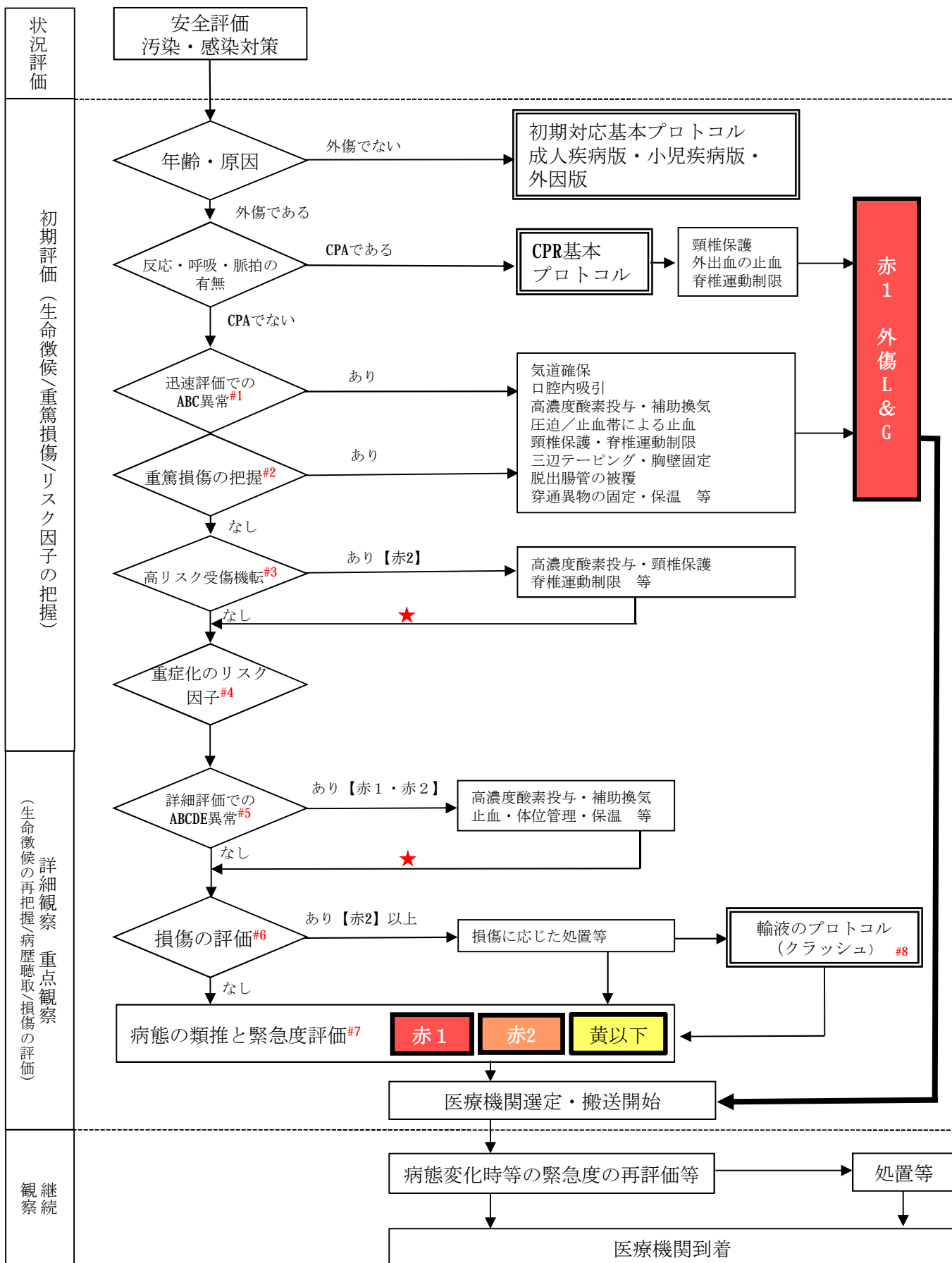
1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 身体症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター 重症初期対応医療機関 重症小児対応医療機関
黄以下	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 身体症状なし	黄以下	初期対応医療機関（内科）

原因毒物不明

1次補足因子	2次補足因子	緊急度	対応医療機関選定
赤1	症状の有無にかかわらず	赤1	救命救急センター 小児救命救急センター
赤2	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 身体症状なし	赤2	救命救急センター 小児救命救急センター
黄以下	<input type="checkbox"/> 身体症状あり <input type="checkbox"/> 身体症状なし	黄以下	初期対応医療機関（内科）



# 初期対応基本プロトコル：外傷版



## #1 迅速評価でのABC異常

生命危機状態に迅速に対応するため、短時間で下記の評価を行う。

該当する場合は、直ちに救急救命処置を行い、改善がなければ【赤1】外傷L&Gと判断する。

《気道の異常》

《呼吸障害》

《循環障害》

緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様

(救出に時間を要すると判断した時は必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ)

## #2 重篤損傷の把握(解剖学的指標)

迅速評価でのABC異常の把握に続いて、全身観察を行い、下記の項目を認めた場合、直ちに救急救命処置を行い搬送を開始する。

## 【赤1】外傷L&amp;G

- 頭部の開放骨折又は陥没骨折  顔面の高度な損傷  胸郭の動揺、変形
- 胸郭開放創  骨盤動揺又は疼痛  2本以上の中枢側長管骨骨折
- 挫滅創又はデグロービング損傷
- 四肢動脈損傷  手関節・足関節より中枢側での四肢切断又は轢断  四肢麻痺
- 頭頸部・体幹・大腿又は上腕の穿通性外傷(刺創・銃創・杵創)  気道熱傷(顔面熱傷)

## #3 高リスク受傷機転

## 【赤2】以上

- 同乗者心肺停止  車外放出  車の高度損傷  バイクと運転者の距離大  車に跳ね飛ばされた
- 車に轢過された  高所墜落(成人>6m<3階フロアー以上)(小児>3m<身長2~3倍)
- 機械器具に巻き込まれた  体幹部を挟まれた

(救出に時間を要すると判断した時は必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ)

★処置を行いながら観察・評価を継続する。

## #4 重症化のリスク因子

## 【赤2】以上

- 12歳以下  65歳以上  抗凝固薬又は抗血小板薬の服用  20週以降の妊婦
- 重症化しそうな印象
- 心疾患の既往(高血圧等を含む)  呼吸器疾患の既往  透析患者  肝疾患の既往
- 糖尿病の既往  薬物中毒の合併

## #5 ABCDEの詳細評価

観察の項目は迅速評価の項目に加え、より詳細で定量的な指標を用いる。

緊急度評価は「成人疾病版」と「小児疾病版」の指標と同様

★処置を行いながら観察・評価を継続する。

## #6 損傷の評価

【赤2】以上：生命や機能予後を最良化するために緊急度が高いとされる損傷及び搬送先医療機関の選定困難となりやすい外傷{特定損傷(特定病態含む)}に該当

- 多部位の外傷  頭蓋内損傷の疑い  眼損傷  頸部主要器官損傷の疑い
- 腹部臓器損傷の疑い  開放性の骨折又は脱臼  閉鎖骨折又は脱臼(12歳以下)
- 脊髄損傷の疑い  手指又は足趾切断(特定病態)  皮膚の広範囲剥皮創  重症熱傷
- 機能整容を損なう熱傷

## 【黄】以下

上記に該当しない

## #7 緊急度と類推した病態をもとに、総合的に緊急度を判定し、搬送先医療機関を選定する。

必要に応じてオンラインMCに指示を仰ぐ。

## #8 受傷機転が挟圧(重量物、器械、土砂等に身体が挟まれ圧迫されている状況)などに該当する場合を指す。

外傷ロードアンドゴー(L&G)：生理学的指標あるいは解剖学的指標により緊急度が【赤1】で、救急救命処置を行いつつ搬送を優先することを指す。



平成 27 年 3 月 策定

令和 2 年 12 月 改正

大阪府



(案)

消 保 第 号  
令 和 2 年 月 日

各地域（救急）MC 協議会会長 様

大阪府救急医療対策審議会  
救急業務高度化推進に関する部会  
部 会 長 加納 康至令和 2 年度救急救命士再教育ガイドライン  
に示す教育項目の履修の特例措置について（通知）

平素から本府救急行政につきまして、御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、救急救命士の再教育は病院前救護に必要な医学的な知識と技能の維持に努め、医療職種の一員として資質の向上を図ることを目的としています。そのため、大阪府では救急救命士に対する再教育ガイドラインを定め、各地域においてはそれに従い再教育を実施しているところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は本ガイドラインに示す教育項目にある、病院実習及び症例検討会等が各地域において例年に比べて実施できない状況にあります。

つきましては、今年度に限り病院実習64単位及び症例検討会等の必須15単位を含む2ヵ年度で128単位の取得について、下記のとおり特例措置とします。

ただし、再教育の重要性を鑑み、多様な形態の再教育を試みるなど、救急救命士の質の維持に努めるようお願いいたします。

なお、府内消防本部に対しても、同様の内容を発出させていただきます。

## 記

令和 2 年度を含む128単位の取得は（1）又は（2）とする

（1）今年度を含む前後3ヵ年度で所得すること

※平成 31 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日の 3 年間の 128 単位の取得とする。

（2）今年度から 3ヵ年度で所得すること

※令和 2 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日の 3 年間の 128 単位の取得とする。

## 連絡先

担 当：消防保安課 消防指導グループ 中原  
(大阪府救急業務高度化に関する部会事務局)  
電 話：06-6944-6458 (直通)  
e-mail：nakaharash@mbx.pref.osaka.lg.jp

府内消防本部（局）消防（局）長 様

大阪府救急医療対策審議会  
救急業務高度化推進に関する部会  
部 会 長 加納 康至

令和2年度救急救命士再教育ガイドライン  
に示す教育項目の履修の特例措置について（通知）

平素から本府救急業務に、ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、救急救命士の再教育は病院前救護に必要な医学的な知識と技能の維持に努め、医療職種の一員として資質の向上を図ることを目的としています。そのため、大阪府では救急救命士に対する再教育ガイドラインを定め、各地域においてはそれに従い再教育を実施しているところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は本ガイドラインに示す教育項目にある、病院実習及び症例検討会等が各地域において例年に比べて実施できない状況にあります。

つきましては、今年度に限り病院実習64単位及び症例検討会等の必須15単位を含む2ヵ年度で128単位の取得について、下記のとおり特例措置とします。

ただし、再教育の重要性を鑑み、多様な形態の再教育を試みるなど、救急救命士の質の維持に努めるようお願いいたします。

なお、地域メディカルコントロール協議会会長に対しても、同様の内容を発出させていただきます。

記

令和2年度を含む128単位の取得は（1）又は（2）とする

（1）今年度を含む前後3ヵ年度で所得すること

※平成31年4月1日から令和4年3月31日の3年間での128単位の取得とする。

（2）今年度から3ヵ年度で所得すること

※令和2年4月1日から令和5年3月31日の3年間での128単位の取得とする。

連絡先

担 当：消防保安課 消防指導グループ 中原  
（大阪府救急業務高度化に関する部会事務局）  
電 話：06-6944-6458（直通）  
e-mail：nakaharash@mbx.pref.osaka.lg.jp





改正前(10月1日運用開始分)

様式4

印刷日付:YYYY/MM/DD

傷病者の搬送と受入実施基準検証票

Form for patient transport and admission criteria verification, including patient information, medical history, and assessment items.

Form for medical history and vital signs, including assessment of symptoms, vital signs, and medical history.

Form for implementation criteria determination, including patient information, medical history, and assessment items.

(案)

(案)改正後(12月初旬運用開始分) ※改正箇所は朱書

様式4

印刷日付:YYYY/MM/DD

傷病者の搬送と受入実施基準検証票

Revised form for patient transport and admission criteria verification, including patient information, medical history, and assessment items.

Revised form for medical history and vital signs, including assessment of symptoms, vital signs, and medical history.

Revised form for implementation criteria determination, including patient information, medical history, and assessment items.

改正: 病院の更新の月・日・時を表記 ※改正前は「救急隊の連絡日時」

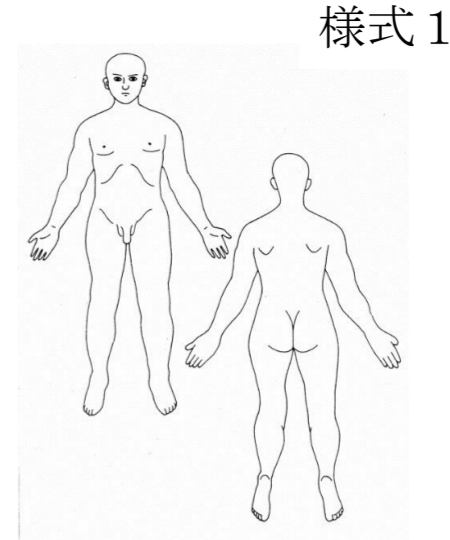


# 改正前

〇〇消防本部 (局)

検 証 票	決 裁
覚知日	年 月 日
覚知 時 分	
出場 時 分	
現着 時 分	救命士 <input type="checkbox"/> 有 ( 人 ) ( <input type="checkbox"/> 隊長 <input type="checkbox"/> 機関員 <input type="checkbox"/> 隊員) <input type="checkbox"/> 無
接触 時 分	
車内収容 時 分	
現発 時 分	
病院着 時 分	<input type="checkbox"/> 搬送 <input type="checkbox"/> 不搬送理由 <input type="checkbox"/> 緊急性なし <input type="checkbox"/> 傷病者なし <input type="checkbox"/> 拒否 <input type="checkbox"/> 酔酩
帰署 時 分	<input type="checkbox"/> 不搬送 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> 現場処置 <input type="checkbox"/> 誤報 <input type="checkbox"/> その他
連携活動	<input type="checkbox"/> 他救急隊 <input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救助隊 <input type="checkbox"/> 医師要請 <input type="checkbox"/> ドクターカー <input type="checkbox"/> ヘリ <input type="checkbox"/> その他 ( )
救急指令内容	口頭指導: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 指令員 <input type="checkbox"/> 救急隊 ) 内容:
出場先概要: _____ 才 男・女	
医療機関選定理由	
選定経過 ( ) 選定時間 ( 分)	
搬送先	市区 科目 医療機関別
初診時傷病名 ( )	確定傷病名 ( ) 傷病程度 <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重症 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> その他
現場携行資器材	<input type="checkbox"/> 気道確保器材 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> パッドマスク <input type="checkbox"/> パッドボード <input type="checkbox"/> ネックブリー <input type="checkbox"/> 創傷処置資器材 <input type="checkbox"/> パルスオキシメーター <input type="checkbox"/> 心電計 <input type="checkbox"/> 血圧計 <input type="checkbox"/> 除細動器 <input type="checkbox"/> その他 ( )
傷病者接触時情報 現場状況	
主訴または主症状	
発症概要 (現病歴)	
通院中病院	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (病院名: ) 病名: ( )
既往歴 ( )	ADL <input type="checkbox"/> 機能良好 <input type="checkbox"/> 中等度障害 <input type="checkbox"/> 高度障害 <input type="checkbox"/> 不明
傷病者接触時所見 意識: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> JCS _____ GCS (E _____ V _____ M _____) 呼吸状態: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 努力様 <input type="checkbox"/> 起坐 <input type="checkbox"/> 奇異 <input type="checkbox"/> 下顎 呼吸数: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 緩徐 <input type="checkbox"/> 頻 回数 ( 回/分) 呼吸音: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 左右差 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (右>左) 喘鳴: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 脈拍: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 微弱 <input type="checkbox"/> 触知不能 数 _____ 回/分 <input type="checkbox"/> 整 <input type="checkbox"/> 不整 ( 橈骨・大腿・頸 ) 血圧: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> 右 ( / mmHg) 左 ( / mmHg) 体温: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> _____ °C	

瞳孔	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右 _____ mm 左 _____ mm
対光反射	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右 ( + + - ) 左 ( + ± - )
共同偏視	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 右方 <input type="checkbox"/> 左方
頸静脈怒張	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 麻痺: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
外出血	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
皮膚	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 湿潤 <input type="checkbox"/> 乾燥 <input type="checkbox"/> 蒼白 <input type="checkbox"/> 紅潮 <input type="checkbox"/> チアノーゼ <input type="checkbox"/> 冷感 <input type="checkbox"/> 冷汗
眼瞼結膜	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 貧血 <input type="checkbox"/> 黄疸
熱傷面積	: _____ % 気道熱傷: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 疑い ( )
四肢変形	: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 臭気: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )
嘔吐	: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 痙攣: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )
SpO2	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 _____ % ( ルームエアール・酸素 _____ L下 )
心電図	: (装着時刻 ) <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 記録不能 <input type="checkbox"/> 所見 ( )
その他の所見 _____	
現場応急処置 気道確保: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> 用手 <input type="checkbox"/> エアウェイ <input type="checkbox"/> 特定器具 ) 酸素投与: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( L/分 ) → 投与方法 <input type="checkbox"/> ネガブル <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> リザーバー付きマスク <input type="checkbox"/> その他 ( ) 人工呼吸: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> バック <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他: ) その他: _____	
車内収容後の観察・判断・応急処置 ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤瞳孔 ⑥SpO2 ⑦心電図 ⑧視診 ⑨聴診 ⑩触診 ⑪応急処置 ⑫搬送体位 時 分 _____ 時 分 _____ 時 分 _____ 病院到着前 _____	
隊長総括	
活動一次検証 検証者印	活動二次検証 検証者印
検証総合評価 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C 検証医師名 (サイン) _____ (サイン) _____ 検証医所見 <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E	



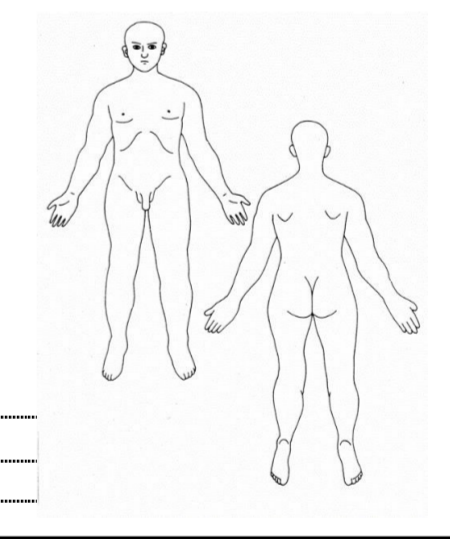
# (案) 改正後

〇〇消防本部 (局)

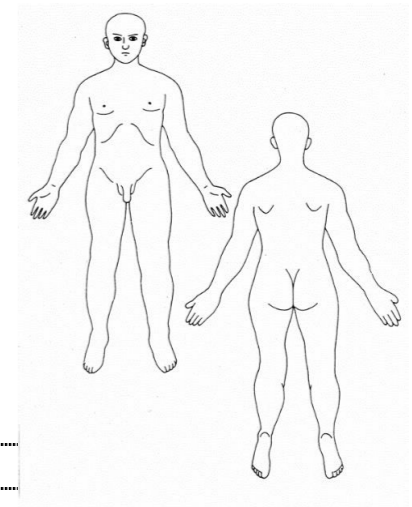
検 証 票	決 裁
覚知日	年 月 日
覚知 時 分	
出場 時 分	
現着 時 分	救命士 <input type="checkbox"/> 有 ( 人 ) ( <input type="checkbox"/> 隊長 <input type="checkbox"/> 機関員 <input type="checkbox"/> 隊員) <input type="checkbox"/> 無
接触 時 分	
車内収容 時 分	
現発 時 分	
病院着 時 分	<input type="checkbox"/> 搬送 <input type="checkbox"/> 不搬送理由 <input type="checkbox"/> 辞退 (到着前) <input type="checkbox"/> 他車 (隊) 搬送 <input type="checkbox"/> 明らかな死亡 <input type="checkbox"/> 拒否
帰署 時 分	<input type="checkbox"/> 不搬送 <input type="checkbox"/> 辞退 (到着後) <input type="checkbox"/> 誤報・いたずら <input type="checkbox"/> 傷病者なし <input type="checkbox"/> その他
連携活動	<input type="checkbox"/> 他救急隊 <input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救助隊 <input type="checkbox"/> 医師要請 <input type="checkbox"/> ドクターカー <input type="checkbox"/> ヘリ <input type="checkbox"/> その他 ( )
救急指令内容	口頭指導: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 指令員 <input type="checkbox"/> 救急隊 ) 内容:
出場先概要: _____ 才 男・女	
医療機関選定理由	
選定経過 ( ) 選定時間 ( 分)	
搬送先	市区 科目 医療機関別
初診時傷病名 ( )	確定傷病名 ( ) 傷病程度 <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重症 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> その他
現場携行資器材	<input type="checkbox"/> 気道確保器材 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> パッドマスク <input type="checkbox"/> パッドボード <input type="checkbox"/> ネックブリー <input type="checkbox"/> 創傷処置資器材 <input type="checkbox"/> パルスオキシメーター <input type="checkbox"/> 心電計 <input type="checkbox"/> 血圧計 <input type="checkbox"/> 除細動器 <input type="checkbox"/> その他 ( )
傷病者接触時情報 現場状況	
主訴または主症状	
発症概要 (現病歴)	
通院中病院	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (病院名: ) 病名: ( )
既往歴 ( )	ADL <input type="checkbox"/> 機能良好 <input type="checkbox"/> 中等度障害 <input type="checkbox"/> 高度障害 <input type="checkbox"/> 不明
傷病者接触時所見 意識: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> JCS _____ GCS (E _____ V _____ M _____) 呼吸状態: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 努力様 <input type="checkbox"/> 起坐 <input type="checkbox"/> 奇異 <input type="checkbox"/> 下顎 呼吸数: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 緩徐 <input type="checkbox"/> 頻 回数 ( 回/分) 呼吸音: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 左右差 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (右>左) 喘鳴: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 脈拍: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 微弱 <input type="checkbox"/> 触知不能 数 _____ 回/分 <input type="checkbox"/> 整 <input type="checkbox"/> 不整 ( 橈骨・大腿・頸 ) 血圧: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> 右 ( / mmHg) 左 ( / mmHg) 体温: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> _____ °C	

改正箇所

瞳孔	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右 _____ mm 左 _____ mm
対光反射	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右 ( + + - ) 左 ( + ± - )
共同偏視	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 右方 <input type="checkbox"/> 左方
頸静脈怒張	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 麻痺: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
外出血	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有
皮膚	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 湿潤 <input type="checkbox"/> 乾燥 <input type="checkbox"/> 蒼白 <input type="checkbox"/> 紅潮 <input type="checkbox"/> チアノーゼ <input type="checkbox"/> 冷感 <input type="checkbox"/> 冷汗
眼瞼結膜	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 貧血 <input type="checkbox"/> 黄疸
熱傷面積	: _____ % 気道熱傷: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 疑い ( )
四肢変形	: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 臭気: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )
嘔吐	: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 痙攣: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )
SpO2	: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 _____ % ( ルームエアール・酸素 _____ L下 )
心電図	: (装着時刻 ) <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 記録不能 <input type="checkbox"/> 所見 ( )
その他の所見 _____	
現場応急処置 気道確保: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> 用手 <input type="checkbox"/> エアウェイ <input type="checkbox"/> 特定器具 ) 酸素投与: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( L/分 ) → 投与方法 <input type="checkbox"/> ネガブル <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> リザーバー付きマスク <input type="checkbox"/> その他 ( ) 人工呼吸: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 → ( <input type="checkbox"/> バック <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他: ) その他: _____	
車内収容後の観察・判断・応急処置 ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤瞳孔 ⑥SpO2 ⑦心電図 ⑧視診 ⑨聴診 ⑩触診 ⑪応急処置 ⑫搬送体位 時 分 _____ 時 分 _____ 時 分 _____ 病院到着前 _____	
隊長総括	
活動一次検証 検証者印	活動二次検証 検証者印
検証総合評価 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C 検証医師名 (サイン) _____ (サイン) _____ 検証医所見 <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E	



様式1



検 証 票		決 裁		(案)	
覚知日 年 月 日					
覚知 時 分					
出場 時 分					
現着 時 分	救命士	<input type="checkbox"/> 有 ( 人 ) ( <input type="checkbox"/> 隊長 <input type="checkbox"/> 機関員 <input type="checkbox"/> 隊員 ) <input type="checkbox"/> 無			
接触 時 分					
車内収容 時 分					
現発 時 分					
病院着 時 分	<input type="checkbox"/> 搬 送	不搬送理由	<input type="checkbox"/> 辞退 (到着前) <input type="checkbox"/> 他車 (隊) 搬送 <input type="checkbox"/> 明らかな死亡 <input type="checkbox"/> 拒否		
帰署 時 分	<input type="checkbox"/> 不搬送		<input type="checkbox"/> 辞退 (到着後) <input type="checkbox"/> 誤報・いたずら <input type="checkbox"/> 傷病者なし <input type="checkbox"/> その他		
連携活動: <input type="checkbox"/> 他救急隊 <input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救助隊 <input type="checkbox"/> 医師要請 <input type="checkbox"/> ドクターカー <input type="checkbox"/> ヘリ <input type="checkbox"/> その他 ( )					
救急指令内容			口頭指導: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 指令員 <input type="checkbox"/> 救急隊 ) 内容:		
出場先概要:					
才 男・女					
医療機関選定理由					
選定経過 ( ) 選定時間 ( 分)					
搬送先	市 区	科 目	医療機関別		
初診時傷病名 ( ) 確定傷病名 ( ) 傷病程度 <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重症 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> その他					
現場携行資器材 <input type="checkbox"/> 気道確保器材 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> ハックマスク <input type="checkbox"/> ハックボード <input type="checkbox"/> ネックカラー <input type="checkbox"/> 創傷処置資器材 <input type="checkbox"/> パルスオキシメーター <input type="checkbox"/> 心電計 <input type="checkbox"/> 血圧計 <input type="checkbox"/> 除細動器 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
傷病者接触時情報 現場状況					
主訴または主症状					
発症概要 (現病歴)					
通院中病院 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (病院名: ) 病名: ) 既往歴 ( ) ADL <input type="checkbox"/> 機能良好 <input type="checkbox"/> 中等度障害 <input type="checkbox"/> 高度障害 <input type="checkbox"/> 不明					
傷病者接触時所見 意識: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> JCS _____ GCS (E _____ V _____ M _____) 呼吸状態: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 努力様 <input type="checkbox"/> 起坐 <input type="checkbox"/> 奇異 <input type="checkbox"/> 下顎 呼吸数: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 緩徐 <input type="checkbox"/> 頻 回数 ( 回/分) 呼吸音: <input type="checkbox"/> 調べず 左右差 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (右><左) 喘鳴: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 脈拍: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 微弱 <input type="checkbox"/> 触知不能 数 _____ 回/分 <input type="checkbox"/> 整 <input type="checkbox"/> 不整 ( 橈骨・大腿・頸 ) 血圧: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 右 ( / mmHg) 左 ( / mmHg) 体温: <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 _____ °C					

瞳孔 : 調べず 観察不能 右 \_\_\_\_\_ mm 左 \_\_\_\_\_ mm  
 対光反射 : 調べず 観察不能 右 ( + ± - ) 左 ( + ± - )  
 共同偏視 : 調べず 無 右方 左方  
 頸静脈怒張 : 調べず 無 有 麻痺: 調べず 無 有  
 外出血 : 調べず 無 有  
 皮膚 : 調べず 正常 湿潤 乾燥 蒼白 紅潮  
チアノーゼ 冷感 冷汗  
 眼瞼結膜 : 調べず 正常 貧血 黄疸  
 熱傷面積 : \_\_\_\_\_ % 気道熱傷: 調べず 疑い ( )  
 四肢変形 : 無 有 臭気: 無 有 ( )  
 嘔吐 : 無 有 痙攣: 無 有 ( )  
 SpO2 : 調べず 測定不能 \_\_\_\_\_ % ( ルームエア・酸素 \_\_\_\_\_ L下 )  
 心電図 : (装着時刻 ) 調べず 記録不能  
所見 ( )

その他の所見 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

現場応急処置  
 気道確保: 無 有 → ( 用手 エアウェイ 特定器具 )  
 酸素投与: 無 有 ( \_\_\_\_\_ L/分 ) → 投与方法 ネザル マスク リザーバー付きマスク その他 ( )  
 人工呼吸: 無 有 → ( バック 人工呼吸器 その他: )  
 その他: \_\_\_\_\_

車内収容後の観察・判断・応急処置  
 ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤瞳孔 ⑥SpO2 ⑦心電図 ⑧視診 ⑨聴診 ⑩触診 ⑪応急処置 ⑫搬送体位

時 分 \_\_\_\_\_  
 時 分 \_\_\_\_\_  
 時 分 \_\_\_\_\_  
 病院到着前 \_\_\_\_\_

隊長総括

活動一次検証 検証者印	活動二次検証 検証者印

検証総合評価 A B C 検証医師名 (サイン) \_\_\_\_\_ (サイン) \_\_\_\_\_  
 検証医所見 D E



参考

事 務 連 絡  
平成 30 年 12 月 26 日

各都道府県消防防災主管部（局） 御中

消防庁救急企画室

救急・ウツタイン様式調査業務における次期統計調査システムの変更について  
(情報提供)

平素より救急行政にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記について、「救急年報報告における調査項目の取扱いについて」（平成 30 年 3 月 30 日付け消防救第 57 号消防庁救急企画室長通知）により通知しているところですが、追加情報を別添のとおりお知らせします。

つきましては、貴都道府県下市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨ご周知いただきますようお願いいたします。

<問合せ先> 消防庁 救急企画室 救急連携係  
担当：三島・小川・中西  
TEL：03-5253-7529 FAX：03-5253-7532  
E-mail：[kyukyukikaku-kyukyurenkei@soumu.go.jp](mailto:kyukyukikaku-kyukyurenkei@soumu.go.jp)

救急・ウツタイン様式調査業務における次期統計調査系システムの変更について

## 1 はじめに

平成 33 年 1 月 1 日より運用を開始する次期統計調査系システム（以下、「新システム」）について現行システムからの変更点について記述致します。

## 2 新システムの概要

新システムは、現行システムの機能を踏襲した上で、平成 33 年からの新しい調査項目の追加・変更や突合チェックの機能が強化されています。

- 現行システムからの項目追加、変更、削除については、「【別紙 1】追加・削除調査項目一覧表」の変更仕様書を御確認ください。
- 突合チェックの内容については、「【別紙 2】突合チェックリスト」を御確認ください。

## 3 新システムへの移行に伴う平成 32 年中の調査項目への対応

平成 32 年までに新システムによる新たな調査項目、選択肢を追加する予定です。

ただし、平成 32 年中の活動事案報告（平成 33 年度報告）はこれまでどおりの調査項目で実施していただきます。追加された項目の入力については任意での入力となります。突合についても現行システムと同じ突合仕様で実施します。

なお、平成 33 年以降の活動事案報告（平成 34 年度報告）では、新たに追加された調査項目や選択肢を用いて入力していただきます。平成 33 年以降の活動事案報告では、追加された項目を含め、現行項目でも必須となる項目が追加され、突合仕様が変更となります。

新システムのデータ形式及び区分マスターについては、以下の項目を御確認ください。

- 【別紙 3】救急 CSV アップロード用仕様書
- 【別紙 4】救急 CSV ダウンロード用仕様書
- 【別紙 5】救急 XML アップロード用仕様書
- 【別紙 6】救急 XML ダウンロード用仕様書
- 【別紙 7】ウツタイン CSV ダウンロード用仕様書
- 【別紙 8】ウツタイン XML アップロード用仕様書
- 【別紙 9】ウツタイン XML ダウンロード用仕様書
- 【別紙 10】救急・ウツタイン区分マスター一覧

以上

追加調査項目一覧表

別紙 1

	システムバージョン番号	現行システム		新システム		備考			
定点観測データ	1	准救急隊	新システムより追加	准救急隊	報告年の4月1日現在の准救急隊員数を計上する。(数値入力)				
	2	救急隊・軽救急車		救急隊・軽救急車	報告年の4月1日現在の各設備保有数を計上する。(数値入力)				
	3	救急ワークステーション		救急ワークステーション	報告年の4月1日現在の業務実施形態(病院派遣型、施設設置型)別に数を計上する。(施設の数値入力)				
出動情報	1	大規模イベント	新システムより追加		大規模イベント	1,000人以上が集まる大規模イベントの際に入力する。「はい」「いいえ」で選択。「はい」を選択した場合、フリースペースにイベント名等を任意で入力する。		必須項目とする。	
	1	走行距離	項目は設置済み。入力は数値を入力、単位は百m		走行距離	入力を必須項目として、単位をkmに変更する。			
	2	変更箇所 <u>不搬送の定義</u>	拒否	不搬送に該当した場合、必須項目となり、8項目から選択する。	変更箇所 <u>不搬送の定義</u>	辞退(到着前)	新規	現行システムの「現場処置」がなくなるため、傷病者情報にある搬送区分「現場処置」の項目が削除される。	
			傷病者なし			辞退(到着後)	新規		
			死亡			拒否			
			誤報・いたずら			明らかな死亡	新規		
			酩酊			他車(隊)搬送	新規		
			緊急性なし			傷病者なし			
	現場処置	誤報・いたずら							
	その他	その他							
2	出場隊員	出場隊員数		出場隊員	出場隊員数		変更なし	救急救命士をありと選択した場合、人数及び資格認定状況が未入力であればエラーとなる。	
		自隊隊員数			自隊隊員数		削除		
		准救急隊員数			准救急隊員数		人数入力(数値入力)		
		救急救命士搭乗 (「あり」「なし」を選択、「あり」の場合、右の4項目から選択)	(気)・(業)認定救急救命士		救急救命士搭乗(「あり」「なし」を選択、ありの場合、人数及び該当の資格認定状況をチェックする。)	救急救命士	人数入力(数値入力)		気管挿管
			(気)認定救急救命士				アドレナリン投与		
			(業)認定救急救命士				ビデオ喉頭鏡		
			その他の救急救命士				ブドウ糖投与		
							CPA前静脈路確保		
							未認定		
		4	心肺蘇生の希望なし		新システムより追加		心肺蘇生の希望なし		該当した場合にチェックする。 チェックした場合、以下の項目を選択する。 1、「搬送」「不搬送」にチェックする。 2、「不搬送」をチェックした場合、年齢(記入)、性別(ブルダウ)、発生場所(ブルダウ(住宅・公衆出入場所・仕事場・道路・その他))を選択し入力する。

## MC 協議会検証ガイドライン

### 1. ガイドラインの目的

このガイドラインは、大阪府下の地域メディカルコントロール協議会（以下、「地域MC協議会」）において、検証実施要領に定める検証を円滑に行うことを目的として定める。

### 2. 検証会議の開催

- 1) 救急活動検証は、地域 MC 協議会において毎月定期的を実施する。
- 2) 速やかに検証を実施する観点から、おおむね事案発生月の **3** か月以内の検証会議で検証するよう努める。
- 3) 実施基準検証は、地域 MC 協議会と救急懇話会（堺市については救急医療体制調整部会）（以下、「救急懇話会等」）が連携して行う。
- 4) 実施基準検証の方法及び開催時期等は、各地域MC協議会及び救急懇話会等で協議し定める。

### 3. 検証対象及び抽出条件（別表 1 参照）

- 1) 心肺機能停止（以下、「CPA」）症例
  - 救急隊活動の質の担保のため必要がある症例
    - i. 消防本部内での一次・二次検証を経て模範的な症例や改善を要する症例
    - ii. 特定行為を実施した症例や特定行為をすべきであるのに実施していない症例
  - 心肺蘇生に係る口頭指導が実施されていない症例
- 2) 心停止前特定行為関連症例
  - 低血糖関連症例
    - i. 意識障害（JCS 2 桁以上）があり病院搬送後の血糖値が **50mg/dl** 未満であった症例
    - ii. 救急隊が測定した血糖値が **50mg/dl** 未満であった症例
  - 心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与（以下、「拡大 2 行為」という）関連症例
    - i. 拡大 2 行為認定救命士が心肺機能停止前の傷病者に静脈路確保及び輸液を行うために特定行為の指示要請をした症例

- ii. 増悪するショックおよびクラッシュ症候群の疑いで静脈路確保の適応であったにもかかわらず、拡大2行為認定救命士が特定行為の指示要請をしなかった症例
  - 自己注射が可能なアドレナリン製剤投与症例  
救急救命士が、自己注射が可能なアドレナリン製剤を投与した症例  
(※傷病者本人や家族等、救急救命士以外の者が投与した症例は除く)
- 3) 重症外傷症例 (C P A症例を除く)
  - 「実施基準検証票」評価 1~4 該当症例  
ただし、評価 3 “患者背景” 項目のみに該当する症例は除く (Load & Go 症例)
- 4) 特定病態 (脳卒中・急性冠症候群 (以下、「ACS」)・消化管出血) 症例
  - 搬送先選定困難症例  
救急隊が特定病態を疑い病院選定したが、現着から病着に 60 分以上を要した、若しくは搬送連絡が 4 回以上要した症例。
  - 判断不一致症例  
救急隊が特定病態を疑わなかったが、医療機関で特定病態と診断され、且つ入院加療もしくは外来死亡、転院となった症例
  - 実施基準逸脱症例  
救急隊が特定病態を疑ったが、実施基準に従わず病院選定した症例のうち、選定理由が「患者容態で判断」であった症例。
- 5) 転送、初診時転院の症例
  - 三次医療機関及び特定機能対応医療機関へ転送または初診時転院となった症例 (いわゆる下り搬送症例は除外)
- 6) 搬送先選定困難症例
  - 緊急度の高い症例の搬送先選定困難症例  
実施基準の緊急度判定で赤 1 と判定された症例で、搬送連絡が 4 回以上の症例
  - 搬送連絡が 1 1 回以上の症例
- 7) その他の症例
  - 複数傷病者発生事案等、消防本部の判断
  - 消防本部内の一次検証・二次検証において、医学的検証が必要と判断された症例
- 8) 検証対象症例の追加、変更
  - 検証対象は、地域 MC 協議会と救急懇話会等が連携し、集計データ分析 (別表 2 参照) 等の結果から地域の課題を抽出し追加、変更を検討する。

#### 4. 提出書類

##### 1) 全症例共通

- 救急活動検証票

##### 2) CPA症例（下記から必要とする書類）

- 検証票別紙 1
- 検証票別紙 2
- 病院外心肺機能停止患者記録（ウツタイン）個票
- 口頭指導検証票
- 心電図波形記録

##### 3) 心停止前特定行為関連症例

- 検証票別紙 2

##### 4) 実施基準検証対象症例

- 傷病者の搬送と受入実施基準検証票（以下「実施基準検証票」）

##### 5) その他

- ACS等で必要な場合は心電図波形記録を添付すること。
- 複数傷病者発生事案等では、先着隊活動概要及び他隊連携活動状況がわかる時系列表などを必要があれば添付すること。

#### 5. 各種様式の運用

##### 1) 救急活動検証票

「一次・二次検証」ならびに「医学的検証（検証会議にて実施）」のための救急活動検証票を以下のように運用する。

- 救急活動検証票は、すべての救急搬送事例について検証が可能な様式とし、原則は様式1を使用する。
- 個人情報の取扱いに関しては、傷病者氏名や救急隊員名などの個人が特定できないような検証票の書式構造とする。
- 必要な症例においては、検証票別紙1、検証票別紙2を作成（それぞれ原則は様式2、様式3を使用）する。

##### 2) 実施基準検証票

救急活動検証と併せて実施基準検証を行うために、実施基準検証票を以下のように運用する。

- 実施基準検証票は、大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ORION）に登録されたデータを基に、原則は様式4を使用する。

- 実施基準検証票は、必要に応じて救急活動検証票に添付し、実施基準検証に活用する。
- 実施基準検証票を用いた検証では、適正な **ORION** データが求められることから、各消防本部において、**ORION** への実施基準項目の適正な入力を徹底する。

### 3) 口頭指導検証票

必要な症例においては、口頭指導検証票を用いて検証するよう努める。

- 口頭指導検証票は、救急活動と合わせて検証できる様式とし、例として様式5を提示する。

## 6. 検証の評価

各帳票の記録を基に、次の評価を行う。

救急活動検証票の検証総合評価欄に、検証会議において **A～C** の **3** 段階での判定を付す。実施基準検証症例に対しては、救急隊の搬送と医療機関の受入について、必要に応じ **D** 又は **E** の判定を付す。(別表3 参照)

## 附 則

平成 30 年 3 月 14 日、大阪府救急業務高度化推進連絡協議会で決定

平成 31 年 3 月 31 日、大阪府救急業務高度化推進連絡協議会解散

平成 31 年 4 月 1 日、大阪府救急医療対策審議会救急業務高度化推進に関する部会設置

検証対象分類表

検証対象症例分類			症例内容	対象抽出方法
大分類	中分類	小分類		
救急活動検証	CPA	CPA	救急隊活動の質を担保する必要がある症例	独自システム等
		口頭指導	心肺蘇生に係る口頭指導が実施されていない症例	
	心停止前	ショック	拡大 2 行為ショック輸液関連症例	
		クラッシュ	拡大 2 行為クラッシュ輸液関連症例	
		意識障害	拡大 2 行為低血糖関連症例	
		アドレナリン	エピペン関連症例	
	重症外傷	初期評価	外傷実施基準評価 1・2 該当症例等	
		全身観察	外傷実施基準評価 4 該当症例等	
		状況評価	外傷実施基準評価 3 該当症例等	
	実施基準検証	特定病態	搬送困難	
判断相違			判断不一致症例	
実施基準外			実施基準逸脱症例	
転送転院			三次医療機関または特定機能対応医療機関へ転送または初診時転院となった症例	
搬送困難		緊急度高	赤 1 と判断された症例で搬送連絡 4 回以上	
		単純搬送困難	搬送連絡 11 回以上	
その他			複数傷病者発生事案等、消防本部の判断による	その他

注：一症例につき複数の検証分類に合致する場合には、いずれかの分類で 1 件として提出する。なお分類の優先順位については、以下のとおりとする。

- I 大分類… 救急活動検証＞実施基準検証＞その他
- I 中分類… 救急活動検証：CPA＞心停止前＞重症外傷  
実施基準検証：特定病態＞転送転院＞搬送困難
- I 小分類… CPA：CPA＞口頭指導  
心停止前：ショック＞クラッシュ＞意識障害＞アドレナリン  
重症外傷：初期評価＞全身観察＞状況評価  
特定病態：搬送困難＞判断相違＞実施基準外  
搬送困難：緊急度高＞単純搬送困難



## 集計データの分析

統計情報メニュー	分析項目	内容
01. 実施基準適合率指標情報	実施基準適合率	救急隊が『傷病者の搬送および受入れの実施基準』に従い、救急活動を行った割合
02. 陽性的中率指標情報	陽性的中率と感度	(1) 救急隊がある疾患であると判断した中で、実際にその疾患であった割合（陽性的中率） (2) ある疾患と診断された傷病者の中で、救急隊がその疾患を疑って搬送した割合（感度）
03. 搬送困難事例発生指標情報	医療機関への照会回数 集計	医療機関への照会回数別（特に 4 回以上）の救急搬送件数
04. 圏外搬送率指標情報	圏域外搬送件数	他圏域・他府県へ搬送された救急搬送件数
05. 応需率指標情報	応需率	医療機関への『照会回数』に対する『搬送件数』の比*
06. 初診時処置情報	初診時処置件数	緊急で行われた処置の件数
07. 転帰率指標情報	転帰	初診時・確定時（21 日後）の転帰（死亡・入院・転院・退院・外来のみ）
08. 転院率転送率指標情報	外来からの転院・転送 件数（率）	外来からの転院及び転送の件数（率）
09. 現場滞在時間指標情報	現場滞在時間毎の件数 及び 現着から病着（医師引き継ぎ）時間の集計	現場滞在時間の区分毎（特に 30 分以上）の救急搬送件数  現着から病着（医師引き継ぎ時間）までの時間毎の救急搬送件数
10. 医療機関リスト適合率指標	医療機関リスト適合率	『傷病者の搬送および受入れの実施基準』の緊急度毎に合致したリスト内の医療機関を選定できている割合
11. 不搬送率指標情報	不搬送症例	不搬送の件数と割合、不搬送であった理由別の件数と割合

\* 医療機関ごとの搬送件数や応需率の取扱いについては、各圏域の救急懇話会等において検討する

## 検証評価

救急隊活動評価	A 判定	(1) 救急活動が的確であり、行った処置が傷病者の病状の改善に効果的であったと判断されるもの。 (2) その他傷病者観察や病院選定、伝達内容などにおいて、模範的な優れた病院前救護活動事案であると判断されるもの。
	B 判定	プロトコルに従った活動ができている又は指示どおりの活動が行えていると判断されるもの。
	C 判定	隊活動に問題があり改善を要するもの。(※)
実施基準評価	D 判定	医療機関の対応に問題があると判断されるもの。(※※)
	E 判定	医療体制や実施基準そのもの、あるいはオリオンに問題があると判断されるもの。

## ※ C 判定の基準

- ① 緊急度・重症度判定のための傷病者観察を行っていない
- ② 緊急度・重症度の認識が欠如  
例) 傷病者が心肺危機にあることを認識していない、傷病者の状態が重篤であることを認識していない
- ③ プロトコルに準拠した病院前活動が行っていない  
例) 包括的指示による除細動を行っていない、実施基準と異なる病院選定が行われ、かつその合理的な理由が認められない
- ④ 特定病態判定のための傷病者観察を行っていない  
例) 傷病者観察から明らかに特定病態が判定できる事例において、観察の不備が原因で、判定できず、適切な医療機関を選定できなかった
- ⑤ 医療機関への伝達の不備  
例) 伝達の不備が原因で、適切な医療機関へ搬送できなかった、もしくは搬送が遅延した
- ⑥ 搬送中に必要な傷病者観察、モニターによる監視を行っていない
- ⑦ 傷病者にとって必要な処置を行っていない  
例) 適切な酸素投与を行っていない、気道確保、補助換気などを行っていない
- ⑧ 傷病者搬送に不適切な遅延が認められる
- ⑨ 救急救命士法から逸脱する活動  
例) 医師の指示を受けずに特定行為を行った

※※ D 判定については、今後の院内体制整備やルールの周知徹底に努めてもらうためのものであり、各圏域において十分なコンセンサスが得られたうえで行う。

検 証 票		決 裁
覚知日 平成 年 月 日		
覚知	時 分	
出場	時 分	
現着	時 分	救命士 <input type="checkbox"/> 有( 名) ( <input type="checkbox"/> 隊長 <input type="checkbox"/> 機関員 <input type="checkbox"/> 隊員) <input type="checkbox"/> 無
接触	時 分	
車内収容	時 分	
現発	時 分	
病院着	時 分	<input type="checkbox"/> 搬送 <input type="checkbox"/> 不搬送 不搬送理由 <input type="checkbox"/> 緊急性なし <input type="checkbox"/> 傷病者なし <input type="checkbox"/> 拒否 <input type="checkbox"/> 酩酊 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> 現場処置 <input type="checkbox"/> 誤報 <input type="checkbox"/> その他
帰署	時 分	
連携活動： <input type="checkbox"/> 他救急隊 <input type="checkbox"/> 消防隊 <input type="checkbox"/> 救助隊 <input type="checkbox"/> 医師要請 <input type="checkbox"/> ドクターカー <input type="checkbox"/> ヘリ <input type="checkbox"/> その他( )		
救急指令内容		口頭指導： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 指令員 <input type="checkbox"/> 救急隊 ) 内容：
出場先概要： 才男・女		
医療機関選定理由		
選定経過( ) 選定時間( 分)		
搬送先	市区 科目 医療機関名	
初診時傷病名( ) 確定傷病名( ) 傷病程度 <input type="checkbox"/> 軽症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重症 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> その他		
現場携行資器材 <input type="checkbox"/> 気道確保器材 <input type="checkbox"/> 酸素 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> バグマシ <input type="checkbox"/> バグボート <input type="checkbox"/> ネッカー <input type="checkbox"/> 創傷処置器材 <input type="checkbox"/> バネリブマシ <input type="checkbox"/> 心電計 <input type="checkbox"/> 血圧計 <input type="checkbox"/> 除細動器 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
傷病者接触時情報 現場状況		
主訴または主症状		
発症概要(現病歴)		
通院中病院 <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(病院名： 病名： ) 既往歴( ) ADL <input type="checkbox"/> 機能良好 <input type="checkbox"/> 中等度障害 <input type="checkbox"/> 高度障害 <input type="checkbox"/> 不明		
傷病者接触時所見 意識： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> JCS _____ GCS (E _____ V _____ M _____) 呼吸状態： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 努力様 <input type="checkbox"/> 起坐 <input type="checkbox"/> 奇異 <input type="checkbox"/> 下顎 呼吸数： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 緩徐 <input type="checkbox"/> 頻 回数( 回/分) 呼吸音： <input type="checkbox"/> 調べず 左右差 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(右><左) 喘鳴： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 脈拍： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 微弱 <input type="checkbox"/> 触知不能 数 _____ 回/分 <input type="checkbox"/> 整 <input type="checkbox"/> 不整 (橈骨・大腿・頸) 血圧： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> 右( / mmHg) <input type="checkbox"/> 左( / mmHg) 体温： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> _____ °C		

瞳孔： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右 _____ mm 左 _____ mm 対光反射： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 観察不能 <input type="checkbox"/> 右(+ ± -) <input type="checkbox"/> 左(+ ± -) 共同偏視： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 右方 <input type="checkbox"/> 左方 頸静脈怒張： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 麻痺： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 外出血： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 皮膚： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 湿润 <input type="checkbox"/> 乾燥 <input type="checkbox"/> 蒼白 <input type="checkbox"/> 紅潮 <input type="checkbox"/> 打ノゼ <input type="checkbox"/> 冷感 <input type="checkbox"/> 冷汗 眼瞼結膜： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 正常 <input type="checkbox"/> 貧血 <input type="checkbox"/> 黄疸 熱傷面積： _____ % 気道熱傷： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 疑い(無・有) 四肢変形： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 臭気： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( ) 嘔吐： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 痙攣： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (全身・局所) SpO2： <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 測定不能 <input type="checkbox"/> _____ % (ルミアア・酸素 _____ L下) 心電図：(装着時刻： ) <input type="checkbox"/> 調べず <input type="checkbox"/> 記録不能 <input type="checkbox"/> 所見( ) その他の所見..... ..... .....	様式1 
現場応急処置 気道確保： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有→( <input type="checkbox"/> 用手 <input type="checkbox"/> アイウイ <input type="checkbox"/> 特定器具) 酸素投与： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( _____ L/分) →投与方法 <input type="checkbox"/> ネザル <input type="checkbox"/> マシ <input type="checkbox"/> リザーバー付きマシ <input type="checkbox"/> その他( ) 人工呼吸： <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有→( <input type="checkbox"/> バグ <input type="checkbox"/> 人工呼吸器 <input type="checkbox"/> その他： ) その他：	
車内収容後の観察・判断・応急処置 ①意識②呼吸③脈拍④血圧⑤瞳孔⑥SpO2⑦心電図⑧視診⑨聴診⑩触診 ⑪応急処置 ⑫搬送体位	
_____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 _____ 時 _____ 分 病院到着前 _____	_____ _____ _____ _____ _____ _____
隊 長 総 括	
活動一次検証 検証者印	活動二次検証 検証者印
検証総合評価 <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C 検証医師名(サイン) _____ (サイン) _____ 検証医所見 <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E	

検証票別紙1:心肺機能停止後、除細動・器具を用いた気道確保・静脈路確保・薬剤投与  
( 消防本部 )

傷病者 容態	初回	意識	JCS-	GCS-E: V: M:	呼吸数	回/分	脈拍数	回/分	波形		
	備考									心停止 目撃	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
隊員 資格	救命士	人	資格	<input type="checkbox"/> 挿管(硬性鏡) <input type="checkbox"/> ビデオ <input type="checkbox"/> 薬剤	備考						
指示要請医療機関											
除細動	1回目	実施 場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	実施 時刻	:	<input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 半自動式除細動器	実施前 波形	実施後 波形	心拍 再開	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	2回目	実施 場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	実施 時刻	:	<input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 半自動式除細動器	実施前 波形	実施後 波形	心拍 再開	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	3回目	実施 場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	実施 時刻	:	<input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 半自動式除細動器	実施前 波形	実施後 波形	心拍 再開	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
	備考										
医師の 指示 時刻 内容	:										
	備考										
器具を用いた 気道確保	適応 理由	<input type="checkbox"/> BVM人工呼吸では換気困難 <input type="checkbox"/> 搬送中の確実な換気 <input type="checkbox"/> その他( )									
	気管 挿管 中止理由	<input type="checkbox"/> 硬性喉頭鏡 適応外理由 <input type="checkbox"/> 顎頸損傷疑い <input type="checkbox"/> 頭部後屈困難 <input type="checkbox"/> 喉頭展開困難 <input type="checkbox"/> 手技に時間がかかる <input type="checkbox"/> ビデオ喉頭鏡 中止理由 <input type="checkbox"/> 開口、喉頭鏡挿入が困難 <input type="checkbox"/> 声門確認できず(コーマックグレードI以外) <input type="checkbox"/> その他( )									
	実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	施行回数	回	結果	<input type="checkbox"/> 成功 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 抜去	完了・中止時刻	:			
	カフ容量	ml	固定位置	cm	<input type="checkbox"/> 門歯 <input type="checkbox"/> 口角	抜去時刻	:				
	中止・抜去理由	<input type="checkbox"/> 挿入時抵抗感 <input type="checkbox"/> 上腹部ポコポコ音 <input type="checkbox"/> 胸壁の拳上なし <input type="checkbox"/> その他( )									
	その他の器具	<input type="checkbox"/> 初回 <input type="checkbox"/> 気管挿管中止、抜去後	使用器具	<input type="checkbox"/> ラリゲアルマスク <input type="checkbox"/> アイジェル <input type="checkbox"/> 食道閉鎖式( )							
	抜去時刻	:	中止・抜去理由	<input type="checkbox"/> 挿入時抵抗感 <input type="checkbox"/> 上腹部ポコポコ音 <input type="checkbox"/> 胸壁の拳上なし <input type="checkbox"/> その他( )							
	カフメーター	波形	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 不良 <input type="checkbox"/> 無	CO2圧	mmHg	備考					
	実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	穿刺回数	回	結果	<input type="checkbox"/> 成功 <input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 抜去					
	穿刺部位	<input type="checkbox"/> 橈側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 尺側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 肘正中皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> その他( )									
留置針サイズ	G	完了・中止時刻	:	抜去時刻	:	手技上の課題	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )				
未実施・中止・抜去理由	<input type="checkbox"/> 心拍再開 <input type="checkbox"/> 搬送を優先 <input type="checkbox"/> うっ血なし <input type="checkbox"/> 逆血なし <input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> その他( )							成功・抜去時 総輸液量	ml		
備考											
薬剤投与	1回目	投与前波形	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止(目撃有) <input type="checkbox"/> 心静止(目撃無)	2分後 チェック	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止 <input type="checkbox"/> 心拍再開						
		投与せず理由	<input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> 心拍再開 <input type="checkbox"/> その他( )								
	2回目	投与前波形	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止(目撃有) <input type="checkbox"/> 心静止(目撃無)	2分後 チェック	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止 <input type="checkbox"/> 心拍再開						
		投与せず理由	<input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> 心拍再開 <input type="checkbox"/> その他( )								
	3回目	投与前波形	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止(目撃有) <input type="checkbox"/> 心静止(目撃無)	2分後 チェック	<input type="checkbox"/> Vf <input type="checkbox"/> 無脈性VT <input type="checkbox"/> PEA <input type="checkbox"/> 心静止 <input type="checkbox"/> 心拍再開						
	投与せず理由	<input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> 心拍再開 <input type="checkbox"/> その他( )									
投与回数	回	備考									

○初診時医師所見

初診時医師署名:

来院時	換気	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	心拍再開	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	来院時心電図波形						
挿管チューブの位置	<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 浅 <input type="checkbox"/> 深 <input type="checkbox"/> 食道 <input type="checkbox"/> その他( )										
挿管チューブの固定	<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 緩い <input type="checkbox"/> その他( )							リーク	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
輸液路	<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 自然抜去 <input type="checkbox"/> その他( )							静脈路 固定	<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 緩い <input type="checkbox"/> その他( )		
コメント											

検証票別紙2:心肺機能停止前、血糖測定・ブドウ糖投与・輸液

( 消防本部 )

傷病者 容態	初回	意識	JCS-	GCS-E:	V:	M:	呼吸数	回/分	脈拍数	回/分	血圧	/	mmHg
	気道異常	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	気道開通	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	換気異常	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	補助換気	<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	酸素投与	開始時刻	:		
	酸素投与量	L	投与方法	<input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 経鼻 <input type="checkbox"/> リザーバー付マスク	<input type="checkbox"/> BVM	SpO <sub>2</sub> モニター	装着時刻	:	SpO <sub>2</sub>	%			
	皮膚所見	<input type="checkbox"/> 蒼白 <input type="checkbox"/> 冷感 <input type="checkbox"/> 湿潤 <input type="checkbox"/> 紅潮 <input type="checkbox"/> 温感 <input type="checkbox"/> 乾燥 <input type="checkbox"/> その他( )	その他 ショック徴候										
備考													

□血糖測定及びブドウ糖溶液投与

血糖測定	適応外	<input type="checkbox"/> 気道・換気・循環異常による内因性L&G <input type="checkbox"/> 脳卒中疑い <input type="checkbox"/> JCS<10 <input type="checkbox"/> 推定15歳未満													
	その他未実施理由	<input type="checkbox"/> 同意得られず <input type="checkbox"/> その他( )													
実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	穿刺回数	回	穿刺部位									測定時刻	:	
血糖値	mg/dl	測定不可理由	<input type="checkbox"/> 十分な血液出ず <input type="checkbox"/> 機器操作ミス <input type="checkbox"/> 機器作動不良 <input type="checkbox"/> その他( )												
指示要請	<input type="checkbox"/> 低血糖のため要請 <input type="checkbox"/> 低血糖であるが要請せず		指示要請医療機関												
医師の 指示 時刻 内容	:														
	:														
備考															
静脈路 確保	実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	穿刺回数	回	結果	<input type="checkbox"/> 成功 <input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 抜去									
	穿刺部位	<input type="checkbox"/> 橈側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 尺側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 肘正中皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> その他( )													
	留置針サイズ	G	完了・中止時刻	:	抜去時刻	:	手技上の課題	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )							
指示要請せず・未実施・中止・抜去理由	<input type="checkbox"/> 同意が得られず <input type="checkbox"/> 不穏状態 <input type="checkbox"/> 搬送を優先(予想搬送時間: 分)														
	<input type="checkbox"/> うっ血なし <input type="checkbox"/> 逆血なし <input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> その他( )														
ブドウ糖 投与	実施	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 中止	実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	投与時刻	:	意識レベルの改善	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有							
	未実施・中止理由	<input type="checkbox"/> 不穏状態 <input type="checkbox"/> 漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 疼痛 <input type="checkbox"/> その他( )										実施・中止時 総投与量	ml		
備考															

□心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液

適応病態	<input type="checkbox"/> 増悪するショック <input type="checkbox"/> クラッシュ症候群の疑い <input type="checkbox"/> ショックの種類 <input type="checkbox"/> 循環血液量減少性 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー <input type="checkbox"/> 敗血症性 <input type="checkbox"/> 神経原性 <input type="checkbox"/> その他( )											
増悪するショックの判断根拠	<input type="checkbox"/> 出血の持続 <input type="checkbox"/> 意識障害の進行 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー <input type="checkbox"/> 熱中症 <input type="checkbox"/> その他( )											
静脈路確保の判断	<input type="checkbox"/> 救出に時間がかかる <input type="checkbox"/> 病院選定ができていない <input type="checkbox"/> 現場から病院までの予想走行時間が20分以上 <input type="checkbox"/> その他( )											
指示要請	<input type="checkbox"/> 適応症例のため要請 <input type="checkbox"/> 適応症例であるが要請せず		指示要請医療機関									
医師の 指示 時刻 内容	:											
	:											
備考												
静脈路 確保 輸液	実施場所	<input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 救急車内	穿刺回数	回	結果	<input type="checkbox"/> 成功 <input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 抜去						
	穿刺部位	<input type="checkbox"/> 橈側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 尺側皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> 肘正中皮静脈(右・左) <input type="checkbox"/> その他( )										
	留置針サイズ	G	完了・中止時刻	:	抜去時刻	:	手技上の課題	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )				
指示要請せず・未実施・中止・抜去理由	<input type="checkbox"/> 同意が得られず <input type="checkbox"/> 不穏状態 <input type="checkbox"/> 搬送を優先(病院選定後予想搬送時間: 分)											
	<input type="checkbox"/> うっ血なし <input type="checkbox"/> 逆血なし <input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> その他( )											
											成功・抜去時 総輸液量	ml
備考												

○病着時救急隊が記載する事項

病着時	意識	JCS	GCS E:	V:	M:	呼吸数	回/分	脈拍数	回/分	血圧	/	mmHg	血糖値	mg/dl
-----	----	-----	--------	----	----	-----	-----	-----	-----	----	---	------	-----	-------

○初診時医師所見

初診時医師署名:

来院時	換気	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良	酸素化	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不良	静脈路	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 滴下不良 <input type="checkbox"/> 穿刺部の漏れ、腫れ <input type="checkbox"/> その他( )
ショックの種類	<input type="checkbox"/> 循環血液量減少性 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー <input type="checkbox"/> 敗血症性 <input type="checkbox"/> 神経原性 <input type="checkbox"/> 心原性 <input type="checkbox"/> 閉塞性 <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> ショックでない					
初診時疑い病名						
コメント						



<b>口頭指導検証票</b>		検証票No. _____			消防本部					
口頭指導員記録欄	入電日時	年 月 日 ( ) 時 分 秒								
	指令日時	年 月 日 ( ) 時 分 秒								
	口頭指導員	指令業務 経験年数	年	年齢	才	資格	<input type="checkbox"/> 救命士 ( <input type="checkbox"/> 再教育対象 <input type="checkbox"/> 再教育対象外 ) <input type="checkbox"/> 救急隊員 <input type="checkbox"/> 応急手当指導員 <input type="checkbox"/> 無			
	通報者属性	<input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 同僚 <input type="checkbox"/> 福祉施設職員等 (医師・看護師除) <input type="checkbox"/> 医療従事者 <input type="checkbox"/> 教職員 <input type="checkbox"/> 通行人 <input type="checkbox"/> 警察官 ( <input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 基地局 ) <input type="checkbox"/> 依頼通報者 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
	通報内容									
	反応(意識)の判断	<input type="checkbox"/> 反応あり <input type="checkbox"/> 反応なし <input type="checkbox"/> 不明・その他 ( )								
	呼吸の判断	<input type="checkbox"/> 普段通りの呼吸あり <input type="checkbox"/> 普段通りの呼吸なし ( <input type="checkbox"/> 呼吸なし <input type="checkbox"/> いびき呼吸 <input type="checkbox"/> あえぎ呼吸 <input type="checkbox"/> その他 ; ) <input type="checkbox"/> 不明・その他 ( )								
	CPA認知判断	<input type="checkbox"/> CPAと判断 <input type="checkbox"/> 非CPAと判断 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
	認知例	認知日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分 秒							
		認知した タイミング	<input type="checkbox"/> 初回通報時 <input type="checkbox"/> 再通報時(2回目以降) <input type="checkbox"/> かけ直し ( <input type="checkbox"/> 口頭指導員 <input type="checkbox"/> 出動救急隊 ) <input type="checkbox"/> その他 ( )							
<input type="checkbox"/> 指導 可能		指導 手技	<input type="checkbox"/> 胸骨圧迫 <input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 気道確保 <input type="checkbox"/> 人工呼吸 <input type="checkbox"/> その他 ; )							
<input type="checkbox"/> 指導 不能		(複数 選択可)	通報者要因	<input type="checkbox"/> 拒否 <input type="checkbox"/> 精神的(興奮・恐怖等) <input type="checkbox"/> 年齢的(高齢・幼児等) <input type="checkbox"/> 知識的(知識なし・確認に時間を要した等) <input type="checkbox"/> 場所的(依頼通報等で遠い)						
			現場要因	<input type="checkbox"/> 既にCPR実施中 <input type="checkbox"/> 二次災害危険等で接触不能						
	傷病者要因		<input type="checkbox"/> 硬直等 <input type="checkbox"/> 位置的(縊頭・浴槽内等) <input type="checkbox"/> DNARの確認あり							
	指令室要因		<input type="checkbox"/> 人手不足 <input type="checkbox"/> 説明力不足 <input type="checkbox"/> 通信不安定 <input type="checkbox"/> マニュアル等の不備							
		その他要因	( )							
非認知例	CPA非認知 判断根拠	<input type="checkbox"/> 反応ありと判断 <input type="checkbox"/> 普段通りの呼吸ありと判断 <input type="checkbox"/> その他生命兆候ありと判断 ( <input type="checkbox"/> 体動 <input type="checkbox"/> 痙攣 <input type="checkbox"/> 脈触知 <input type="checkbox"/> その他 ; ) <input type="checkbox"/> CPAの断定不能 ( <input type="checkbox"/> 通報者要因 <input type="checkbox"/> 現場要因 <input type="checkbox"/> 指令室要因 ) ※指導不能理由項目参照 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
		備考 (口頭指導員コメント等)								
救急隊記録欄	隊名	救急隊								
	実施有無	<input type="checkbox"/> あり ( <input type="checkbox"/> 隊現認 <input type="checkbox"/> 隊現認無いが申告等で確認 ) <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明								
		実施者属性	<input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 同僚 <input type="checkbox"/> 福祉施設職員等 (医師・看護師除) <input type="checkbox"/> 医療従事者 <input type="checkbox"/> 教職員 <input type="checkbox"/> 通行人 <input type="checkbox"/> 警察官 ( <input type="checkbox"/> 現場 <input type="checkbox"/> 基地局 ) <input type="checkbox"/> 依頼通報者 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
	実施処置 (複数可)	<input type="checkbox"/> 胸骨圧迫 <input type="checkbox"/> AED (ショック実施 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし) <input type="checkbox"/> 気道確保 <input type="checkbox"/> 人工呼吸 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
		評価	胸骨圧迫	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切 ( <input type="checkbox"/> 位置 <input type="checkbox"/> 深さ <input type="checkbox"/> リズム <input type="checkbox"/> リコイル ) <input type="checkbox"/> 未確認						
		他の処置	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切処置あり ( <input type="checkbox"/> AED <input type="checkbox"/> 気道確保 <input type="checkbox"/> 人工呼吸 <input type="checkbox"/> その他 ; )							
	現場状況 (バイスタンダーの 活動状況等)									
隊接触時判断	<input type="checkbox"/> CPA ⇒ ( <input type="checkbox"/> 搬送 <input type="checkbox"/> 死亡不搬送 ) <input type="checkbox"/> 非CPA ⇒ ( JCS <input type="checkbox"/> 1桁 <input type="checkbox"/> 2桁 <input type="checkbox"/> 3桁 )									
心拍再開有無	<input type="checkbox"/> あり (救急隊到着 <input type="checkbox"/> 前 <input type="checkbox"/> 後 ) <input type="checkbox"/> なし ※非CPA判断時記載不要									
検証医コメント		検証医師名		(サイン) _____		(サイン) _____				